

## 【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2024年6月27日
【事業年度】	第101期（自 2023年4月1日 至 2024年3月31日）
【会社名】	日油株式会社
【英訳名】	NOF CORPORATION
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 沢村 孝司
【本店の所在の場所】	東京都渋谷区恵比寿四丁目20番3号
【電話番号】	東京03(5424)6600(代表)
【事務連絡者氏名】	執行役員経理部長 泉澤 強
【最寄りの連絡場所】	東京都渋谷区恵比寿四丁目20番3号
【電話番号】	東京03(5424)6600(代表)
【事務連絡者氏名】	執行役員経理部長 泉澤 強
【縦覧に供する場所】	日油株式会社大阪支社 （大阪市北区堂島二丁目4番27号） 日油株式会社名古屋支店 （名古屋市中村区名駅南一丁目24番30号） 株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

## 第一部【企業情報】

## 第1【企業の概況】

## 1【主要な経営指標等の推移】

## (1)連結経営指標等

回次	第97期	第98期	第99期	第100期	第101期
決算年月	2020年3月	2021年3月	2022年3月	2023年3月	2024年3月
売上高 (百万円)	180,917	172,645	192,642	217,709	222,252
経常利益 (百万円)	28,830	28,870	37,624	43,183	45,577
親会社株主に帰属する当期純利益 (百万円)	21,140	23,302	26,690	33,973	33,990
包括利益 (百万円)	11,810	31,606	28,922	33,389	42,600
純資産額 (百万円)	178,716	203,516	221,706	240,002	265,907
総資産額 (百万円)	235,248	271,536	289,630	309,438	341,449
1株当たり純資産額 (円)	713.66	816.20	896.88	986.85	1,109.01
1株当たり当期純利益 (円)	83.91	93.50	107.92	139.01	141.17
潜在株式調整後1株当たり当期純利益 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	75.64	74.68	76.28	77.29	77.61
自己資本利益率 (%)	11.90	12.24	12.60	14.77	13.48
株価収益率 (倍)	13.63	20.64	15.50	14.80	14.77
営業活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	27,837	30,726	27,393	23,333	29,970
投資活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	4,838	1,894	8,755	709	14,964
財務活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	11,287	8,042	15,312	16,170	17,101
現金及び現金同等物の期末残高 (百万円)	50,684	76,596	81,431	89,081	87,509
従業員数 (名)	3,718	3,755	3,787	3,818	3,879

(注) 1 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 当社は、株式給付信託(BBT)を導入し、当該信託が所有する当社株式を連結財務諸表において自己株式として計上しております。これに伴い、1株当たり純資産額の算定上、当該信託が所有する当社株式を期末発行済株式総数から控除する自己株式に含めております。また、1株当たり当期純利益の算定上、当該信託が所有する当社株式を普通株式の期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております。

3 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第99期の期首から適用しております。

4 2024年4月1日付で普通株式1株につき3株の割合で株式分割を行っております。第97期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり純資産額、1株当たり当期純利益を算定しております。

## (2) 提出会社の経営指標等

回次	第97期	第98期	第99期	第100期	第101期
決算年月	2020年3月	2021年3月	2022年3月	2023年3月	2024年3月
売上高 (百万円)	122,371	119,168	135,865	155,139	156,410
経常利益 (百万円)	23,071	24,196	31,528	38,259	42,037
当期純利益 (百万円)	18,308	21,495	23,256	31,334	33,214
資本金 (百万円)	17,742	17,742	17,742	17,742	17,742
発行済株式総数 (千株)	84,841	84,841	82,841	82,841	80,841
純資産額 (百万円)	142,251	162,277	175,008	188,866	210,504
総資産額 (百万円)	201,890	233,654	243,027	258,496	281,120
1株当たり純資産額 (円)	570.54	653.15	710.47	779.27	880.93
1株当たり配当額 (円)	78.00	80.00	90.00	108.00	114.00
(内1株当たり中間配当額) (円)	(39.00)	(39.00)	(43.00)	(50.00)	(56.00)
1株当たり当期純利益 (円)	72.67	86.25	94.04	128.21	137.95
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	70.46	69.45	72.01	73.06	74.88
自己資本利益率 (%)	12.82	14.12	13.79	17.22	16.63
株価収益率 (倍)	15.73	22.38	17.79	16.04	15.12
配当性向 (%)	35.78	30.92	31.90	28.08	27.55
従業員数 (名)	1,675	1,715	1,737	1,762	1,794
株主総利回り (%)	93.05	157.77	139.73	173.10	178.42
(比較指標: TOPIX配当込み) (%)	(90.50)	(128.63)	(131.18)	(138.81)	(196.19)
最高株価 (円)	4,160	6,000	6,880	6,210	7,364
最低株価 (円)	2,797	3,185	4,455	4,420	5,760

(注) 1 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 最高株価及び最低株価は2022年4月4日より東京証券取引所プライム市場におけるものであり、それ以前については東京証券取引所市場第一部におけるものであります。

3 当社は、株式給付信託(BBT)を導入し、当該信託が所有する当社株式を財務諸表において自己株式として計上しております。これに伴い、1株当たり純資産額の算定上、当該信託が所有する当社株式を期末発行済株式総数から控除する自己株式に含めております。また、1株当たり当期純利益の算定上、当該信託が所有する当社株式を普通株式の期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております。

4 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第99期の期首から適用しております。

5 2024年4月1日付で普通株式1株につき3株の割合で株式分割を行っております。第97期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり純資産額、1株当たり当期純利益を算定しております。

## 2【沿革】

当社は、1921年、わが国硬化油工業の始祖ともいべきスタンダード油脂株式会社（1931年合同油脂と改称、旧王子工場）を母体として発足し、その後、ベルベット石鹸（現在の尼崎工場）、国産工業株式会社不二塗料製造所（旧川崎工場）等を合併して1937年（旧）日本油脂株式会社と改称しました。次いで、1943年までに帝国火薬工業株式会社（現在の愛知事業所）のほか、日本の化学工業界で古い歴史と優秀な技術を有する各社を吸収合併するとともに、三国工場（塗料）、神明工場（溶接棒）を開設して総合化学会社としての基礎を確立しました。

さらに、1945年日本鉱業株式会社から化学部門の営業譲渡を受け、同時に日産化学工業株式会社と改称しましたが、1949年7月企業再建整備法に基づいて、当社はその油脂・塗料・火薬および溶接棒に関する事業を継承する第二会社として分離独立し、旧名称を踏襲して日本油脂株式会社としました。

設立以降の変遷は次のとおりであります。

1970年6月	帝国火工品製造株式会社を吸収合併
1973年6月	米国のDIAMOND SHAMROCK CORPORATIONと合併で株式会社日本ダクロシャムロック（現・NOFメタルコーティングス株式会社、現・連結子会社）を設立
1977年6月	大分市に大分工場を開設
1980年12月	川越工場を分離し、日油技研工業株式会社（現・連結子会社）を設立
1983年2月	筑波研究所（現・先端技術研究所）を開設
1984年9月	米国のDIAMOND SHAMROCK CHEMICALS COMPANYと合併で米国にMETAL COATINGS INTERNATIONAL INC.（現・NOF METAL COATINGS NORTH AMERICA INC.、現・連結子会社）を設立
1988年3月	決算期日を11月30日から3月31日に変更
1988年12月	米国にNOF AMERICA CORPORATION（現・連結子会社）を設立
1994年3月	美唄工場を廃止し、子会社である北海道日本油脂株式会社（現・日本工機株式会社）に業務を移管
1994年7月	ベルギーにNOF EUROPE N.V.を設立
1994年11月	本店を千代田区から渋谷区に移転
1995年11月	インドネシアのPT.SINAR MAS TUNGGALおよび丸紅株式会社と合併でインドネシアにPT.NOF MAS CHEMICAL INDUSTRIES（現・連結子会社）を設立
1996年2月	日本カーリット株式会社および日本工機株式会社と合併で株式会社ジャパックス（現・連結子会社）を設立
1999年10月	日本工機株式会社（現・連結子会社）の発行済株式の95%を取得
1999年12月	新規事業開発部を「ライフサイエンス事業部」へ名称変更
2000年3月	株式会社タセトへ溶接事業を譲渡し、溶接事業部を廃止するとともに神明工場を閉鎖
2000年9月	塗料事業を日本油脂ピーエーエスエフコーティングス株式会社（2003年4月、日本油脂BASFコーティングス株式会社に商号変更）に営業譲渡
2001年4月	電子材料関連技術の集約と効率的な事業開発を目的として、「電材事業開発部」を新設
2001年4月	PT.SINAR MAS TUNGGALからPT.NOF MAS CHEMICAL INDUSTRIES（現・連結子会社）の全保有株式を取得
2001年10月	薬物送達システム向け素材事業を拡充するため、「DDS事業開発部」を新設
2002年4月	当社グループの物流の合理化、効率化を目的として、日油自動車運輸株式会社（連結子会社）を日油サービス株式会社（連結子会社）に吸収合併することにより統合
2002年9月	株式会社アグロメテック（連結子会社）、ニチユビルド株式会社（連結子会社）および日本ベッドイアボン株式会社（持分法非適用関連会社）を統合し、ニチユソリューション株式会社（連結子会社）を設立
2002年11月	NOF EUROPE N.V.からNOF EUROPE (BELGIUM) N.V.（連結子会社）を分離するとともにNOF EUROPE N.V.をDACRAL MANUFACTURING N.V.（現・NOF METAL COATINGS EUROPE N.V.、現・連結子会社）に商号変更
2003年4月	日本油業株式会社（連結子会社）を油化産業株式会社（現・連結子会社）に吸収合併することにより統合
2004年4月	株式会社タセト（連結子会社）の当社保有全株式を、神鋼タセト株式会社（持分法非適用関連会社）へ譲渡

2004年10月 日武産業株式会社（連結子会社）を日油サービス株式会社（連結子会社）に吸収合併することにより統合するとともに、ニチユ物流株式会社（現・連結子会社）に商号変更

2004年10月 中国江蘇省に常熟日油化工有限公司（現・連結子会社）を設立

2005年 3月 日本油脂BASFコーティングス株式会社の全保有株式をBASFコーティングス社へ譲渡

2006年 4月 株式会社ニッカコーティング、KOREA SHAMROCK CO.,LTD.（現・NOF METAL COATINGS KOREA CO.,LTD.）を連結子会社化

2006年 6月 「防錆部門」を新設

2007年 4月 神鋼タセト株式会社の全保有株式を株式会社神戸製鋼所へ譲渡

2007年10月 社名を「日本油脂株式会社」から「日油株式会社」に変更

2007年10月 「機能フィルム事業部」を新設、「DDS事業開発部」を「DDS事業部」に名称変更

2007年10月 北海道日本油脂株式会社が社名を北海道日油株式会社に変更

2009年 4月 ニチユソリューション株式会社（連結子会社）を油化産業株式会社（現・連結子会社）に吸収合併することにより統合

2010年 4月 株式会社日本ダクロシャムロックをNOFメタルコーティングス株式会社（現・連結子会社）に、また、防錆事業の海外子会社 6社の商号をそれぞれ変更

2010年 9月 日油技研工業株式会社を株式交換により完全子会社化

2011年 2月 中国上海市に日油（上海）商貿有限公司（現・連結子会社）を設立

2013年 4月 「機能フィルム事業部」と「電材事業開発部」を統合し、「ディスプレイ材料事業部」を新設

2014年11月 ドイツにNOF EUROPE GmbH（現・連結子会社）を設立（NOF EUROPE (BELGIUM) N.V.廃止）

2020年 4月 「ディスプレイ材料事業部」を「化成事業部」に統合

2020年 4月 恩欧富塗料商貿（上海）有限公司を連結子会社化

2022年 4月 東京証券取引所の市場区分見直しにより、東京証券取引所の市場第一部からプライム市場に移行

2023年 4月 「油化事業部」と「化成事業部」を統合し「機能材料事業部」を新設、「ライフサイエンス事業部」と「DDS事業部」を統合し「ライフサイエンス事業部」を新設

2024年 4月 北海道日油株式会社（連結子会社）を日本工機株式会社（現・連結子会社）に吸収合併することにより統合

### 3【事業の内容】

当社の企業集団は、当社、子会社31社（内 在外13社）、および関連会社5社（内 在外0社）で構成され、機能化学品、医薬・医療・健康、化薬に関連する事業を主として行っており、その他、運送および不動産等の事業活動を展開しております。

当社グループの事業に関わる当社および関係会社の位置付けおよびセグメントとの関連は、次のとおりであります。

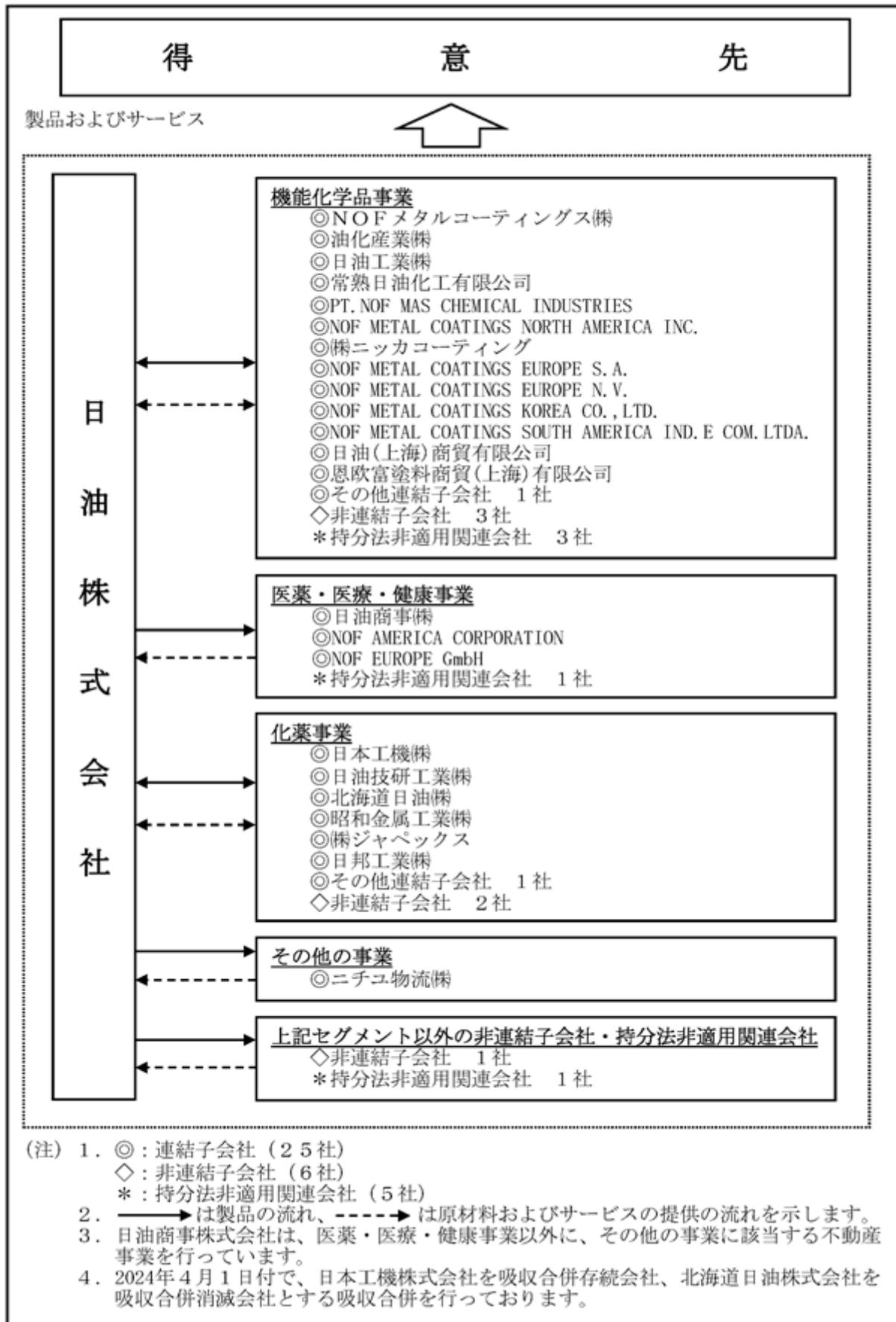
当連結会計年度より従来「ライフサイエンス事業」と表示していた報告セグメントの名称を「医薬・医療・健康事業」に変更しております。なお、主要製品の呼称につきましても「食用加工油脂」を「食用加工油脂・食品機能材」に、「機能食品関連製品（栄養食品、健康関連製品）」を「健康関連製品」に変更しております。

また、連結子会社であるNOF EUROPE GmbHにつきましては、従来「機能化学品事業」に含めておりましたが、当該子会社の業務管理区分を見直し、「医薬・医療・健康事業」に含めて表示する方法に変更しております。

区分	主要製品	主要な会社
機能化学品事業	脂肪酸、脂肪酸誘導体 界面活性剤 エチレンオキサイド・ プロピレンオキサイド誘導体 有機過酸化物 石油化学品（ポリブテン等） 機能性ポリマー 電子材料（液晶表示関連材料等）	（製造・販売） 当社 日油工業(株) 常熟日油化工有限公司 PT.NOF MAS CHEMICAL INDUSTRIES （販売） 油化産業(株) 日油（上海）商貿有限公司
	特殊防錆処理剤	（製造・販売） NOFメタルコーティングス(株) NOF METAL COATINGS NORTH AMERICA INC. NOF METAL COATINGS EUROPE S.A. NOF METAL COATINGS KOREA CO.,LTD. （販売） 恩欧富塗料商貿（上海）有限公司
医薬・医療・健康事業	食用加工油脂・食品機能材 健康関連製品 生体適合性素材 （MPCポリマー、MPCモノマー等） D D S 医薬用製剤原料 （活性化PEG、機能性脂質、医薬用界面 活性剤）	（製造・販売） 当社 （販売） 日油商事(株) NOF AMERICA CORPORATION NOF EUROPE GmbH
化薬事業	産業用爆薬類 宇宙関連製品 防衛関連製品 機能製品	（製造・販売） 当社 日本工機(株) 日油技研工業(株) 北海道日油(株) 昭和金属工業(株) 日邦工業(株) （販売） (株)ジャベックス
その他の事業	運送 不動産	（運送） ニチュ物流(株) （不動産） 日油商事(株)

（注）2024年4月1日付で、日本工機株式会社を吸収合併存続会社、北海道日油株式会社を吸収合併消滅会社とする吸収合併を行っております。

以上の企業集団について事業の系統図を示すと次のとおりであります。



## 4【関係会社の状況】

名称	住所	資本金または出資金 (百万円)	主要な事業の内容	議決権の 所有割合 (%)	関係内容	摘要
(連結子会社)						
日本工機(株)	東京都港区	2,000	化薬	95.0	当社製品の製造および当該子会社の製造品の受託製造 設備資金の貸付 資金の貸付および預り( )	注2 注5
日油技研工業(株)	埼玉県川越市	1,478	化薬	100.0	当社製品の製造 資金の貸付および預り( )	
北海道日油(株)	北海道美唄市	220	化薬	100.0	当社製品の製造 土地の賃貸 設備資金の貸付 資金の貸付および預り( )	注5
NOFメタル コーティングス(株)	川崎市川崎区	186	機能化学 品	100.0	資金の貸付および預り( )	
昭和金属工業(株)	茨城県桜川市	98	化薬	98.3	当社製品の製造 資金の貸付および預り( )	
(株)ジャペックス	東京都港区	100	化薬	70.0 (25.0)	当社製品の販売 資金の貸付および預り( )	
日油商事(株)	東京都渋谷区	60	医薬・医 療・健康 その他	100.0	当社製品の販売 資金の貸付および預り( )	
ニチユ物流(株)	川崎市川崎区	50	その他	100.0	当社製品の運送 資金の貸付および預り( )	
日邦工業(株)	静岡県裾野市	50	化薬	98.6	資金の貸付および預り( )	
油化産業(株)	東京都渋谷区	44	機能化学 品	100.0	当社製品の販売 資金の貸付および預り( )	注2
日油工業(株)	大阪府高槻市	10	機能化学 品	100.0	当社製品の製造 資金の貸付および預り( )	
常熟日油化工有限公司	中国	千元 156,852	機能化学 品	100.0		注2
PT.NOF MAS CHEMICAL INDUSTRIES	インドネシア	千US.\$ 17,500	機能化学 品	89.6		注2
NOF METAL COATINGS NORTH AMERICA INC.	米国 オハイオ州	千US.\$ 1	機能化学 品	100.0		
NOF METAL COATINGS EUROPE S.A.	フランス	千EUR 3,000	機能化学 品	100.0		
NOF AMERICA CORPORATION	米国 ニューヨーク州	US.\$ 100	医薬・医 療・健康	100.0	当社製品の販売	注2
日油(上海) 商貿有限公司	中国	千元 12,794	機能化学 品	100.0	当社製品の販売	
NOF EUROPE GmbH	ドイツ	千EUR 25	医薬・医 療・健康	100.0	当社製品の販売	

名称	住所	資本金または出資金 (百万円)	主要な事業の内容	議決権の所有割合 (%)	関係内容	摘要
(株)ニッカコーティング	埼玉県吉川市	210	機能化学 品	100.0 (100.0)	資金の貸付および預り( )	
(株)カクタス	東京都文京区	40	化薬	100.0 (100.0)	資金の貸付および預り( )	
NOF METAL COATINGS EUROPE N.V.	ベルギー	千EUR 2,500	機能化学 品	100.0 (100.0)		
NOF METAL COATINGS KOREA CO.,LTD.	韓国	百万WON 200	機能化学 品	100.0 (100.0)		
NOF METAL COATINGS EUROPE s.r.l.	イタリア	千EUR 100	機能化学 品	100.0 (100.0)		
NOF METAL COATINGS SOUTH AMERICA IND.E COM.LTDA.	ブラジル	千R\$ 824	機能化学 品	100.0 (100.0)		
恩欧富塗料商貿(上海) 有限公司	中国	千元 4,008	機能化学 品	100.0 (100.0)		

- (注) 1 主要な事業の内容欄には、セグメントの名称を記載しております。
- 2 日本工機(株)、油化産業(株)、常熟日油化工有限公司、PT.NOF MAS CHEMICAL INDUSTRIES、NOF AMERICA CORPORATIONは特定子会社に該当しております。
- 3 議決権の所有割合の( )内の数値は、間接所有割合(内数)であります。また、議決権の所有割合は、小数点第2位以下を切り捨てて表示しております。
- 4 は、当社グループ会社内の資金を集中管理するシステムによる資金の貸付および預りであります。
- 5 2024年4月1日付で日本工機株式会社を吸収合併存続会社、北海道日油株式会社を吸収合併消滅会社とする吸収合併を行っております。

## 5【従業員の状況】

### (1)連結会社の状況

2024年3月31日現在

セグメントの名称	従業員数(名)
機能化学品事業	1,611
医薬・医療・健康事業	473
化薬事業	1,290
その他の事業	289
全社(共通)	216
合計	3,879

(注)1.従業員数は就業人員数(当社グループからグループ外への出向者を除き、グループ外から当社グループへの出向者を含む。)であります。

2.全社(共通)として記載されている従業員数は、管理部門に所属しているものであります。

### (2)提出会社の状況

2024年3月31日現在

従業員数(名)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(円)
1,794	43.4	18.4	8,175,271

(注)1.従業員数は就業人員数(当社から社外への出向者を除き、社外から当社への出向者を含む。)であります。

2.平均年間給与は、賞与および基準外賃金を含んでいます。

セグメントの名称	従業員数(名)
機能化学品事業	790
医薬・医療・健康事業	438
化薬事業	366
その他の事業	-
全社(共通)	200
合計	1,794

(注)1.従業員数は就業人員数(当社から社外への出向者を除き、社外から当社への出向者を含む。)であります。

2.全社(共通)として記載されている従業員数は、管理部門に所属しているものであります。

### (3)労働組合の状況

労使関係について特記すべき事項はありません。

(4) 管理職に占める女性従業員の割合、男性従業員の育児休業取得率及び従業員の男女の賃金の差異  
提出会社

当事業年度					補足説明
管理職に占める女性従業員の割合(%) (注)1.	男性従業員の育児休業取得率(%) (注)2.	従業員の男女の賃金の差異(%) (注)1.			
		全従業員	うち正規雇用従業員	うち有期雇用者	
5.2	97.4	72.0	72.6	84.5	男女の賃金に差異が生じる理由 ・男女間の平均勤続年数に差が生じたため ・製造部門における交替勤務の従事者が男性のみであり、交替勤務に対する手当により差が生じたため ・男女間の管理職比率に差が生じたため

(注)1. 「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」(平成27年法律第64号)の規定に基づき算出したものであります。

2. 「育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律」(平成3年法律第76号)の規定に基づき、「育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律施行規則」(平成3年労働省令第25号)第71条の4第1号における育児休業等の取得割合を算出したものであります。

連結子会社

当事業年度						補足説明
名称	管理職に占める女性従業員の割合(%) (注)1	男性従業員の育児休業取得率(%) (注)2	従業員の男女の賃金の差異(%) (注)1			
			全従業員	うち正規雇用従業員	うち有期雇用者	
油化産業(株)	9.8	-	-	-	-	(注)3
日本工機(株)	0.0	0.0	70.9	67.2	55.6	(注)4
日油技研工業(株)	6.1	100.0	54.8	70.3	65.7	(注)5
昭和金属工業(株)	0.0	33.3	-	-	-	(注)3
二チヨ物流(株)	0.0	100.0	77.8	81.5	74.6	(注)6

(注)1. 「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」(平成27年法律第64号)の規定に基づき算出したものであります。

2. 「育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律」(平成3年法律第76号)の規定に基づき、「育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律施行規則」(平成3年労働省令第25号)第71条の4第1号における育児休業等の取得割合を算出したものであります。
3. 「-」は「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」(平成27年法律第64号)、「育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律」(平成3年法律第76号)の規定による公表義務の対象ではないため、記載を省略しております。
4. 男女の賃金の差異は、男女間の管理職比率に差が生じたこと、および男性従業員は女性従業員と比べ交替勤務者が多く、勤務手当に差が生じたことによります。
5. 男女の賃金の差異は、男女間の平均勤続年数に差が生じたこと、および女性従業員のパートタイム契約の比率が高いことによります。
6. 男女の賃金の差異は、男女間の平均勤続年数および時間外労働時間に差が生じたこと、男性従業員は女性従業員と比べ技能職が多く、勤務手当に差が生じたことによります。

## 第2【事業の状況】

### 1【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

#### (1)経営方針

当社グループは、「バイオから宇宙まで、化学の力で新しい価値を創造する企業グループとして、人と社会に貢献する」ことを経営理念とし、これを実践する上で重視する3つの価値観「挑戦」「公正」「調和」を定めています。

当社グループでは、経営理念、価値観を事業経営、組織運営の中心に据え、社会と共に成長し、事業の継続的な発展を目指してまいります。

#### (2)経営戦略等

当社グループは、新たな事業環境に対応したコスト構造の実現に向け、生産性の向上とコストダウンの徹底を図るとともに、当社が目指す方向である「ライフ・ヘルスケア」「環境・エネルギー」「電子・情報」の3分野へ積極的に経営資源を投入し、持続的成長のための収益基盤の確立を進めてまいります。また、事業の基盤をなす安全の確保、環境の保全、品質管理の徹底、コンプライアンスの強化および内部統制システムの一層の充実を図り、企業の社会的責任を果たしてまいります。

#### (3)経営上の目標の達成状況を判断するための客観的な指標等

経営の主たる指標については、グループの業績評価における重要指標である営業利益のほか、株主重視の視点から個別事業における業績管理など経営効率の評価基準として、自己資本当期純利益率（ROE）、総資産経常利益率（ROA）および売上高営業利益率を活用しております。

#### (4)経営環境、優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

国内経済は、新型コロナウイルス感染症の位置づけが「5類感染症」に移行されたことを受けて、感染症拡大前の経済水準に回復しつつあります。しかしながら、ウクライナ危機の長期化、中東情勢の緊迫化、米中の対立、原燃料価格の高止まり、世界的なインフレ継続と金融引締めに伴う影響もあり、世界経済の先行きは不透明な状況が継続するものと想定されます。

このような情勢下、目指す3分野「ライフ・ヘルスケア」「環境・エネルギー」「電子・情報」において、市場ニーズの変化に柔軟に対応し、化学の力で新しい価値を継続的に創出し、すべてのステークホルダーの皆様の信頼にお応えし続けることで、安心して豊かな社会の実現に向けて挑戦してまいります。

本年度も引き続き、2023年度を初年度とする3ヵ年計画「2025中期経営計画」における基本方針「実践と躍進」に沿って、「市場の変化を捉えた事業拡大」「新製品・新技術開発の加速」「生産性の向上」「安全・安心の追求」「CSRの推進」の各課題に取り組んでまいります。

「市場の変化を捉えた事業拡大」を加速するため、目指す3分野での積極的な戦略投資を推進してまいります。機能化学品事業においては、愛知事業所内の化粧品ODM（オリジナル・デザイン・マニファクチャリング：相手先ブランドによる製品の設計・製造）ラインの増設を進めてまいります。また、医薬・医療・健康事業においては、将来の核酸医薬品等バイオ医薬品市場の成長を見込み、愛知事業所内にDDS医薬用製剤原料の製造設備の新設を進めてまいります。

「新製品・新技術開発の加速」については、バイオ化学品、熱制御素材、エレクトロニクス分野、健康食品分野等を中心に、産学官からの公募やベンチャーキャピタルなどを活用したオープンイノベーションによる協創を進め、新製品・新技術開発の加速につなげてまいります。

「生産性の向上」として、DX（デジタルトランスフォーメーション）に関する全社的な人材育成の取り組みを継続すると共に、データサイエンスを活用したMI（マテリアルズ・インフォマティクス）による新規化学素材の探索および配合組成の最適化等の研究開発の効率化、生産・品質管理システムの導入とネットワーク構築等によるスマートファクトリー化に引き続き取り組んでまいります。

「安全・安心の追求」では安全・安心な製品の提供、社会環境や自然環境への安全配慮、保安防災、労働安全の徹底に取り組み、適切な事業運営に努めてまいります。

「CSRの推進」では、サステナビリティに関する11項目のマテリアリティ（重要課題）を特定し、これを「豊かで持続可能な社会実現のための新たな価値の提供」「事業基盤の強化」「レスポンシブル・ケア活動の推進」の3つに大別し、項目毎に目標（KPI）を設定し、その取り組みを推進しております。「豊かで持続可能な社会実現のための新たな価値の提供」では、先進医療・医薬、人の美しさと健康、アンチエイジング、環境負荷の低減、資源循環、スマート社会等、さまざまな要請に貢献するため、目指す3分野に当社の独自技術・素材を活かした製品供給を目指してまいります。「事業基盤の強化」では、収益力の強化、ワーク・ライフ・バランスの実現を目指した働き方改革の推進、価値観の多様性を受け入れる企業風土作り、レジリエンスを向上させる事業継続計画の充実等を深化してまいります。「レスポンシブル・ケア活動の推進」では、2050年のカーボンニュートラルの実現に向けた施策の検

討や、化学物質の管理等の施策に取り組みます。また、TCFD（気候関連財務情報開示タスクフォース）の提言に賛同し、気候関連の情報開示の拡充に取り組んでまいります。

当社グループは、持続可能な社会実現へ貢献するため、これらの課題への取り組みを遂行し、さらなる事業革新を進め、国際競争力のある強靱な企業体質を築いてまいります。

## 2【サステナビリティに関する考え方及び取組】

当社グループのサステナビリティに関する考え方及び取組は、次のとおりです。

なお、文中の将来に関する事項は当連結会計年度末現在において、当社グループが判断したものです。

### (1) サステナビリティ全般に関するガバナンスおよびリスク管理

#### ガバナンス

当社グループは、サステナビリティに関する事項は、企業の社会的責任であると認識しており、社長を委員長とするCSR委員会において、監査等委員を兼務する取締役を含むすべての取締役が参加して審議を行う体制を構築しています。

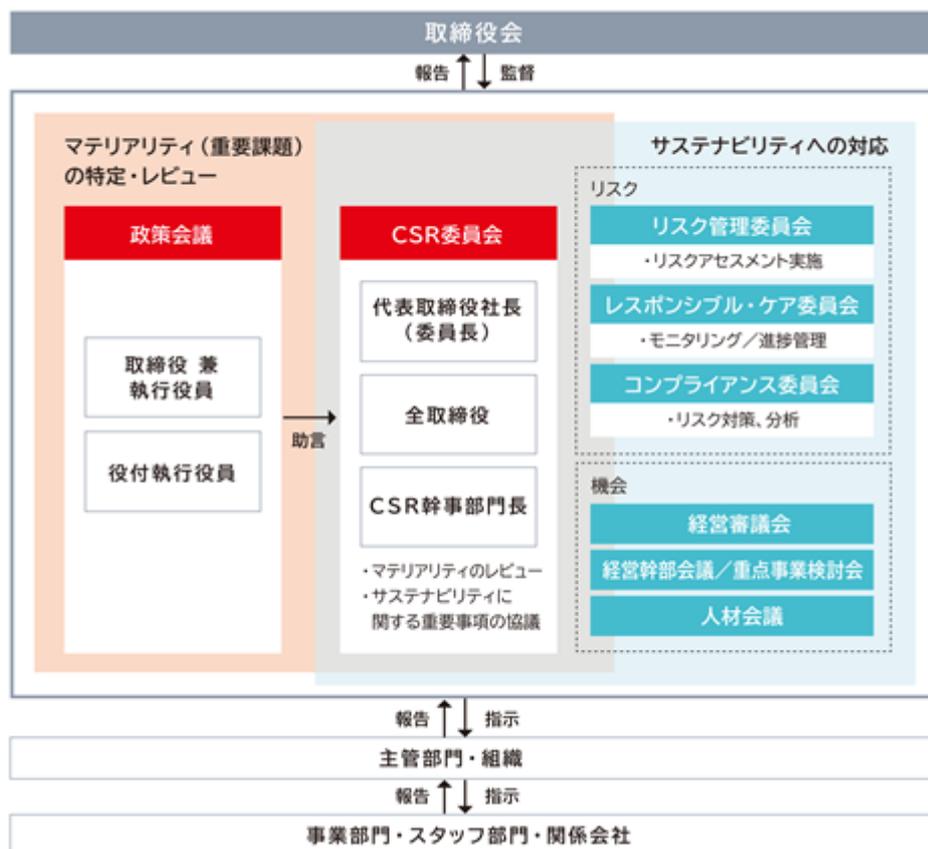
サステナビリティに関する具体的な事項は、取締役兼執行役員と役付執行役員で構成する政策会議、ならびにCSR委員会における協議を経て、サステナビリティに関するマテリアリティ（重要課題）として特定し、取締役会で承認しています。また、マテリアリティ（重要課題）を社会への影響度と自社への影響度の2軸でマッピングすることで、その重要度を可視化しています。

それぞれのマテリアリティ（重要課題）は、KPIと目標値を設定して主管組織・担当部門が活動を推進し、進捗状況・結果をCSR委員会へ報告しています。CSR委員会ではマテリアリティ（重要課題）の評価を行い、重要課題のKPI、目標、取り組みの内容を協議することで、活動レベルの継続的な向上を図っています。当期は、2023年4月、2023年11月および2024年3月の3回CSR委員会を開催し、サステナビリティに関する事項の積極的な推進を図るとともに、同委員会の審議結果を取締役会で再確認することで適切に監督しています。

なお、気候変動への対応と人的資本への対応は、それぞれマテリアリティ（重要課題）の一つとして特定しています。

監査等委員会、内部監査部門に関しては、第4 提出会社の状況 - 4 コーポレート・ガバナンスの状況等 - (1) を参照ください。

#### サステナビリティに関するガバナンス体制



#### リスク管理

気候変動関連リスクおよび人的資本関連リスクを含む事業リスクについては、リスク管理委員会が網羅的なアセスメントを実施しています。事業リスクは、項目毎に主管する専門委員会を定めており、気候変動関連リスクは、レスポンシブル・ケア（RC）委員会およびリスク管理委員会が、人的資本関連リスクは、リスク管理委員会がそれぞれリスクのモニタリング・分析評価・対策を行っています。また、機会については、経営幹部会議、重点事業検討会等で議論し、重要事項は、経営審議会で審議しています。これらの専門委員会・会議の審議結果は、取締役会に報告され、監督を受ける仕組みを構築しています。

(2) 重要なサステナビリティ項目

気候変動への対応

〔戦略〕

世界共通で喫緊の課題である気候変動への対応として、当社グループではこれまでレスポンシブル・ケア活動の目標の一つに温室効果ガスの排出量削減を掲げ、省エネルギーに努めてきました。

2020年10月の政府による2050年カーボンニュートラル宣言、および2021年4月に表明された新たな温室効果ガス削減目標を受け、2022年4月、TCFD（気候関連財務情報開示タスクフォース）提言への賛同を表明し、当社グループとして2050年のカーボンニュートラルの達成を目指して目標を設定しています。

TCFD提言では、気候変動に起因するリスク・機会が、企業の財務にどのような影響を及ぼすかを把握するため、シナリオ分析の実施が求められています。当社グループでは、脱炭素社会への移行を実現しうる1.5・2シナリオと気候変動が進展する4シナリオに基づき、気候変動がもたらす移行リスクや物理リスク、および機会を次のように特定しています。

1.5・2シナリオにおける移行リスクとして特定した国内外の規制強化に対し、温室効果ガス排出削減に向けた取り組みの更なる推進を計画しています。また、石油等の供給量の減少やバイオ燃料の需要増による原材料の高騰に対しては、バイオマス化学品の活用など、石化系原料から植物系原料への切替えを検討しています。

4シナリオにおける物理リスクとして認識している、気候変動に伴う豪雨や台風などの自然災害による生産拠点やサプライチェーンへの影響に対しては、生産拠点の防災対策の強化に加え、事業継続計画（BCP）を策定しています。

気候変動におけるリスクと機会

分類	シナリオ	主要なリスク・機会	概要	影響度(2030年)	対策
移行 リスク	1.5℃ 2℃	国内外の規制強化	炭素税等の導入による、財務的な負担の増加	大	・温室効果ガス排出量削減に向けた取り組みの推進
		原材料の高騰	石油等の供給量減少やバイオ燃料の需要増等による、石化系や植物系・動物系油脂等の原材料価格の高騰	大	・複数購買や長期契約による原料安定確保 ・石化系の原料から植物系の原料への切り替え ・バイオマス化学品活用 ・カーボンリサイクル(溶剤のリサイクル等)
		エネルギー・輸送コストの高騰	原油・天然ガスの価格高騰	中	・省エネ機器導入、プロセスの見直し ・共同配送、モーダルシフトの推進
		脱炭素市場への転換による販売先環境変化	ガソリン車やディーゼル車のシェア低下にともなう売上の減少	中	・電気自動車や再生可能エネルギー等の脱炭素市場への対応強化
		評価・評判の悪化	気候変動対策の遅れによる、ESG投資における投資家からの評価や、顧客からの評判の悪化	小	・温室効果ガスの排出量削減に向けた対策の積極的な推進と情報発信
物理 リスク	4℃	豪雨・洪水・台風・高潮等の自然災害	気候変動にともなう集中豪雨の増加や海面上昇、台風の強大化による高潮によって、生産拠点やサプライチェーンの事業中断リスクの増大	大	・雨水対策や建物、設備の防災対策 ・事業継続計画(BCP)の見直しと教育・訓練、監査の実施 ・原材料の複数購買
		高温・熱波	気温上昇による倉庫の冷蔵・冷房保管等への影響	中	・設備投資計画の継続的な見直し
機会	1.5℃ 2℃	気候変動解決に貢献する製品へのニーズ拡大	気候変動の緩和や適応に貢献する製品へのニーズ拡大	大	・気候変動の緩和や適応に貢献する製品の開発・提供
		評価・評判の向上	積極的な気候変動対策による、ESG投資における投資家からの評価や、顧客からの評判の向上	小	・気候変動の解決に貢献する製品の開発・提供や、温室効果ガス削減の推進等の情報発信

(注) ・1.5・2シナリオ：産業革命以前と比較して、気温上昇を1.5や2に抑えるために、必要な対策が実施されると想定した脱炭素シナリオ（国際エネルギー機関（IEA）「2050年ゼロエミッションシナリオ（NZE2050）」、「公表政策シナリオ（STEPS）」等）

・4シナリオ：産業革命以前と比較して、21世紀末に世界の平均気温が4上昇する、気候変動が進行した成り行きシナリオ（国連気候変動に関する政府間パネル（IPCC）「RCP8.5」等）

・影響度：

「リスク」影響金額……10億円超（大）、10億円以下・1億円超（中）、1億円以下（小）

「機会」市場規模……300億円超（大）、300億円以下・30億円超（中）、30億円以下（小）

また、機会では、気候変動の緩和や適応に貢献するクリーンテック関連製品へのニーズが拡大すると認識しています。

気候変動の緩和に貢献する製品へのニーズには以下のようなものがあります。

E V（電気自動車）の普及に伴い、電子部品（受動部品）・電動ユニット・ねじの増加や、液晶パネルの増加・大型化により、車載電子部品用添加剤・電動ユニット用潤滑剤・防錆剤・液晶カラーフィルター用オーバーコート材の需要増、さらに、省電力化に有効とされるLEDのヘッドランプ用防曇剤の需要増が見込まれます。さらに、E Vは車両の静粛性が向上するため、樹脂部品の擦れによるノイズを防ぐ異音防止剤などの樹脂用添加剤の需要増が見込まれます。また、クリーンエネルギーの拡大によって、風力発電のブレードに使用されるボルト用防錆剤、ギアに必要な生分解性潤滑油の需要増ほか、風力・太陽光発電設備から送電するための超高压・高压電線の被覆材として用いられる架橋ポリエチレン用有機過酸化物の需要増が見込まれます。その他、環境負荷を低減する植物由来の代替肉の旨味・食感改善に寄与する代替肉用油脂や、省エネルギー住宅の普及に伴う断熱性の高い樹脂サッシ用の有機過酸化物の需要増も見込まれます。

一方、気候変動の適応に貢献する製品のニーズには以下のようなものがあります。気温上昇により、冷蔵庫やエアコンの必要性が途上国を含めグローバルに高まっており、冷凍機の潤滑油である冷凍機油やエアコンパテ用ポリブデンの需要増が見込まれます。当社グループの冷凍機用潤滑基材は代替フロン冷媒用であり、気候変動への適応に貢献します。また、熱帯性感染症の拡大が懸念されるため、感染症対策の消毒液、診断薬用の添加剤、病気や疾患の回復に向けた医薬品原料の需要増が見込まれています。さらに、気候変動に対して地球全域を調査する必要性が高まるため、海洋探査機器の投入やロケット打ち上げの回数が増加する可能性、特定温度に達すると変色する温度管理用示温材（ラベルやシール等）の用途が拡大する可能性、高潮を防ぐ堤防工事において山間部から岩石や土砂を調達するために産業用爆薬を用いる機会が増える可能性があります。

#### 〔指標・目標〕

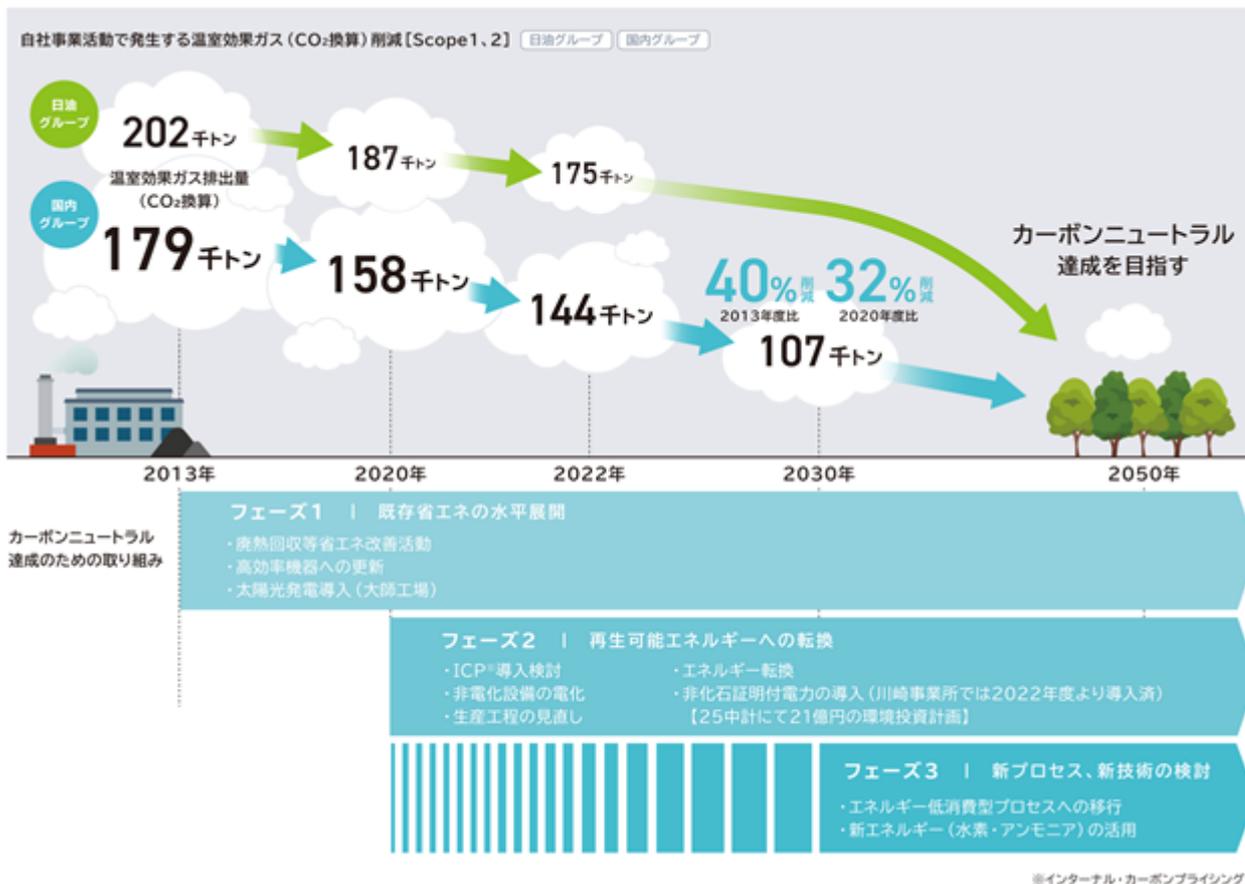
当社グループとして2050年にカーボンニュートラルを目指すためには、Scope 1 およびScope 2 の排出量の約82%を占める国内グループの排出量削減が重要であるとの認識から、国内グループでは、2030年にScope 1、2 の温室効果ガス排出量を2013年度対比で40%削減するという目標を掲げ、温室効果ガスの排出量削減に向けたロードマップを作成し、気候変動の緩和に努めています。

目標に対する進捗状況は、レスポンシブル・ケア活動を通じて温室効果ガス排出量の削減率や削減量を定期的にモニタリングしています。これにより、目標達成の進度や取り組みの効果を評価し、必要な改善や追加施策を行っています。具体的な取り組みとして、以下の点に注力しています。

ロードマップのフェーズ1では、廃熱回収等の省エネルギー改善活動や高効率機器への更新、また太陽光発電の導入等、既存の省エネルギーの水平展開に努めてきており、引き続き取り組んでまいります。

また、続くフェーズ2では、インターナル・カーボンプライシング（ICP）導入の検討、非電化設備の電化、生産工程の見直しによるエネルギー転換、非化石証明付電力の導入等、再生可能エネルギーへの転換に積極的に取り組んでおり、「2025中期経営計画」では、環境対応への戦略投資として21億円を計画しました。

さらにフェーズ3では、エネルギー低消費型プロセスへの移行や新エネルギー（水素・アンモニア）の活用など、新プロセスと新技術の検討に着手し、2050年のカーボンニュートラルを目指すと同時に、移行リスクに伴う財務負担の低減を図ります。



(注) 2022年度のデータを最新の実績値としています。

当事業年度のデータは2025年6月の有価証券報告書で更新し、他の公表書類(ホームページ)との差異が解消されます。

参照先: ホームページ(TOP > サステナビリティ > 各種対照表/ダウンロード > サステナビリティ報告書ダウンロードの経済「気候変動への対応(TCFD)」)(2024年9月末更新予定)

<https://www.nof.co.jp/csr/detail/477>

■ スコープ1、2 CO<sub>2</sub>排出量(2022年度)

(千トン-CO<sub>2</sub>)

	Scope 1	Scope 2	合計 (Scope 1+2)
日油	53.3	78.2	131.5
国内グループ	60.1	83.5	143.6
日油グループ	71.9	103.3	175.3

■ スコープ3 CO<sub>2</sub>排出量(2022年度) 国内グループ

(千トン-CO<sub>2</sub>)

カテゴリ	2022年度	算出方法
購入した製品・サービス	278.3	購入原材料、消耗品、補修材料の品目ごとの物量や金額にガイドラインによる部門別排出原単位を乗じて算出
資本財	22.4	固定資産の取得金額に、ガイドラインによる排出原単位を乗じて算出
Scope1、2に含まれない燃料およびエネルギー関連活動	36.3	電力使用量と蒸気使用量に、ガイドラインによる排出原単位を乗じて算出
輸送、配送(上流)	25.0	購入原材料の輸送トンキロデータおよび自社が荷主の納入製品の輸送トンキロから算出
事業から出る廃棄物	8.2	各生産箇所から排出される廃棄物の種類別の重量に、ガイドライン等による排出原単位を乗じて算出
出張	0.5	従業員数に、ガイドライン等による排出原単位を乗じて算出
雇用の通勤	1.6	通勤手当費用額に、ガイドライン等による排出原単位を乗じて算出
リソース資産(上流)賃借	—	非該当
輸送、配送(下流)	—	非該当
販売した製品の加工	20.6	食用加工油脂、産業用爆薬の販売量にガイドライン等による排出原単位を乗じて算出
販売した製品の使用	未計算	日油製品は中間品材料が主流であり、納入後のユーザーでの加工方法が多岐にわたり、かつ非開示であるため計算不可
販売した製品の廃棄	0.7	出荷製品の梱包材について、種類別の重量にガイドラインによる排出原単位を乗じて算出
リソース資産(下流)	—	非該当
フランチャイズ	—	非該当
投資	—	非該当
合計	393.4	

使用ガイドライン「サプライチェーンを通じた組織の温室効果ガス排出等の算定のための排出原単位データベース (Ver.3.3)」（環境省、経済産業省発行）、「IDEA (Ver.3.1)」（国立研究開発法人産業技術総合研究所発行）

(注) 2022年度のデータを最新の実績値としています。

当事業年度のデータは2025年6月の有価証券報告書で更新し、他の公表書類（ホームページ）との差異が解消されます。

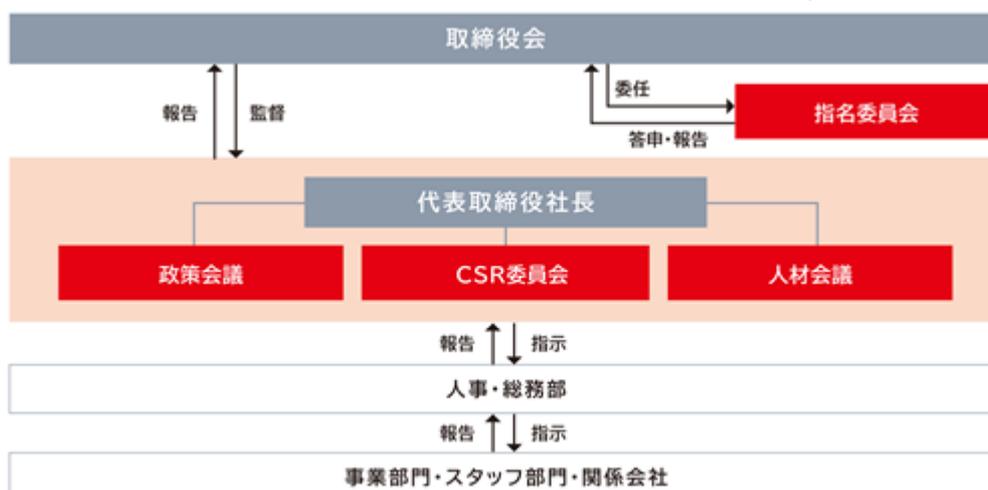
参照先：ホームページ（TOP > サステナビリティ > 各種対照表/ダウンロード > サステナビリティ報告書ダウンロードの経済「気候変動への対応（TCFD）」）（2024年9月末更新予定）

<https://www.nof.co.jp/csr/detail/477>

人的資本への対応

〔ガバナンスおよびリスク管理〕

人的資本に関するガバナンスについて、次のとおり体制を整備しています。



・CSR委員会

CSR委員会では、人的資本に関する事項の報告および審議を行っています。当事業年度初回の委員会では、前事業年度3項目であったKPIの項目を9項目に増やすとともに、目標値を新たに設定して人的資本に関する取組みの強化に関する審議を行っています。当事業年度2回目の委員会では、前事業年度の実績および課題に関する審議を行い、当事業年度末に開催した3回目の委員会では、当事業年度の実績見通しおよび取組みの進捗状況を確認するとともに、次事業年度のKPIおよび目標値に関して審議を行っています。

・指名委員会

社外取締役が過半数を占める指名委員会では、後継人材育成に関する評価と議論を行い、取締役会へフィードバックをしています。なお、当事業年度は本委員会を4回開催しています。

・政策会議

多様性を受容し尊重することがイノベーションの創出を促すという考えに基づき多様な人材の確保を進めるため、取締役兼執行役員と役付執行役員が出席する政策会議では、採用予定人数、配置や多様性の確保などにつき審議および採用状況の評価を行い、人材確保の活動を進めています。加えて、従業員一人ひとりが生き活きと職務を遂行するため、働きがいや働きやすい職場づくりを目指し、エンゲージメント調査を実施し、調査結果の評価および課題抽出を行い、取組みの実効性を高めるよう努めています。なお、原則として本会議を毎週開催しています。

・人材会議

持続的な事業成長を支える人材の育成施策を着実に推進するため、取締役兼執行役員と役付執行役員が出席する人材会議では、全社の人材育成施策計画に関する審議および実施内容の評価を行うほか、部長クラス的人事評価の審議や定期面談、昇格候補者との面接、経営幹部候補人材からの経営施策等に関する提言報告の場を設けており、人材会議が部長クラスの人材特性把握と人材育成施策に関与し、後継人材を含む育成のPDCAを回す体制を整えています。なお、当事業年度は本会議を13回開催しています。

人的資本に関するリスク管理について、リスク管理委員会を設置し、CSR委員会を通して取締役会に報告し監督を受ける体制を整備しています。

・リスク管理委員会

リスク所管部門等から構成するリスク管理委員会では、事業を取り巻くさまざまな経営リスクを網羅的に洗い出し、各リスク項目の影響度・発生可能性について全社的リスクアセスメントを実施し、優先的に対応すべきリスクを特定しています。事業を取り巻くさまざまな経営リスクのうち、人事・労務分野に関するリスクに関して、将来において、どの程度、影響度が変化するかについて、リスクアセスメントを実施し、分析の結果については、CSR委員会に報告しリスク対策の評価を行っています。なお、当事業年度は本委員会を2回開催しています。

〔戦略、指標及び目標〕

変化が激しく、不確実性が増す事業環境下において、さまざまな社会課題に向き合い、革新的なテクノロジーの進歩を敏感に察知し、新たな価値の創造に挑んでいくことが益々求められるなか、人材の成長が経営の根幹をなすとの考えのもと、人的資本経営の視点も交え、多様性の拡充やエンゲージメントの向上に取り組みます。

人材育成の推進に関する方針

「企業は人なり」との基本思想のもと、当社グループの価値観である「挑戦」「公正」「調和」を体現し、新たな価値を創造できる人材の成長を後押しするための施策を推進します。

・中長期的な視点で困難な目標に果敢に挑戦し、様々な経営課題に取り組み、持続的な事業成長に貢献する人材の育成を目指し、従来の人材育成施策に加え、「2025中期経営計画」において次の取組みに注力します。

当社グループの価値観を体現する自律型人材の育成

更なるグローバル化の進展を見据えたグローバル人材の育成

DXを加速させる人材の育成

当事業年度は、当社グループの価値観を体現し、持続的な事業成長の原動力となる自律型人材の育成の取組み、ならびにDXを加速させる人材の育成プログラムを策定し当該人材の育成の取組みを開始しました。また、更なるグローバル化の進展を見据え、海外赴任前研修の拡充、現地での安全管理強化を図る等の整備を進めました。

持続的な事業成長の原動力となる人材育成の取り組みの拡充にあたり、人材育成にかかる研修費用を指標とし目標を定めています。

指標	対象	目標	当事業年度
研修費用	提出会社	目標年度：2025年度 2022年度比 2.5倍以上	1.7倍

本方針は提出会社のものであり、連結子会社毎の事業規模・内容、対象市場・分野が異なるため、各連結子会社へ同一の研修費用増加の目標適用は困難であることから、本方針に基づく研修費用増加の目標およびその結果は提出会社のみ開示しています。

社内環境整備に関する方針

《事業活動を推進する多様な人材の確保》

- (a)性別や年齢、国籍や障がいの有無等にかかわらず多様な人材確保の継続
- (b)既存事業の成長に加え、新たな事業領域への進出を加速するための経験人材確保の継続

本方針の着実な推進にあたり、次の指標にもとづく目標を定めています。

指標（方針との対応関係）	対象	目標	当事業年度
新卒総合職女性の採用比率 （a）多様な人材確保	提出会社	目標年度：毎年度 30%以上	32.7%
障がい者雇用率 （a）多様な人材確保	提出会社	目標年度：2030年 3.0%以上	2.54%
経営職・総合職経験者採用比率 （b）経験人材確保	提出会社	目標年度：毎年度 25%以上	38.8%

本方針は提出会社のものであり、定期的な新卒採用を行う連結子会社は一部であること、また連結子会社毎で人事制度が異なることから各連結子会社へ同一の方針を適用することは困難であるため本方針に基づく目標およびその結果は提出会社のみ記しています。

《働きがい、働きやすさの向上》

- (c)女性がより活躍できる風土をつくるための働きやすい制度の充実
- (d)従業員一人ひとりが目標を持って活き活きと職務を遂行することができる仕組み、制度および職場づくりの継続
- (e)定期的なエンゲージメント調査の実施と働きがい向上の努力
- (f)個々人の成長を支援するキャリアデザイン構築の推進

当社は、前事業年度に引き続き実施したエンゲージメント調査結果を分析し、当事業年度は、日油経営理念や価値観の浸透を進める施策の実施、従業員のキャリアデザイン構築に寄与するワークショップの開始（「(f)個々人の成長を支援するキャリアデザイン構築の推進」に対する施策を実施）、ならびに当社価値観である「挑戦」を促す人事制度の一部改定を行い、エンゲージメントの高い職場づくりに努めています。

本方針の着実な推進にあたり、次の指標にもとづく目標を定めています。

指標（方針との対応関係）	対象	目標	当事業年度
女性管理職比率 （c）女性活躍、働きやすさの向上	提出会社	目標年度：2030年 2021年度比3倍以上	1.1倍
正社員男女賃金差異比率 （c）女性活躍、働きやすさの向上	提出会社	目標年度：2030年 75%以上	72.6%
男性育児休業取得率 （d）活き活きとした職務遂行、職場づくり	提出会社	目標年度：2030年 100%	97.4%
年次有給休暇取得率 （d）活き活きとした職務遂行、職場づくり	提出会社	目標年度：2025年 75%以上	76.0%
総合エンゲージメントスコア 1 （e）働きがい向上	提出会社	目標年度：2025年 50.0以上	49.5

- 1 株式会社エムステージの「Qraft」を用いて、「楽しみながら仕事に取り組んでいる」「興味・関心を持ちながら仕事に取り組んでいる」「意義を実感している」の各尺度を測定し、同社が算出する偏差値が総合エンゲージメントスコアとなります。

本方針は提出会社のものであり、連結子会社毎の事業内容、人事制度などが異なるため各連結子会社へ同一の方針を適用することは困難であるため、本方針に基づく目標およびその結果は提出会社のみ記しています。

なお、次の指標に関して、提出会社ならびに2024年3月31日時点で従業員が100人を超える国内の連結子会社からなる連結会社の当事業年度の結果は、次のとおりとなります。

連結子会社：油化産業株式会社、日本工機株式会社、日油技研工業株式会社、昭和金属工業株式会社、ニチコ物流株式会社

障がい者雇用率	2.40%	年次有給休暇取得率	77.1%
---------	-------	-----------	-------

その他の指標

- ・「新卒総合職女性の採用比率」「経営職・総合職経験者採用比率」の2指標は「総合職」「経営職」の区分が提出会社の人事制度に基づくものであり、提出会社のみ開示しています。
- ・「女性管理職比率」「正社員男女賃金差異比率」「男性育児休業取得率」の3指標は、第1 企業の概況 - 5 従業員の状況 (4) を参照ください。
- ・「総合エンゲージメントスコア」は提出会社が株式会社エムステージの「Qraft」を用いて測定しており、提出会社のみ開示しています。

〔リスクと機会〕

(1)人材育成の遅滞

・リスク

人材育成計画の遂行遅延、不十分な能力開発によって、事業成長を担う中核人材の育成が遅れ、持続的な事業成長に支障をきたす可能性があります。

・機会

人材育成の遅滞を招くことのないよう定期的にPDCAを回す仕組みを整えており、取締役兼執行役員と役付執行役員が出席する人材会議が、全社の人材育成施策計画に関する審議および実施内容の評価を行い、持続的な事業成長を支える人材の育成施策の着実な実施に努めています。また、人材育成にかかる研修費用を指標とし目標を定め、全取締役が出席するCSR委員会へ進捗状況・結果を報告しています。対応方針等を議論し人材育成施策の継続的な向上に努めています。

(2)人手不足

・リスク

労働人口・若年層の減少、好景気による求人拡大によって、必要な従業員確保が遅れ、事業計画が遅延する可能性があります。

・機会

新卒採用では、応募者の希望とのミスマッチを防ぐ取り組みや工場見学会等の事業理解を促進し、経験者採用では、採用情報の公開先の拡充や自社ホームページでの情報の充実化によって、事業計画に沿った高いスキルを保有する人材確保の可能性を高めるよう努めています。また、退職者の再入社を実現しやすくする制度（ジョブ・リターン制度）を整備し、経験値のある人材を確保する機会を設けています。なお、新卒総合職女性の採用比率や経験者採用比率を指標とし目標を定め、全取締役が出席するCSR委員会へ進捗状況・結果を報告しています。対応方針等を議論し人材確保に関する取り組みの継続的な改善に努めています。

(3)離職率の上昇

・リスク

会社への不満や家族介護等の事情を理由に、離職する従業員が増加することによって、事業推進や業務遂行に支障をきたす可能性があります。

・機会

年に1度、上司と部下がキャリアに関する対話を行う機会（自己申告制度）を設け、個々の希望等の把握に努め、キャリア構築の支援や働きやすい職場づくりを推進するとともに、介護や育児等と仕事の両立を支援する制度の充実化をはかっています。また、従業員のキャリアデザイン構築に寄与するキャリア研修を開始したほか、キャリア相談窓口を設け専門家のアドバイスをもらえる機会を提供することを計画しており、「個々人の成長を支援するキャリアデザイン構築の推進」の方針に沿って、主体的なキャリア構築と人材の成長促進を支援し、高い意欲をもち仕事を行う人材の創出に努めます。

### 3【事業等のリスク】

#### (1) リスクマネジメント体制

当社グループのリスクマネジメント体制の概要は、まず想定される経営リスクを網羅的に洗い出し、その各リスク項目の影響度合・発生頻度の評価結果に基づいてリスクアセスメントを実施し、「優先取組みリスク」を特定しています。その上で、リスクが顕在化した場合の影響と発生可能性を低減する対策を適切に講じることで、経営への影響を最小化するよう努めています。また、想定リスクの洗い出しやリスクアセスメントを定期的実施することで、対策の有効性を検証するとともに、新たなリスクの認識と評価を促すなど、リスクマネジメントサイクルを回すことにより、リスク管理の充実に努めています。

具体的には、経営リスクの洗い出しはリスク管理委員会が実施し、当社各箇所長、事業部門長、スタッフ部門長、国内外のグループ子会社社長が各事業の特性や政治的・経済的・社会的な変化等の外部環境を踏まえ、各リスク項目に対しての影響度合・発生頻度を評価します。そして、取締役会において各経営リスクの評価結果に基づき、レジリエンスを高めるべき「優先取組みリスク」を特定しています。「優先取組みリスク」ならびに経営リスクについては、リスク管理委員会、コンプライアンス委員会、RC委員会、および品質管理委員会において分析や対応策の検討を行い、定期的に取り締役に報告されます。取締役会では、コンプライアンス、情報の管理、環境・安全、リスクの網羅性の確認・評価など、さまざまな視点で経営リスクを審議します。

グループ子会社では、関係会社管理規制に基づき、子会社に対する経営管理・モニタリングを実施し、必要に応じて助言等を行うとともに、子会社の財産や損益に重大な影響を及ぼすと判断される重要案件の実施については、当社の取締役会または経営審議会が承認しています。

また、その他のリスクについても、各委員会で現状の対応を評価して「保有」や「低減」等に分類し、必要に応じて追加対策を検討します。

#### (2) 重要リスク

有価証券報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、経営者が連結会社の財政状態、経営成績およびキャッシュ・フローの状況に重要な影響を与える可能性があることと認識している主要なリスクは、以下のとおりです。リスク管理については、リスク管理委員会において、リスクの網羅性の確認・評価、リスク管理に関する施策の立案等を行い、取締役会に報告しております。

なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものです。

##### 地震・津波、感染症

地震や津波等の自然災害や、新型コロナウイルスのような感染症の世界的流行（パンデミック）等に対して、事業資産の損害を最小限にとどめつつ、中核事業の継続や早期回復を可能とするため、事業継続計画（BCP）を策定し、BCPの内部監査や訓練の実施など、有事への備えに努めています。しかし、想定を超える災害の発生により、生産をはじめ販売や物流等の活動が中断した場合、当社グループの業績および財務状況に影響を及ぼす可能性があります。

##### 法令違反

当社グループは各国の法令や法制度等に従い、各種コンプライアンス・マニュアルの整備、コンプライアンス研修の実施、内部通報・相談窓口の設置により、不正のない事業活動を行っております。ただし、不正競争防止法・独占禁止法・下請法・外為法・化審法・薬機法等の各種法令に関する違反により、行政処分が下され、事業活動の停止や課徴金支払い等が発生する可能性があります。

##### 海外拠点のガバナンス不全

当社グループは、北米・欧州・アジア等の世界各国に生産・販売拠点を設け、海外での事業活動を拡大しており、各拠点において、業務の適正を確保するための体制を構築し、業務執行状況・財務状況等の定期的な報告の要請や業務監査を行っております。ただし、海外拠点のガバナンスが行き届かず、法令違反等の不正が発生し、行政処分や刑事・民事訴訟等により信用が低下して、業績および財務状況に影響を及ぼす可能性があります。

##### サイバー攻撃・情報システム障害

当社グループは、事業活動において取得する機密情報や個人情報等を、電子情報の形式で蓄積・利用しております。そのため、ハード・ソフト両面において必要なセキュリティ対策を講じるとともに、情報セキュリティ管理規定・責任者任命等の体制を整備し、不正アクセスの防御体制の構築、合理的なレベルの安全対策を実施しております。しかしながら、コンピュータウイルスによるサイバー攻撃等、外部からの不正アクセスや情報システムの障害により、情報の漏洩や事業活動の中断が発生する可能性があります。

#### 火災・爆発

当社グループは国内外に生産工場を保有しており、火災や爆発などの重大な事故を未然に防止するため、定期的に設備の保守点検を行うとともに、危険物の適正な保管・管理の徹底を図っています。また、緊急時に備え、緊急事態対応マニュアルを策定し、社内での定期的な訓練を実施するほか、近隣自治体との合同防災訓練や対話活動に努めております。こうしたリスク対策を講じているものの、工場において大規模な火災・爆発等の事故が発生した場合、従業員や近隣住民の死傷、事業活動の停止、これらによる損害賠償等が発生する可能性があります。

#### 知的財産侵害等

当社グループでは、グローバルに知的財産の権利確保を図るとともに、厳重にこれらを管理し、特許侵害を監視するチェック体制を構築するほか、従業員に対する特許・商標等の知財教育に努めております。しかしながら、第三者からの知的財産権侵害を完全に防止することはできない可能性があるほか、逆に、自社の従業員による知的財産権侵害による損害賠償請求等の訴訟や紛争が発生する、あるいは製造・出荷の停止を求められる可能性があります。

#### 技術流出

当社グループでは、営業秘密情報に関する規定を整備するとともに、管理体制の構築および強化に努めております。ただし、営業秘密情報の漏洩を完全に防止することはできないため、重要な技術情報が流出し、競合他社が類似製品や類似技術を市場に提供することにより、当社グループの売上・利益が低下する可能性があります。

#### 品質偽装

研究開発や製品の生産・試験検査・出荷等の工程において、品質管理に関するデータ管理を徹底するとともに、社内での品質監査や品質調査による管理状況の確認を行い、適正な品質管理の維持に努めています。また、従業員に対し定期的な啓発・研修の機会を設けて品質管理への意識を高める活動にも取り組んでいます。しかしながら、ひとたび品質検査結果においてデータ改ざん等の品質偽装を発生させると、当社グループの信用が低下・失墜する可能性があります。

#### ハラスメント・人権侵害

当社グループでは、役員および従業員一人ひとりが常に社会倫理に則り、社会からの信頼を得るために、倫理行動規範を制定し遵守しております。同時に、役員および従業員へのコンプライアンス意識の浸透を図るため、倫理行動規範をより詳しくわかりやすく解説したコンプライアンス・マニュアルを作成、日本を含む各国共通のグローバル・コンプライアンス・マニュアルは11か国語で発行しております。また、従業員からの通報・相談に応じるため、男女社員による社内の相談窓口と弁護士による社外窓口を設置しています。コンプライアンス委員会は年2回の定期開催のほか、問題発生時には適時に開催し、問題点の把握、対応策の立案とフォローを行い、結果を取締役会に報告して審議しております。これらの対策を講じているものの、各種ハラスメントや人権侵害が発生し、当社グループの信用が低下する可能性があります。

#### 人材育成の遅滞

次世代を担う人材への階層・課題別研修を推進するとともに、グローバルビジネスの一翼を担うことが期待される国際人材の登用・育成ほか、適正な人材ローテーションを実施しております。しかしながら、中長期的な人材育成計画が上手く機能せず、当社グループの成長に貢献する人材の育成が停滞する可能性があります。

#### 非財務情報の開示不足

社会課題や顧客課題を含む事業経営の現状分析に努め、マテリアリティ（重要課題）やこれらのKPI等ターゲットを特定し、管理指標と目標を設定して具体的な施策を展開しております。ただし、経済や環境への影響、社会的な評価に対する不確かさが生じることにより、ステークホルダーの信頼を損なう可能性があります。

## 4【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

### (1) 経営成績等の状況の概要

当連結会計年度における当社グループの財政状態、経営成績およびキャッシュ・フロー（以下、「経営成績等」という。）の状況の概要は次のとおりであります。

#### (1) 財政状態及び経営成績の状況

当期は、ウクライナ危機の長期化、中東情勢の緊迫化、米中の対立、原燃料価格の高止まり、世界的なインフレ継続と金融引締めに伴う影響もあり、世界経済の先行きは不透明な状況が続きました。国内においては、新型コロナウイルス感染症が日本国内における感染症法上の位置づけとして「5類感染症」に移行されたことを受けて、社会経済活動の正常化が進み、個人消費や設備投資、生産活動等に緩やかな回復傾向が見られました。

当社グループを取り巻く事業環境は、国内の景気は緩やかに回復しているものの、中国経済停滞の長期化による下振れの影響が懸念される状況にありました。

このような事業環境下、当社グループは当連結会計年度を初年度とする3ヵ年計画「2025中期経営計画」において、「実践と躍進」を基本方針として掲げ、課題である「市場の変化を捉えた事業拡大」「新製品・新技術開発の加速」「生産性の向上」「安全・安心の追求」「CSRの推進」に取り組み、新市場開拓と拡販ならびに生産コストの低減に努め、持続的成長に向けた経営努力を積み重ねてまいりました。

「市場の変化を捉えた事業拡大」を更に強化するために、「ライフ・ヘルスケア」「環境・エネルギー」「電子・情報」の3分野を中心に事業領域の拡大を図り、ソリューションビジネスモデルへの転換を進めました。また、前期実施したエレクトロニクス分野や健康食品分野でのオープンイノベーションによる事業協創の取り組みに続き、当期は医療・医療機器分野においても実施し、「新製品・新技術開発の加速」を推進しました。

これらの結果、当連結会計年度の財政状態および経営成績は以下のとおりとなりました。

#### 財政状態

資産は、前期末に比べ32,010百万円増加し、341,449百万円となりました。

負債は、前期末に比べ6,105百万円増加し、75,541百万円となりました。

純資産(非支配株主持分を含む)は、前期末に比べ25,904百万円増加し、265,907百万円となりました。

#### 経営成績

当期の連結売上高は、222,252百万円（前期比2.1%増）となりました。連結営業利益は、42,142百万円（前期比3.7%増）、連結経常利益は、45,577百万円（前期比5.5%増）、親会社株主に帰属する当期純利益は、33,990百万円（前期比0.1%増）となりました。

以下、各事業セグメントの概況についてご説明申し上げます。

当連結会計年度より従来「ライフサイエンス事業」として表示していた報告セグメントの名称を「医薬・医療・健康事業」に変更しております。なお、主要製品の呼称につきましても「食用加工油脂」を「食用加工油脂・食品機能材」に、「機能食品関連製品（栄養食品、健康関連製品）」を「健康関連製品」に変更しております。

また、連結子会社であるNOF EUROPE GmbHにつきましては、従来「機能化学品事業」に含めておりましたが、当該子会社の業務管理区分を見直し、「医薬・医療・健康事業」に含めて表示する方法に変更しております。

なお、以下の前期比については、変更後の報告セグメントの区分に組み替えた数値で比較をしております。

#### (機能化学品事業)

脂肪酸誘導体は、アジアにおける環境エネルギー関連の出荷が減少し、売上高は減少しました。

界面活性剤は、トイレットリー関連の需要が期末にかけて回復し、売上高は前期並みとなりました。

エチレンオキシド・プロピレンオキシド誘導体は、海外向け需要が低調に推移し、売上高は減少しました。

有機過酸化物は、アジアでの需要が堅調に推移し、売上高は増加しました。

特殊防錆処理剤は、海外向け自動車関連の需要が好調に推移し、売上高は増加しました。

これらの結果、機能化学品事業の連結売上高は、133,556百万円（前期比1.8%減）、連結営業利益は、21,972百万円（前期比3.2%減）となりました。

(医薬・医療・健康事業)

食用加工油脂・食品機能材は、製パン・製菓・加工食品向けの需要が落ち着いたものの原燃料価格高騰を受け販売価格を改定し、売上高は前期並みとなりました。

健康関連製品は、健康食品向けの出荷が増加し、売上高は増加しました。

生体適合性素材は、MPC(2-メタクリロイルオキシエチルホスホリルコリン)関連製品の出荷が減少し、売上高は減少しました。

DDS(ドラッグ・デリバリー・システム:薬物送達システム)医薬用製剤原料は、欧米への出荷が好調で、売上高は増加しました。

これらの結果、医薬・医療・健康事業の連結売上高は、53,998百万円(前期比5.1%増)、連結営業利益は、20,558百万円(前期比12.9%増)となりました。

(化薬事業)

産業用爆薬類は、売上高は増加しました。

宇宙関連製品は、ロケット向け製品の出荷が増え、売上高は増加しました。

防衛関連製品は、売上高は増加しました。

機能製品は、売上高は減少しました。

これらの結果、化薬事業の連結売上高は、34,138百万円(前期比14.3%増)、連結営業利益は、2,628百万円(前期比50.0%増)となりました。

(その他の事業)

その他の事業は、運送事業および不動産事業から構成されております。その連結売上高は、559百万円(前期比9.8%増)、連結営業利益は、196百万円(前期比6.4%減)となりました。

(2)キャッシュ・フローの状況

営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前当期純利益が428百万円増加し、運転資金負担の減少8,720百万円、法人税等の支払額の増加4,209百万円等により、前期に比べ6,636百万円の増加となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、投資有価証券の売却による収入の減少2,040百万円、設備投資による支出の増加11,529百万円、固定資産売却による収入の減少20百万円等があり、前期に比べ14,255百万円の支出増となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、自己株式の取得による支出の増加516百万円、長期借入金の返済による支出の減少2,650百万円、配当金の支払額の増加1,243百万円等の結果、前期に比べ931百万円の支出増となりました。

以上の結果、現金及び現金同等物の当期末残高は、前期末に比べ1,571百万円減少し、87,509百万円となりました。

(3)生産、受注及び販売の実績

生産実績

当連結会計年度における生産実績をセグメントごとに示しますと、次のとおりであります。

セグメントの名称	金額(百万円)	前期比(%)
機能化学品事業	113,142	5.4
医薬・医療・健康事業	39,743	13.6
化薬事業	30,858	14.8
合計	183,743	4.5

(注) 1 金額は販売価格によっております。

- 2 当連結会計年度から、従来「ライフサイエンス事業」と表示していた報告セグメントの名称を「医薬・医療・健康事業」に変更しております。報告セグメントの名称変更によるセグメント情報に与える影響はありません。

受注実績

当連結会計年度における化薬事業の受注実績を示しますと、次のとおりであります。

なお、化薬事業を除く製品については見込み生産を行っております。

セグメントの名称	受注高(百万円)	前期比(%)	受注残高(百万円)	前期比(%)
化薬事業	27,914	27.3	49,436	32.5

販売実績

当連結会計年度における販売実績をセグメントごとに示しますと、次のとおりであります。

セグメントの名称	金額(百万円)	前期比(%)
機能化学品事業	133,556	1.8
医薬・医療・健康事業	53,998	5.1
化薬事業	34,138	14.3
報告セグメント計	221,693	2.1
その他の事業	559	9.8
合計	222,252	2.1

(注) 1 セグメント間の取引については相殺消去しております。

- 2 主な相手先別の販売実績および総販売実績に対する割合については、当該割合が100分の10以上の相手先がないため、記載を省略しております。

- 3 当連結会計年度から、従来「ライフサイエンス事業」と表示していた報告セグメントの名称を「医薬・医療・健康事業」に変更しております。

また、連結子会社であるNOF EUROPE GmbHにつきましては、従来「機能化学品事業」に含めておりましたが、当該子会社の業績管理区分を見直し、「医薬・医療・健康事業」に含めて表示する方法に変更しており、前期比については、変更後の報告セグメントの区分に組み替えた数値で比較をしております。

(2) 経営者の視点による経営成績等の状況に関する分析・検討内容

経営者の視点による当社グループの経営成績等の状況に関する認識および分析・検討内容は次のとおりであります。

なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において判断したものであります。

(1) 財政状態及び経営成績の状況に関する認識及び分析・検討内容

経営成績等

a. 財政状態

(資産合計)

総資産は、前期末に比べ32,010百万円増加し、341,449百万円となりました。資産の増減の主な内容は、現金及び預金の減少775百万円、売上債権の増加9,177百万円、棚卸資産の増加1,270百万円、有形固定資産の増加10,831百万円、無形固定資産の増加1,017百万円、投資有価証券の期末時価評価等による増加6,473百万円等であります。

(負債合計)

負債は、前期末に比べ6,105百万円増加し、75,541百万円となりました。負債の増減の主な内容は、買入債務の増加3,387百万円、有利子負債の増加322百万円、未払法人税等の減少1,287百万円、繰延税金負債の増加3,107百万円等であります。

(純資産合計)

純資産(非支配株主持分を含む)は、前期末に比べ25,904百万円増加し、265,907百万円となりました。純資産(非支配株主持分を含む)の増減の主な内容は、親会社株主に帰属する当期純利益33,990百万円、剰余金の配当による減少9,192百万円、自己株式の取得等による減少7,523百万円、その他有価証券評価差額金の増加4,960百万円、退職給付に係る調整累計額の増加1,812百万円等であります。

b. 経営成績

(売上高)

売上高は222,252百万円と前期比2.1%、4,543百万円の増収となりました。その内容については、「(1) 経営成績等の状況の概要 (1) 財政状態及び経営成績の状況 経営成績」に記載したとおりであります。

(売上原価、販売費及び一般管理費)

売上原価は142,762百万円と前期比0.7%、995百万円の増加となりました。原価率は、前期と比較して0.9ポイント減少し64.2%となりました。

販売費及び一般管理費は37,348百万円と前期比5.7%、2,029百万円の増加となりました。売上原価、販売費及び一般管理費に含まれる研究開発費は7,253百万円と前期比10.3%、679百万円の増加となりました。

(営業利益)

営業利益は、42,142百万円と前期比3.7%、1,517百万円の増益となりました。セグメント別の営業利益については、「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1) 連結財務諸表 注記事項(セグメント情報)」の欄に記載しております。

(営業外収益(費用))

営業外収益(費用)は、前連結会計年度の2,558百万円の収益(純額)から、3,435百万円の収益(純額)となりました。受取利息および受取配当金の合計から支払利息を差引いた金融収支は、前連結会計年度の1,291百万円の収入(純額)から、1,379百万円の収入(純額)となりました。

(経常利益)

経常利益は45,577百万円となり、前期比5.5%、2,394百万円の増益となりました。

(特別利益)

特別利益は3,025百万円となり、前期比1,857百万円の減少となりました。この減少は、主に前期において投資有価証券売却益等を計上したことによるものであります。

(特別損失)

特別損失は134百万円となり、前期比108百万円の増加となりました。この増加は、主に当期において減損損失等を計上したことによるものであります。

(税金等調整前当期純利益)

税金等調整前当期純利益は48,468百万円となり、前期比0.9%、428百万円の増益となりました。

(法人税等(法人税、住民税及び事業税ならびに法人税等調整額))

税金等調整前当期純利益に対する税効果会計適用後の法人税等の負担率は29.7%となり、前期比0.5ポイントの増加となりました。

(非支配株主に帰属する当期純利益)

非支配株主に帰属する当期純利益は70百万円(前期は、非支配株主に帰属する当期純利益42百万円)となりました。

(親会社株主に帰属する当期純利益)

親会社株主に帰属する当期純利益は33,990百万円となり、前期比0.1%、17百万円の増益となりました。1株当たり当期純利益は141.17円と前期比2.16円の増加となりました。

なお、2024年4月1日付で普通株式1株につき3株の割合で株式分割を行っており、1株当たり当期純利益は株式分割実施後の株数にて算出しております。

#### 経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容

国内経済は、新型コロナウイルス感染症の位置づけが「5類感染症」に移行されたことを受けて、感染症拡大前の経済水準に回復しつつあります。しかしながら、ウクライナ危機の長期化、中東情勢の緊迫化、米中の対立、原料価格の高止まり、世界的なインフレ継続と金融引締めに伴う影響もあり、世界経済の先行きは不透明な状況が継続するものと想定されます。

このような情勢下、目指す3分野「ライフ・ヘルスケア」「環境・エネルギー」「電子・情報」において、市場ニーズの変化に柔軟に対応し、化学の力で新しい価値を継続的に創出し、すべてのステークホルダーの皆様の信頼にお応えし続けることで、安心で豊かな社会の実現に向けて挑戦してまいります。

本年度も引き続き、2023年度を初年度とする3ヵ年計画「2025中期経営計画」における基本方針「実践と躍進」に沿って、「市場の変化を捉えた事業拡大」「新製品・新技術開発の加速」「生産性の向上」「安全・安心の追求」「CSRの推進」の各課題に取り組んでまいります。

「市場の変化を捉えた事業拡大」を加速するため、目指す3分野での積極的な戦略投資を推進してまいります。機能化学品事業においては、愛知事業所内の化粧品ODM（オリジナル・デザイン・マニュファクチャリング：相手先ブランドによる製品の設計・製造）ラインの増設を進めてまいります。また、医薬・医療・健康事業においては、将来の核酸医薬品等バイオ医薬品市場の成長を見込み、愛知事業所内にDDS医薬用製剤原料の製造設備の新設を進めてまいります。

「新製品・新技術開発の加速」については、バイオ化学品、熱制御素材、エレクトロニクス分野、健康食品分野等を中心に、産学官からの公募やベンチャーキャピタルなどを活用したオープンイノベーションによる協創を進め、新製品・新技術開発の加速につなげてまいります。

「生産性の向上」として、DX（デジタルトランスフォーメーション）に関する全社的な人材育成の取り組みを継続すると共に、データサイエンスを活用したMI（マテリアルズ・インフォマティクス）による新規化学素材の探索および配合組成の最適化等の研究開発の効率化、生産・品質管理システムの導入とネットワーク構築等によるスマートファクトリー化に引き続き取り組んでまいります。

「安全・安心の追求」では安全・安心な製品の提供、社会環境や自然環境への安全配慮、保安防災、労働安全の徹底に取り組み、適切な事業運営に努めてまいります。

「CSRの推進」では、サステナビリティに関する11項目のマテリアリティを特定し、これを「豊かで持続可能な社会実現のための新たな価値の提供」「事業基盤の強化」「レスポンシブル・ケア活動の推進」の3つに大別し、項目毎に目標（KPI）を設定し、その取り組みを推進しております。「豊かで持続可能な社会実現のための新たな価値の提供」では、先進医療・医薬、人の美しさと健康、アンチエイジング、環境負荷の低減、資源循環、スマート社会等、さまざまな要請に貢献するため、目指す3分野に当社の独自技術・素材を活かした製品供給を目指してまいります。「事業基盤の強化」では、収益力の強化、ワーク・ライフ・バランスの実現を目指した働き方改革の推進、価値観の多様性を受け入れる企業風土作り、レジリエンスを向上させる事業継続計画の充実等を深化してまいります。「レスポンシブル・ケア活動の推進」では、2050年のカーボンニュートラルの実現に向けた施策の検討や、化学物質の管理等の施策に取り組めます。また、TCFD（気候関連財務情報開示タスクフォース）の提言に賛同し、気候関連の情報開示の拡充に取り組んでまいります。

これらの課題への取り組みを遂行し、さらなる事業革新を進め、国際競争力のある強靱な企業体質を築いてまいります。

#### 経営方針、経営戦略、経営上の目標の達成状況を判断するための客観的な指標等

経営の主たる指標については、グループの業績評価における重要指標である営業利益のほか、株主重視の視点から個別事業における業績管理など経営効率の評価基準として、自己資本当期純利益率（ROE）、総資産経常利益率（ROA）および売上高営業利益率を活用しております。

当連結会計年度における自己資本当期純利益率（ROE）は、13.5%（前期比1.3%減少）、総資産経常利益率（ROA）は14.0%（前期比0.4%減少）、売上高営業利益率は19.0%（前期比0.3%増加）となりました。

#### セグメントごとの財政状態及び経営成績の状況に関する認識及び分析・検討内容

セグメントごとの財政状態につきましては、以下のとおりであります。

機能化学品事業における資産は、前期末に比べ、8,927百万円増加し、127,759百万円となりました。

医薬・医療・健康事業における資産は、前期末に比べ、9,377百万円増加し、47,125百万円となりました。

化薬事業における資産は、前期末に比べ、9,073百万円増加し、67,656百万円となりました。

その他の事業における資産は、前期末に比べ、162百万円増加し、4,245百万円となりました。

セグメントごとの設備投資等の概要につきましては、「第3 設備の状況 1 設備投資等の概要」に記載したとおりであります。

なお、経営成績の状況に関する認識及び分析・検討内容につきましては、「(1) 経営成績等の状況の概要 (1)財政状態及び経営成績の状況」に記載したとおりであります。

## (2)キャッシュ・フローの状況の分析・検討内容並びに資本の財源及び資金の流動性に係る情報

### 基本方針

当社グループは、独創性のある製品を国内外の市場に提供できる機能材メーカーとしてさらなる進化を遂げ、信頼され存在感のある企業グループの実現に努めるために、以下のとおり対応してまいります。

事業への資源配分については、「市場の変化を捉えた事業拡大」を加速するため、目指す3分野「ライフ・ヘルスケア」「環境・エネルギー」「電子・情報」での積極的な戦略投資を推進してまいります。

利益配分については、株主の皆様への安定的な利益還元を経営の重要課題と認識しております。利益配分の基本方針は総還元性向50%程度を現中期経営計画最終年度(2025年度)の目標水準とし、安定的な利益還元の維持継続を基本とする配当の実施とともに、自己株式取得・消却を必要に応じ実施してまいります。

なお、配当政策につきましては、「第4 提出会社の状況 3 配当政策」に記載しております。

内部留保資金は、将来に向けた成長のための設備投資や研究開発投資、財務体質の充実などにあて、収益基盤の強化を図ってまいります。

### キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度のキャッシュ・フローの状況につきましては、「(1) 経営成績等の状況の概要 (2)キャッシュ・フローの状況」に記載しております。

### 資金需要

当社グループの運転資金需要のうち主なものは、当社グループ製品製造のための材料のほか、製造費、販売費及び一般管理費等の営業費用であります。営業費用の主なものは人件費および発送配達費等の費用であります。当社グループの研究開発費は、研究開発に携わる従業員の人件費が研究開発費の主要な部分を占めております。

当社グループの投資活動にかかる資金需要のうち主なものは、高付加価値品の需要拡大に対応する生産設備、新技術開発による生産設備の新設や環境負荷低減のための設備改修等にかかる設備投資であります。

### 有利子負債

2024年3月31日現在の有利子負債の概要は下記のとおりであります。

区 分	年度別要支払額				
	合計	1年以内	1年超3年以内	3年超5年以内	5年超
短期借入金(億円)	16	16	-	-	-
長期借入金(億円)	27	-	16	11	-

### 財務政策

当社グループは現在、運転資金および設備資金につきましては、内部資金または借入により資金調達することとしております。このうち、借入による資金調達に関しましては、運転資金については期限が1年以内の短期借入金で、銀行等からの借入金および海外子会社の現地での借入金から構成されております。これに対して、生産設備などの長期資金は原則として固定金利の長期借入金で調達しております。2024年3月31日現在、長期資金の残高は27億円で、主に固定金利の円での借入であり、銀行等からの借入金であります。

当社グループは、その健全な財務状態、営業活動によるキャッシュ・フローを生み出す能力および借入により、当社グループの成長を維持するために将来必要な運転資金および設備投資資金を調達することが可能と考えております。

(3)重要な会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成されております。連結財務諸表の作成に当たって用いた会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定のうち、重要なものについては、「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1) 連結財務諸表 注記事項(重要な会計上の見積り)」に記載のとおりであります。

5【経営上の重要な契約等】

技術導入契約

契約会社名	相手方の名称	国名	契約品目	契約内容	契約期間
日油(株)	INTERNATIONAL MILITARY SERVICES LIMITED	英国	155mmFH - 70榴弾砲用発 射装薬	製造技術	1987年4月23日から 2027年3月31日
日油(株)	RHEINMETAL L W & M GMBH	ドイツ	120mm戦車砲	技術援助	2004年1月28日から 2029年1月27日
日本工機(株)	Northrop Grumman International Trading Inc.	米国	30mm機関砲用弾薬	技術援助	2007年2月28日から 2031年7月31日
日本工機(株)	Nammo Raufoss AS	ノル ウェー	20mmMP弾	技術援助	2017年3月13日から 2027年3月12日

## 6【研究開発活動】

当社グループの事業は、機能化学品、医薬・医療・健康、化薬、その他の事業からなり、これらの固有技術の展開を図るとともにグループとしての総合力を発揮して化学産業を取り巻く環境や社会ニーズの変化に対応した研究開発を進めております。成長の期待される先端分野や新規分野では、先端技術研究所および新規事業開発室を始めとする当社グループの研究部門のみならず、産学官との共同研究や委託研究により研究開発を推進しております。

当連結会計年度は、研究開発費として7,253百万円を投入しました。

以下、各事業セグメントの研究開発活動の概況についてご説明申し上げます。

### 〔主な研究開発の成果〕

#### (1)機能化学品事業

脂肪酸誘導体や界面活性剤等の油脂化学、およびエチレンオキシド・プロピレンオキシド誘導体や有機過酸化物、機能性ポリマー等の石油化学の技術を活かし高付加価値品の開発を進めております。トイレタリー関連では、環境に配慮した植物由来の紫外線散乱向上剤や炭化水素油を開発し、これら当社機能性素材を活かした化粧品処方とともに市場展開しております。環境関連では、非フッ素系の撥剤用素材、船舶用に最適な生分解性潤滑油を開発しラインナップ化を進めています。電子情報関連では、積層セラミックコンデンサー用添加剤の市場展開を進め、新パイロットプラントを活用した半導体用ポリイミド関連素材の開発も進めています。自動車用部材としては各種ランプユニットに最適な耐久性の高い防曇剤、シール材の開発と市場展開を進めています。

特殊防錆処理剤は、自動車部品向けに処理皮膜に傷が付いても耐食性が良好な水系亜鉛フレーク処理剤を開発し、市場展開を進めております。また、自動車部品に続く重点分野として建築・インフラ分野を位置づけ、市場の開拓を進めております。

当セグメントに係る研究開発費は3,506百万円であります。

#### (2)医薬・医療・健康事業

食用加工油脂・食品機能材は、少量添加で発酵バターの香りや呈味を付与できる製菓・製パン用の風味添加剤を開発いたしました。また健康関連製品ではビフィズス菌や乳酸菌などに適したコーティング技術を開発し、健康食品向け新機能の探索と新規素材の開発を進めております。

生体適合性素材は、アイケア、診断薬、医療機器関連向けにMPCポリマーや新規素材の開発を進めております。

DDS（ドラッグ・デリバリー・システム：薬物送達システム）医薬用製剤原料は、ペプチド医薬用やタンパク質医薬用の活性化PEG、抗体医薬用に単分散PEGや核酸医薬用の機能性脂質の開発を進めております。

当セグメントに係る研究開発費は1,585百万円であります。

#### (3)化薬事業

産業用爆薬類は、コスト低減と安全性の向上を目的に需要家のニーズに応えられる高性能含水爆薬や無線電子雷管、および爆薬装填システムの研究開発を行っております。また、非火薬破砕剤の用途開発も進めております。

宇宙関連製品は、H3ロケット用固体推進薬やイプシロンSロケット用固体推進薬の研究開発を進めております。

防衛関連製品は、国の防衛装備品の計画に基づき、新しい発射薬・推進薬の製品設計や製造技術の確立に向けて取り組んでおります。

当セグメントに係る研究開発費は1,245百万円であります。

#### (4)コーポレート研究

先端技術研究所で次世代の素材や技術の研究に取り組むとともに、新規事業開発室はナノ医療イノベーションセンターの研究拠点において、ライフ・ヘルスケア分野の先端医療、再生医療関連で産学官連携のオープンイノベーションを推進しております。さらに、医療・医療機器分野で「産学委託研究公募」を実施し、新素材・新技術の導入と次世代の製品群の創出を進めております。

コーポレート研究に係る研究開発費は915百万円であり、各事業セグメントに配分していない全社費用に含まれております。

## 第3【設備の状況】

## 1【設備投資等の概要】

- 当社グループでは、前連結会計年度に引き続き、
- (イ) 高付加価値品の需要拡大に対応する生産設備
  - (ロ) 新技術開発による生産設備の新設
  - (ハ) 環境負荷低減のための設備改修

等の投資を実施しました。その結果、当連結会計年度の設備投資額は、18,695百万円となりました。

機能化学品事業においては、5,790百万円の設備投資を実施しました。主な設備は、愛知事業所の機能化学品事業製品製造設備等であります。

医薬・医療・健康事業においては、9,118百万円の設備投資を実施しました。主な設備は、愛知事業所の医薬・医療・健康事業製品製造設備等であります。

化薬事業においては、2,086百万円の設備投資を実施しました。主な設備は、愛知事業所の化薬事業製品製造設備等であります。

その他事業においては、61百万円の設備投資を実施しました。

また、全社資産として、1,639百万円の設備投資を実施しました。

なお、当連結会計年度における主要設備の除却、売却等はありません。

上記の金額は、無形固定資産を含んでおります。

## 2【主要な設備の状況】

当社グループにおける主要な設備は、以下のとおりであります。

(1)提出会社

2024年3月31日現在

事業所名 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	帳簿価額(百万円)					従業員数 (名)	
			建物及び 構築物	機械装置 及び 運搬具	土地 (面積千㎡)	リース 資産	その他		合計
尼崎工場 (兵庫県尼崎市)	機能化学品 医薬・医療・健康	機能化学品事業 製品製造設備 医薬・医療・健 康事業製品製造 設備	5,928	3,309	487 (190)	-	525	10,249	320
川崎事業所 (神奈川県川崎市 川崎区)	機能化学品 医薬・医療・健康	機能化学品事業 製品製造設備 医薬・医療・健 康事業製品製造 設備	6,227	3,297	7,290 (65)	24	663	17,503	393
大分工場 (大分県大分市)	機能化学品 医薬・医療・健康	機能化学品事業 製品製造設備 医薬・医療・健 康事業製品製造 設備	790	879	1,496 (98)	-	72	3,239	82
愛知事業所 (愛知県知多郡 武豊町)	機能化学品 医薬・医療・健康 化薬	機能化学品事業 製品製造設備 医薬・医療・健 康事業製品製造 設備 化薬事業製品製 造設備	4,315	3,158	1,642 (1,682)	-	450	9,568	576
先端技術研究所 (茨城県つくば市)	その他	開発研究設備	108	-	147 (6)	-	101	356	17
本社 (東京都渋谷区)	全社管理業務・ 販売業務	その他設備	1,139	128	111 (12)	-	1,445	2,824	360

(2)国内子会社

会社名	事業所名 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	帳簿価額(百万円)						従業員数 (名)
				建物及び 構築物	機械装置 及び 運搬具	土地 (面積千㎡)	リース 資産	その他	合計	
日本工機㈱	白河製造所 (福島県西白河郡)	化薬	化薬事業製 品製造設備	1,600	715	7,559 (4,517)	-	264	10,139	356
日油技研工業㈱	本社・川越工場 (埼玉県川越市)	化薬	化薬事業製 品製造設備	800	172	76 (95)	-	80	1,129	242
NOFメタルコー ティングス㈱	本社 (神奈川県川崎市 川崎区)	機能化学 品	機能化学 品事業製 品製造設備	180	74	- (-)	6	164	426	64
日油商事㈱	本社・支店 (東京都渋谷区他)	医薬・医 療・健康 他	その他設備	177	-	1,091 (10)	3	8	1,281	33

(3)在外子会社

会社名	事業所名 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	帳簿価額(百万円)						従業員数 (名)
				建物及び 構築物	機械装置 及び 運搬具	土地 (面積千㎡)	リース 資産	その他	合計	
常熟日油化工 有限公司	本社・工場 (中国)	機能化学 品	機能化学 品事業製 品製造設備	822	840	- (-) [65]	-	102	1,765	124
PT.NOF MAS CHEMICAL INDUSTRIES	本社・工場 (インドネシア)	機能化学 品	機能化学 品事業製 品製造設備	572	1,003	- (-) [50]	-	590	2,166	156
NOF METAL COATINGS NORTH AMERICA INC.	本社・工場 (米国オハイオ州)	機能化学 品	機能化学 品事業製 品製造設備	221	221	42 (40)	9	156	650	52
NOF METAL COATINGS EUROPE S.A.	本社 (フランス)	機能化学 品	機能化学 品事業製 品製造設備	172	374	65 (24)	31	67	711	89
NOF METAL COATINGS EUROPE N.V.	本社・工場 (ベルギー)	機能化学 品	機能化学 品事業製 品製造設備	93	320	60 (10)	-	26	501	36

- (注) 1 帳簿価額のうち「その他」は、工具、器具及び備品等であり、建設仮勘定は含まれておりません。
- 2 常熟日油化工有限公司およびPT.NOF MAS CHEMICAL INDUSTRIESは土地を賃借しており、賃借している土地の面積については、[ ]で外書しております。
- 3 愛知事業所には(株)アイ・エイチ・アイ・エアロスペースへ賃貸中の土地9,100㎡を含み、尼崎工場には尼崎水素販売㈱へ賃貸中の土地3,112㎡を含んでおります。
- 4 各連結子会社の帳簿価額は、決算日現在の状況を記載しております。

### 3【設備の新設、除却等の計画】

当社グループの設備投資については、生産計画、需要予測、費用対効果、環境対策などを総合的に検討して計画しております。当連結会計年度末現在における重要な設備の新設、改修等に係る投資予定金額は、20,776百万円であります。

なお、当連結会計年度末現在における主要設備の売却予定はありません。

#### (1)重要な設備の新設等

2024年3月31日現在

会社名 事業所名	所在地	セグメントの名称	設備の内容	区分	予算金額 (百万円)	既支払額 (百万円)	今後の 所要額 (百万円)	工期予定		完成後の 増加能力
								着工	完成	
日油(株) 愛知事業所	愛知県 知多郡 武豊町	機能化学 品	機能化学 品製造 設備	増強	2,884	1,056	1,828	2022年5月	2024年9月	
日油(株) 愛知事業所	愛知県 知多郡 武豊町	医療・医 薬・健康	医療・医 薬・健 康製品 製造 設備	新設	16,558	8,163	8,395	2022年7月	2025年9月	
日油(株) 愛知事業所	愛知県 知多郡 武豊町	機能化学 品	機能化学 品製造 設備	増強	833	157	676	2023年4月	2025年2月	
日油(株) 川崎事業所	神奈川県 川崎市	機能化学 品	保安防災 設備	増強	501	-	501	2024年2月	2025年9月	
合計					20,776	9,376	11,400			

(注) 1. 今後の所要額11,400百万円には自己資金および借入金を充当する予定であります。

2. 完成後の増加能力は、算定が困難であるため記載しておりません。

#### (2)重要な設備の除却等

経常的な設備の更新のための除却等を除き、重要な設備の除却等の計画はありません。

## 第4【提出会社の状況】

### 1【株式等の状況】

#### (1)【株式の総数等】

##### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	347,000,000
計	347,000,000

(注) 2024年2月7日開催の取締役会決議により、2024年4月1日付で株式分割に伴う定款の変更が行われ、発行可能株式総数は623,000,000株増加し、970,000,000株となっております。

##### 【発行済株式】

種類	事業年度末現在発行数 (株) (2024年3月31日)	提出日現在発行数(株) (2024年6月27日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	80,841,376	242,524,128	東京証券取引所 プライム市場	単元株式数 100株
計	80,841,376	242,524,128	-	-

(注) 2024年2月7日開催の取締役会決議により、2024年4月1日付で普通株式1株につき3株の割合で株式分割を行っております。これにより、発行済株式総数は161,682,752株増加し、242,524,128株となっております。

#### (2)【新株予約権等の状況】

##### 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

##### 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

#### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

#### (4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
2021年4月1日～ 2022年3月31日 (注)1	2,000,000	82,841,376	-	17,742,010	-	15,113,363
2023年4月1日～ 2024年3月31日 (注)1	2,000,000	80,841,376	-	17,742,010	-	15,113,363

(注)1 自己株式の消却による減少であります。

2 2024年2月7日開催の取締役会決議により、2024年4月1日付で普通株式1株につき3株の割合で株式分割を行っております。これにより、発行済株式数は161,682,752株増加し、242,524,128株となっております。

(5) 【所有者別状況】

2024年3月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)							単元未満株式の状況(株)	
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他		計
					個人以外	個人			
株主数(人)	-	31	32	285	303	5	8,591	9,247	-
所有株式数(単元)	-	267,794	10,947	107,399	294,623	50	125,302	806,115	229,876
所有株式数の割合(%)	-	33.22	1.36	13.32	36.55	0.01	15.54	100.00	-

(注) 自己株式1,150,761株は「個人その他」に11,507単元、「単元未満株式の状況」に61株含まれております。

(6) 【大株主の状況】

2024年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数(千株)	発行済株式(自己株式を除く。)の総数に対する所有株式数の割合(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	東京都港区赤坂一丁目8番1号	12,423	15.58
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	東京都中央区晴海一丁目8番12号	4,438	5.57
明治安田生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内二丁目1番1号	3,128	3.92
SSBTC CLIENT OMNIBUS ACCOUNT (常任代理人 香港上海銀行)	ONE CONGRESS STREET, SUITE 1, BOSTON, MASSACHUSETTS (東京都中央区日本橋三丁目11番1号)	2,438	3.05
BNYM AS AGT/CLTS 10 PERCENT (常任代理人 株式会社三菱UFJ銀行)	240 GREENWICH STREET, NEW YORK, NEW YORK 10286, U.S.A. (東京都千代田区丸の内二丁目7番1号)	1,741	2.18
日油親栄会	東京都渋谷区恵比寿四丁目20番3号 日油株式会社経理部内	1,640	2.05
BNYM AS AGT/CLTS NON TREATY JASDEC (常任代理人 株式会社三菱UFJ銀行)	240 GREENWICH STREET, NEW YORK, NEW YORK 10286, U.S.A. (東京都千代田区丸の内二丁目7番1号)	1,475	1.85
日油共栄会	東京都渋谷区恵比寿四丁目20番3号 日油株式会社経理部内	1,358	1.70
GOVERNMENT OF NORWAY	BANKPLASSEN 2, 0107 OSLO 1 OSLO 0107 NO	1,342	1.68
NORTHERN TRUST CO.(AVFC) RE FIDELITY FUNDS (常任代理人 香港上海銀行)	50 BANK STREET CANARY WHARF LONDON E14 5NT, UK (東京都中央区日本橋三丁目11番1号)	1,328	1.66
計	-	31,315	39.29

(注) 1. 2024年3月7日付で公衆の縦覧に供されている大量保有報告書に関する変更報告書において、2024年2月29日現在において下記のとおり当社の株式を所有する旨が記載されておりますが、当社として2024年3月31日現在における実質所有株式数の確認ができませんので、上記の大株主の状況には含めておりません。

氏名または名称	住所	保有株券等の数(株)	株券等保有割合(%)
フィデリティ投信株式会社	東京都港区六本木七丁目7番7号	5,990,900	7.41

2. 2024年2月22日付で公衆の縦覧に供されている大量保有報告書に関する変更報告書において、2024年2月15日現在において下記のとおり当社の株式を所有する旨が記載されておりますが、当社として2024年3月31日現在における実質所有株式数の確認ができませんので、上記の大株主の状況には含めておりません。

氏名または名称	住所	保有株券等の数 (株)	株券等保有 割合(%)
エフエムアール エルエル シー (FMR LLC)	米国 02210 マサチューセッツ州ボストン、サ マー・ストリート245 (245 Summer Street, Boston, Massachusetts 02210, USA)	4,898,192	6.06

(7) 【議決権の状況】  
【発行済株式】

2024年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 1,150,700	-	-
	(相互保有株式) 普通株式 59,500	-	
完全議決権株式(その他)	普通株式 79,401,300	794,013	-
単元未満株式	普通株式 229,876	-	一単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	80,841,376	-	-
総株主の議決権	-	794,013	-

(注) 「完全議決権株式(その他)」には、株式給付信託(BBT)の信託財産として株式会社日本カストディ銀行が所有する当社株式38,700株(議決権の数387個)を含めております。なお、当該議決権387個は、議決権不行使となっております。

【自己株式等】

2024年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合(%)
(自己保有株式) 日油株式会社	東京都渋谷区恵比寿四丁目 20番3号	1,150,700	-	1,150,700	1.42
(相互保有株式) 日光油脂株式会社	東京都墨田区東墨田二丁目 13番23号	59,500	3,900	63,400	0.08
計	-	1,210,200	3,900	1,214,100	1.50

(注) 1. 株式給付信託(BBT)の信託財産として株式会社日本カストディ銀行が所有する当社株式38,700株については、上記の自己株式等に含まれておりません。

2. 他人名義所有分は、すべて持株会である日油親栄会の名義となっております。

( 8 ) 【役員株式所有制度の内容】

業績連動型株式報酬制度の概要

当社は、2019年6月27日開催の第96期定時株主総会の決議により、業績連動型株式報酬制度「株式給付信託（BBT(=Board Benefit Trust)）」を導入し、2021年6月29日開催の第98期定時株主総会より、監査等委員会設置会社への移行に伴い、執行役員を兼務する取締役および役付執行役員（社外取締役および監査等委員である取締役を除く。以下「取締役等」という。）を対象としております。

本制度は、当社が拠出する金銭を原資として当社株式が信託（以下、本制度に基づき設定される信託を「本信託」という。）を通じて取得され、取締役等に対して、当社が定める役員株式給付規則に従って、当社株式および当社株式を時価で換算した金額相当の金銭（以下「当社株式等」という。）が本信託を通じて給付される業績連動型株式報酬制度であります。

< 本信託の概要 >

- ( 1 ) 名称：株式給付信託（BBT）
- ( 2 ) 委託者：当社
- ( 3 ) 受託者：みずほ信託銀行株式会社（再信託受託者：株式会社日本カストディ銀行）
- ( 4 ) 受益者：取締役等を退任した者のうち役員株式給付規則に定める受益者要件を満たす者
- ( 5 ) 信託管理人：当社と利害関係のない第三者を選定
- ( 6 ) 信託の種類：金銭信託以外の金銭の信託（他益信託）
- ( 7 ) 本信託契約の締結日：2019年8月21日
- ( 8 ) 金銭を信託する日：2019年8月21日
- ( 9 ) 信託の期間：2019年8月21日から信託が終了する日まで  
（特定の終了期日は定めず、本制度が継続する限り信託は継続します。）

株式給付信託（BBT）内の株式数

2023年度末において、38,700株を保有しております。

（注）2024年2月7日開催の取締役会決議により、2024年4月1日付で普通株式1株につき3株の割合で株式分割を行っております。これにより、保有株式総数は77,400株増加し、116,100株となっております。

## 2【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第3号および第7号に基づく普通株式の取得

## (1)【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

## (2)【取締役会決議による取得の状況】

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
取締役会(2023年2月8日)での決議状況 (取得期間2023年2月9日~2023年6月30日)	900,000	4,000,000,000
当事業年度前における取得自己株式	252,100	1,493,393,000
当事業年度における取得自己株式	408,800	2,506,078,400
残存決議株式の総数及び価額の総額	239,100	528,600
当事業年度の末日現在の未行使割合(%)	26.57	0.01
当期間における取得自己株式	-	-
提出日現在の未行使割合(%)	26.57	0.01

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
取締役会(2023年11月1日)での決議状況 (取得期間2023年11月2日~2024年1月31日)	600,000	3,000,000,000
当事業年度前における取得自己株式	-	-
当事業年度における取得自己株式	439,800	2,999,395,500
残存決議株式の総数及び価額の総額	160,200	604,500
当事業年度の末日現在の未行使割合(%)	26.70	0.02
当期間における取得自己株式	-	-
提出日現在の未行使割合(%)	26.70	0.02

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
取締役会(2024年2月7日)での決議状況 (取得期間2024年2月8日~2024年3月31日)	400,000	2,000,000,000
当事業年度前における取得自己株式	-	-
当事業年度における取得自己株式	293,700	1,999,802,400
残存決議株式の総数及び価額の総額	106,300	197,600
当事業年度の末日現在の未行使割合(%)	26.58	0.01
当期間における取得自己株式	-	-
提出日現在の未行使割合(%)	26.58	0.01

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
取締役会(2024年5月9日)での決議状況 (取得期間2024年5月10日~2024年5月31日)	1,500,000	2,000,000,000
当事業年度前における取得自己株式	-	-
当事業年度における取得自己株式	-	-
残存決議株式の総数及び価額の総額	-	-
当事業年度の末日現在の未行使割合(%)	-	-
当期間における取得自己株式	439,900	904,155,650
提出日現在の未行使割合(%)	29.33	45.21

- (注) 1. 当期間における取得自己株式には、2024年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの取得自己株式は含まれておりません。
2. 2024年4月1日付で普通株式1株につき3株の割合で株式分割を行っております。このため、当事業年度における取得自己株式については株式分割前の株式数で、当期間における取得自己株式については株式分割後の株式数でそれぞれ記載しております。

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
当該事業年度における取得自己株式	2,866	18,618,263
当期間における取得自己株式	674	1,372,157

- (注) 1. 当期間における取得自己株式には、2024年6月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式は含めておりません。
2. 2024年4月1日付で、普通株式1株につき3株の割合で株式分割を行っております。このため、当該事業年度における取得自己株式については株式分割前の株式数で、当期間における取得自己株式については株式分割後の株式数でそれぞれ記載しております。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(円)	株式数(株)	処分価額の総額(円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	-	-	-	-
消却の処分を行った取得自己株式	2,000,000	10,581,220,125	-	-
合併、株式交換、株式交付、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	-	-	-	-
その他単元未満株式の売却等	-	-	-	-
保有自己株式数	1,150,761	-	3,892,857	-

- (注) 1. 当期間における処理自己株式には、2024年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の売渡しによる株式は含まれておりません。
2. 当期間における保有自己株式数には、2024年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りおよび売渡しによる株式は含まれておりません。
3. 株式給付信託(BBT)の信託財産として株式会社日本カस्टディ銀行が保有する当社株式については、上記の保有自己株式等に含まれておりません。
4. 2024年4月1日付で、普通株式1株につき3株の割合で株式分割を行っております。このため、当事業年度における株式数については株式分割前の株式数で、当期間における株式数については株式分割後の株式数でそれぞれ記載しております。

### 3【配当政策】

当社は株主の皆様への安定的な利益還元を経営の重要な課題と認識しております。2023年5月に公表した中期経営計画「NOF VISION 2030 Stage」（2023～2025年度）において収益基盤の確立に取り組むことで、さらなる企業価値の向上を目指しております。

配当政策につきましては、業績動向、財務状況、将来の事業展開に必要な内部留保の充実等を総合的に勘案し安定的な配当の維持継続を基本に考えております。併せて、自己株式取得・消却も株主還元の一つとして位置付け、総還元性向50%程度を現中期経営計画最終年度(2025年度)の目標水準とし、安定的な利益還元の維持継続を基本とする配当の実施とともに、自己株式取得・消却を必要に応じ実施してまいります。

内部留保資金の用途につきましては、将来に向けた成長のための設備投資や研究開発投資、財務体質の充実などにおいて、収益基盤の強化を図ってまいります。

当社は、中間配当と期末配当の年2回の剰余金の配当を行うこととしており、これらの決定機関は、期末配当については株主総会、中間配当については取締役会であります。

当社は、「取締役会の決議により、毎年9月30日を基準日として、中間配当を行うことができる。」旨を定款に定めております。当期の期末配当は、1株当たり58円としております。これにより、当期の配当は、中間配当とあわせて、1株当たり年間114円となります。

当事業年度に係る剰余金の配当は以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額（百万円）	1株当たり配当額（円）
2023年11月1日 取締役会決議	4,503	56
2024年6月27日 定時株主総会決議	4,622	58

（注）当社は、2024年4月1日付で普通株式1株につき3株の割合で株式分割を行っておりますが、2024年3月31日を基準とする配当につきましては、株式分割前の株式数を基準とした金額を記載しております。

## 4【コーポレート・ガバナンスの状況等】

### (1)【コーポレート・ガバナンスの概要】

#### コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社は、「バイオから宇宙まで、化学の力で新しい価値を創造する企業グループとして、人と社会に貢献します」という経営理念のもと、安定的かつ持続的な成長と発展を実現するとともに、社会の一員として、コンプライアンスはもとより、自然環境保護や健康、安全の確保などの企業の社会的責任を果たすことにより、あらゆるステークホルダーの皆様にとって、存在価値のある企業であり続けることを目指しております。

また、当社は経営環境の変化と企業間競争の激化に的確に対応するため、経営判断の迅速化を図るとともに、透明性の確保、アカウントビリティ向上の観点から、コーポレート・ガバナンスの強化を重要な課題と認識し、その実効性の確保に努めております。

#### 企業統治の体制の概要および当該体制を採用する理由

当社は、事業環境の変化に的確かつ迅速に対応する経営体制を構築するため、執行役員制度を導入し、経営の意思決定機能と業務執行機能とを分離することにより、取締役会の意思決定機能と監督機能の強化を図るとともに、代表取締役の授権に基づく業務執行体制の効率化を図っております。2021年より監査等委員である取締役が取締役会における議決権を保有すること等により取締役会の監督機能を一層強化し、また機動的な意思決定を可能とすることで経営の効率性を高め、コーポレート・ガバナンスのさらなる向上を図るため、監査等委員会設置会社に移行し、独立性を有する社外取締役（監査等委員を含む）を5名選任しております。

取締役会は、代表取締役会長 宮道建臣が議長を務め、その他のメンバーは代表取締役社長 沢村孝司、取締役 斉藤学、取締役 山内一美、社外取締役 宇波信吾、社外取締役 林いづみ、取締役・常勤監査等委員 美代眞伸、社外取締役・監査等委員 伊藤邦光、社外取締役・監査等委員 相良由里子、社外取締役・監査等委員 三浦啓一の10名で構成されています。2023年度におきましては、取締役会を計17回（定例取締役会12回、臨時取締役会5回）開催し、定款および取締役会規則に定める重要事項を決定するとともに業務執行の状況を監督しており、原燃料価格の高騰および安定調達、マルチステークホルダー方針、日油グループ税務ポリシーおよび日油グループ情報セキュリティポリシーの制定、C×O制度の導入等について討議を行いました。17回開催の取締役会のうち、16回は全員が出席、1回は1名が欠席し開催いたしました。

また、会社の全般的な業務執行方針や重要な業務の実施に関する審議機関である経営審議会は、代表取締役社長兼社長執行役員 沢村孝司が主宰し、その他のメンバーは代表取締役会長兼会長執行役員 宮道建臣、取締役兼常務執行役員 斉藤学、取締役兼常務執行役員 山内一美、常務執行役員 梅原尚也、常務執行役員 姜義哲、常務執行役員 首藤健志郎、常務執行役員 鳴海一仁で構成されているほか、常勤監査等委員 美代眞伸および関係部門長が出席し必要により意見を述べます。また、経営判断の迅速化のため、政策会議を原則週1回開催しております。政策会議は、代表取締役社長兼社長執行役員 沢村孝司が主宰し、その他のメンバーは代表取締役会長兼会長執行役員 宮道建臣、取締役兼常務執行役員 斉藤学、取締役兼常務執行役員 山内一美、常務執行役員 梅原尚也、常務執行役員 姜義哲、常務執行役員 首藤健志郎、常務執行役員 鳴海一仁で構成されています。

取締役会への重要事項の付議に際しては、経営審議会または政策会議における事前審議を経ることにより的確な意思決定を図っております。

取締役の指名・報酬に関しては、取締役会の任意の諮問機関である指名委員会および報酬委員会を設置しています。両委員会とも独立社外取締役が委員長を務め、独立社外取締役が過半数を占めます。指名委員会は、社外取締役 宇波信吾、社外取締役 林いづみ、社外取締役・監査等委員 伊藤邦光、社外取締役・監査等委員 相良由里子、社外取締役・監査等委員 三浦啓一、代表取締役社長 沢村孝司、代表取締役会長 宮道建臣の7名で構成されています。2023年度におきましては、指名委員会は計4回開催し、監査等委員である取締役を除く取締役の選任・解任に係る事項ならびに代表取締役社長の候補者とその育成計画に係る事項等を審議し取締役会へ答申しました。指名委員会は、いずれも委員全員が出席し開催いたしました。報酬委員会は、社外取締役 宇波信吾、社外取締役 林いづみ、社外取締役・監査等委員 伊藤邦光、社外取締役・監査等委員 相良由里子、社外取締役・監査等委員 三浦啓一、代表取締役社長 沢村孝司、代表取締役会長 宮道建臣の7名で構成されています。2023年度におきましては、報酬委員会は計3回開催し、監査等委員である取締役を除く取締役報酬の具体的な報酬額決定にあたっての算定方法や、ESG指標連動報酬の評価項目等を審議し、取締役会へ答申しました。また、報酬委員会は、いずれも委員全員が出席し開催いたしました。

その他、当社は、企業経営および日常の業務執行に関して、随時、弁護士、公認会計士などの専門家から経営判断の参考とするためのアドバイスを受けております。

当社は、上記のとおり、経営審議会、政策会議等による業務執行体制を整備し、これらに基づき、取締役会が重要事項の決定を行うとともに業務執行の状況を監督しております。これらに対し、独立社外取締役が過半数を占める監査等委員会が監督と監査を行うことにより経営のチェック機能の強化を図っており、経営監視機能は十分に機能していると考えております。

企業統治に関するその他の事項

a. 内部統制管理体制の整備の状況

当社および子会社は、法令および定款・社内諸規定の遵守、業務の適正を確保するため内部統制管理体制を整えております。社会規範および法令の遵守については、当社「CSR基本方針」に基づくものとしており、企業行動倫理を「日油倫理行動規範」として制定し、その徹底を図るためコンプライアンス委員会を設置しております。さらに、全ての事業活動における環境・製品・設備・物流・労働の5つの安全を確保するためにRC（レスポンスフル・ケア）規則を制定し、RC委員会が現場の確認と内部監査を実施しております。

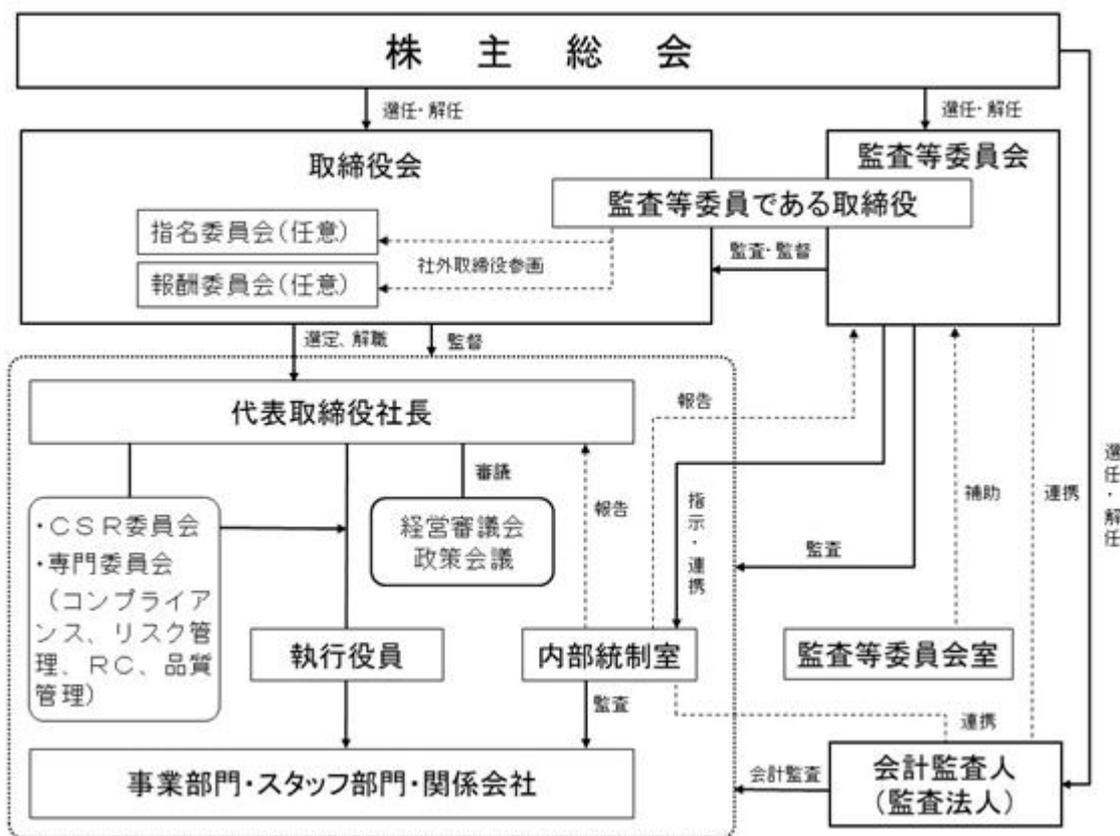
b. リスク管理体制の整備の状況

経営リスクについては、リスク管理委員会、コンプライアンス委員会、RC委員会および品質管理委員会において分析や対応策の検討を行い、取締役会に報告しております。取締役会は、コンプライアンス、情報の管理、環境・安全、リスクの網羅性の確認・評価など様々な経営リスクの報告を受け、必要に応じて審議しております。

c. 子会社の業務の適正を確保するための体制整備の状況

子会社は、当社が策定した年度方針に則して方針を策定し事業活動を推進しております。当社は、関係会社管理規則に基づき子会社に対する経営管理・モニタリングを実施し、必要に応じて助言等を行うとともに、子会社の財産や損益に重大な影響を及ぼすと判断される重要案件については、当社取締役会または経営審議会が承認しております。

当社のコーポレート・ガバナンス体制および内部統制体制の模式図は次のとおりであります。



d. 取締役の定数

当社は、取締役は14名以内（取締役（監査等委員であるものを除く。）8名以内、および監査等委員である取締役6名以内）とする旨を定款に定めております。

e. 取締役の選任の決議要件

当社は、取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨および累積投票によらない旨を定款に定めております。

f. 自己の株式の取得

当社は、経営環境の変化に対応した機動的な資本政策の遂行を可能にするため、取締役会の決議によって市場取引等により自己の株式を取得できる旨を定款に定めております。

g. 取締役の責任免除

当社は、取締役が期待された役割を十分に発揮できるようにするため、会社法第426条第1項の規定により、取締役会の決議によって取締役（取締役であった者を含む。）の責任を法令の限度において免除することができる旨を定款に定めております。

また、当社は、会社法第427条第1項の規定により、社外取締役および監査等委員である取締役の全員との間で同法第423条第1項の賠償責任を限定する契約（責任限定契約）を締結しております。当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は、法令で定める額としております。

h. 役員等賠償責任保険契約

当社は、役員等賠償責任保険契約を保険会社との間で締結しております。

当該保険契約の被保険者は当社の取締役の全員であり、保険料は特約部分も含め当社が全額負担しており、被保険者の実質的な保険料負担はありません。

当該保険契約では、被保険者である取締役がその業務につき行った行為または不作為に起因して株主または第三者から損害賠償請求をされた場合に、それによって当該取締役が被る損害が填補されます。ただし、違法であることを認識しながら行った行為（認識していたと判断できる合理的な理由がある場合を含みます。）に起因して生じた損害は填補されないなど、一定の免責事由があります。

i. 補償契約

当社は、取締役との間で、会社法第430条の2第1項に規定する補償契約を締結し、同項第1号の費用および同項第2号の損失を法令の範囲内で当社が補償することとしております。取締役の職務執行の適正性が損なわれないよう、本契約においては、補償の上限額、取締役の報告義務や資料提出義務ならびに取締役会に対する補償の請求手続き等を定めております。

j. 中間配当

当社は、株主への機動的な利益還元を可能とするため、取締役会の決議によって、毎年9月30日の最終の株主名簿に記載または記録された株主または登録株式質権者に対し、中間配当を行うことができる旨を定款に定めております。

k. 株主総会の特別決議要件

当社は、株主総会の円滑な運営を行うため、会社法第309条第2項の規定による株主総会の決議は、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款に定めております。

( 2 ) 【 役員の状況】

役員一覧

男性8名 女性2名 ( 役員のうち女性の比率20% )

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 ( 千株 )
代表取締役会長兼 会長執行役員	宮道 建臣	1956年 1月12日生	1980年 4月 当社入社 2010年 6月 執行役員、人事・総務部長 2011年 6月 取締役兼執行役員、人事・総務部長 2012年 6月 取締役兼常務執行役員、人事・総務部長 2012年12月 取締役兼常務執行役員 2018年 6月 代表取締役社長兼社長執行役員 2023年 6月 代表取締役会長兼会長執行役員( 現 )	( 注 ) 5	29
代表取締役社長兼 社長執行役員	沢村 孝司	1965年 2月 6日生	1988年 4月 当社入社 2017年 1月 D D S 事業部営業部長 2021年 6月 執行役員、D D S 事業部長 2022年 6月 常務執行役員、D D S 事業部長 2023年 4月 常務執行役員、ライフサイエンス事業部長 2023年 6月 代表取締役社長兼社長執行役員( 現 )	( 注 ) 5	3
取締役兼 常務執行役員	斉藤 学	1962年 8月15日生	1985年 4月 当社入社 2006年 6月 食品事業部機能食品営業部長 2010年 8月 川崎事業所業務部長 2011年 6月 秘書室長 2012年12月 人事・総務部長 2015年 6月 日油商事株式会社取締役管理部長 2017年 6月 二チヨ物流株式会社取締役総務部長 2020年 6月 執行役員、食品事業部長 2021年 6月 常務執行役員、食品事業部長 2023年 4月 常務執行役員、機能食品事業部長 2023年 6月 取締役兼常務執行役員( 現 )	( 注 ) 5	2
取締役兼 常務執行役員 技術本部長	山内 一美	1963年12月27日生	1987年 4月 当社入社 2009年 8月 川崎事業所千鳥工場製造部長 2014年 6月 尼崎工場技術部長 2016年 2月 衣浦工場長 2019年 6月 川崎事業所長兼大師工場長兼川崎事業所業務部長 2020年 6月 執行役員川崎事業所長兼大師工場長兼川崎事業所業務部長 2021年 6月 取締役兼執行役員、設備・環境安全統括室長 2022年 6月 取締役兼常務執行役員、設備・環境安全統括室長 2023年 4月 取締役兼常務執行役員、技術本部長( 現 )	( 注 ) 5	5
取締役	宇波 信吾	1957年11月27日生	1981年 4月 安田信託銀行株式会社( 現みずほ信託銀行株式会社 ) 入社 2008年 4月 みずほ信託銀行株式会社執行役員、人事部長 2009年 4月 執行役員、名古屋支店長 2011年 4月 平成ビルディング株式会社専務執行役員 2013年 4月 株式会社みずほトラストシステムズ取締役副社長 2018年 4月 みずほ企業年金基金専務理事( 2021年 4月専務理事退任 ) 2021年 6月 当社取締役( 現 )	( 注 ) 5	1

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
取締役	林 いづみ	1958年8月20日生	1986年4月 名古屋地方検察庁検事 1987年3月 弁護士登録(東京弁護士会)、 ローガン・高島・根本法律事務所 所入所 1993年3月 永代総合法律事務所パートナー 2013年11月 株式会社海外需要開拓支援機構 取締役(2017年6月退任) 2015年1月 桜坂法律事務所パートナー(現) 2015年6月 生化学工業株式会社取締役 (2019年6月退任) 2019年8月 株式会社ウェザーニューズ監査 役(2023年8月退任) 2020年6月 当社監査役(2021年6月退任) 2021年6月 同取締役(現) 2023年6月 株式会社ニフコ社外取締役(監 査等委員)(現) 2023年8月 株式会社ウェザーニューズ社外 取締役(現)	(注) 5	0
取締役 (監査等委員)	美代 眞伸	1961年1月4日生	1985年4月 当社入社 2014年6月 執行役員、油化事業部長 2018年6月 常務執行役員、油化事業部長 2020年6月 取締役兼常務執行役員、油化事 業部長 2021年4月 取締役兼常務執行役員 2023年6月 取締役(常勤監査等委員) (現)	(注) 6	9
取締役 (監査等委員)	伊藤 邦光	1958年8月18日生	1984年10月 アーサーヤング公認会計士共同 事務所(1986年監査法人朝日新 和会社(現有限責任あずさ監 査法人)と合併)入社 1989年3月 公認会計士登録 2009年5月 同パートナー(2017年6月同監 査法人退職) 2017年5月 税理士登録 2017年7月 潮来克士公認会計士税理士事務 所入所(2018年11月同事務所退 職) 2018年12月 伊藤会計事務所代表(現) 2020年6月 当社取締役 2021年6月 同取締役(監査等委員)(現) 2023年1月 nat toku住宅株式会社社外取締役 (現)	(注) 6	1
取締役 (監査等委員)	相良 由里子	1974年9月6日生	2001年10月 弁護士登録(第二東京弁護士 会)、中村合同特許法律事務所 入所 2005年8月 弁理士登録 2010年2月 米国ニューヨーク州弁護士登録 2013年1月 中村合同特許法律事務所パート ナー(現) 2019年6月 株式会社東京精密監査等委員で ある社外取締役(現) 2021年6月 当社取締役(監査等委員) (現)	(注) 6	0

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
取締役 (監査等委員)	三浦 啓一	1956年11月13日生	1980年4月 小野田セメント株式会社(現太平洋セメント株式会社)入社 2012年4月 太平洋セメント株式会社中央研究所長 2013年6月 執行役員 2016年4月 常務執行役員 2016年6月 取締役兼常務執行役員 2019年6月 取締役兼専務執行役員 2020年4月 取締役 2020年6月 東ソー株式会社取締役(2023年6月退任) 2021年6月 当社取締役(監査等委員)(現)	(注) 6	0
計					55

- (注) 1 所有株式数は、千株未満を切り捨てて表示しております。
- 2 取締役宇波信吾氏および林いづみ氏は、社外取締役であります。
- 3 取締役伊藤邦光氏、相良由里子氏および三浦啓一氏は、監査等委員である社外取締役であります。
- 4 当社は、取締役宇波信吾氏および林いづみ氏ならびに監査等委員である取締役伊藤邦光氏、相良由里子氏および三浦啓一氏を株式会社東京証券取引所の有価証券上場規程第436条の2に規定する独立役員に指定しております。
- 5 2024年6月27日開催の定時株主総会の終結の時から1年間であります。
- 6 2023年6月27日開催の定時株主総会の終結の時から2年間であります。
- 7 各役員の所有株式数は、株式報酬制度に基づき退任後に交付される予定の株式数(業績連動型株式報酬制度における権利確定済みポイント相当数)を含めて表示しております。その株式数は、次のとおりです。

宮道 建臣	5,892
沢村 孝司	562
斎藤 学	1,268
山内 一美	1,493

本制度の概要は、「第4 提出会社の状況 4 コーポレート・ガバナンスの状況等 (4) 役員の報酬等 業績連動報酬(株式報酬)」に記載のとおりです。

- 8 各役員の所有株式数は、2024年4月1日付けで実施した株式分割による調整前の株式数を記載しております。

- 9 当社では、執行役員制度を導入しています。  
執行役員は、以下の18名で構成されております。

役名	氏名	職名
会長執行役員	宮道 建臣	
社長執行役員	沢村 孝司	C E O
常務執行役員	梅原 尚也	C F O、経営企画部門、 コーポレート・コミュニケーション部門、経理部門管掌
常務執行役員	姜 義哲	研究本部長、ライフサイエンス部門管掌
常務執行役員	斉藤 学	C C O、機能食品部門、人事・総務部門、法務部門管掌
常務執行役員	首藤 健志郎	機能材料事業部長、資材部門管掌
常務執行役員	鳴海 一仁	化薬事業部長
常務執行役員	山内 一美	C S Q O、技術本部長、システム部門管掌
執行役員	泉澤 強	経理部長
執行役員	梶川 博行	法務部長
執行役員	片岡 智	資材部長
執行役員	加藤 博史	機能食品事業部長
執行役員	境野 俊明	経営企画部長
執行役員	瀧水 元司	情報システム部長
執行役員	鶴岡 邦昭	防錆部門長
執行役員	本多 義敬	川崎事業所長 兼 千鳥工場長 兼 川崎事業所業務部長
執行役員	前田 晃寿	人事・総務部長
執行役員	山本 裕二	ライフサイエンス事業部長

C E O (最高経営責任者)、C F O (最高財務責任者)

C C O (最高コンプライアンス責任者)、C S Q O (最高安全品質責任者)

#### 社外役員の状況

当社は、社外取締役2名、監査等委員である社外取締役3名を選任しております。社外取締役を選任するための独立性については、会社法および東京証券取引所が定める基準に加え、以下のいずれの項目にも該当しない場合、独立性を有すると判断しております。

1. 当社グループを主要な取引先とする者（直近事業年度におけるその者の連結売上高の2%以上の額の支払いを当社から受けた者をいう。）またはその業務執行者(注1)
2. 当社グループの主要な取引先（直近事業年度における当社の連結売上高の2%以上の額の支払いを当社に行っている者をいう。）またはその業務執行者(注1)
3. 当社グループの主要な借入先（直近事業年度における当社の連結総資産の2%以上の額を当社に融資している者をいう。）またはその業務執行者(注1)
4. 当社の主要株主（総議決権の10%以上の議決権を直接または間接に保有している者をいう。）またはその業務執行者(注1)
5. 当社グループの会計監査人である監査法人に所属する者
6. 当社グループから役員報酬以外に、多額(注2)の金銭その他の財産上の利益を受けている弁護士、税理士、コンサルタント等
7. 当社グループから多額(注2)の寄付または助成を受けている者または法人、組合等の団体の理事その他の業務執行者(注1)
8. 当社グループの業務執行取締役(注3)、常勤監査等委員または常勤監査役が他の会社の社外取締役または社外監査役を兼任している場合における、当該他の会社の業務執行者(注1)
9. 過去3年間において、上記1から8までのいずれかに該当していた者

注1：業務執行者とは、会社法施行規則に定める業務執行者をいい、業務執行取締役、執行役および使用人を  
含む。

注2：多額とは、過去3事業年度の平均で個人の場合は1,000万円以上、法人、組合等の団体の場合は当該団体の  
連結売上高もしくは総収入の2%を超える額をいう。

注3：業務執行取締役とは、会社法に定める業務執行取締役をいい、代表取締役および業務を執行する取締役  
をいう。

社外取締役宇波信吾氏、林いづみ氏、監査等委員である社外取締役伊藤邦光氏、相良由里子氏および三浦啓一  
氏の5名は、株式会社東京証券取引所の有価証券上場規程に定める独立役員であり、同取引所にその旨を届け出  
ております。

上記の社外取締役の5名は、いずれも当社との間には人的関係、資本的關係または取引関係その他の特別な利  
害関係はありません。なお、社外取締役による当社株式の保有状況は、「役員一覧」の「所有株式数」欄に記載  
のとおりであります。

当社は、社外取締役が企業統治において果たす機能・役割として、独立した視点から当社の経営を監督するこ  
ととともに、当社の経営全般に対して公正かつ客観的な立場から助言および提言を行うことを期待しておりま  
す。監査等委員である社外取締役には、経営者または専門家としての経験と見識をもとに、客観的な判断をする  
こととともに、専門的見地から監督・監査を行うことを期待しております。

社外取締役および監査等委員である社外取締役の業務の補助は、それぞれ主に秘書室および監査等委員会室が  
担当し、経理部および法務部がこれをサポートしております。また、取締役会議案に対する適切な理解のため  
に、必要に応じて担当部門または常勤監査等委員が社外取締役および社外監査等委員に対して、議案の詳細参考  
情報を事前説明しております。

社外取締役による監督又は監査と内部監査、監査等委員会監査及び会計監査との相互連携並びに内部統制部門  
との関係

社外取締役は、取締役会において内部統制に関して内部統制室からの監査報告、監査等委員会からの監査報告  
を定期的に受けることにより、当社グループの現状と課題を把握し、必要に応じて意見を表明しております。

監査等委員会は、会計監査人と定期的に会合をもつなど、緊密な連携を保ち、監査計画および監査報告等の情  
報の交換を行っております。監査等委員会は、内部統制に関して、内部統制室から監査報告を受けるとともに、  
必要に応じて調査を求め、また具体的な指示をしております。また、監査等委員は、CSRおよびリスク管理に  
関して、各委員会への出席、各委員会内部監査機関による内部監査への同席、各委員会内部監査機関からの監査  
結果報告の聴取・意見交換などを通じて、適切な連携を図っております。

(3) 【監査の状況】

監査等委員会監査等の状況

監査等委員会は、常勤監査等委員1名、社外取締役である監査等委員3名で構成されています。

監査等委員会が定めた監査の方針・基準等に従い、内部監査部門等との実効的な連携、また常勤監査等委員が中心となり経営審議会や各種会議への積極的な参加により、取締役の業務執行を監視する体制をとっております。監査等委員である社外取締役伊藤邦光氏は、会計事務所における長年の職歴を有し、財務および会計に関する相当程度の知見を有しております。

(イ) 監査等委員会の開催回数と各監査等委員等の出席状況

当事業年度において監査等委員会は16回開催され、各監査等委員の出席状況は以下のとおりであります。

氏名	出席回数	備考
宮崎 恒春	6回	2023年6月27日に退任しております。
美代 眞伸	10回	2023年6月27日就任以降に開催された監査等委員会を対象としております。
伊藤 邦光	16回	
相良 由里子	14回	
三浦 啓一	16回	

(ロ) 監査等委員会における具体的な検討内容

年度の監査方針、監査計画、職務分担の決定、会計監査人からの年度監査計画のヒアリング、選定監査等委員・常勤監査等委員による月次活動報告に基づく情報共有、会計監査人の評価と再任同意等となっております。なお、取締役等や会計監査人から職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めています。

(ハ) 選定監査等委員による監査活動

年度の監査計画に基づき、会計監査人や内部統制室との連携により、効率的かつ実効性のある監査体制を構築の上、事業所等への往査による業務監査を実施するほか、経営審議会等各種会議への出席を通じた業務執行状況の把握に努めております。

内部監査の状況

当社は、各リスクに関する委員会が実施する監査のほか、内部監査部門（スタッフ9名）を設置し、経営諸活動の全般にわたる業務の遂行状況の監査を行い、それらの結果は代表取締役および取締役会に報告しております。また、内部監査部門による業務監査の結果については、監査等委員会にも随時の報告を行い、評価を得て必要な指示も受けることとしております。

内部監査部門と監査等委員会および会計監査人はそれぞれの年間監査計画、監査結果の情報共有や定期的あるいは随時の会合での意見交換を行い相互の連携を図っております。

#### 会計監査の状況

会計監査人である監査法人およびその業務執行社員と当社の間には、特別の利害関係はなく、また、監査法人は自主的に当社監査に従事する業務執行社員については、一定期間以上、当社の会計監査に関与しない措置をとっております。当社と監査法人の間では、会社法監査と金融商品取引法監査について、監査契約書を締結し、それに基づき報酬を支払っております。

a. 監査法人の名称

EY新日本有限責任監査法人

b. 継続監査期間

18年

c. 業務を執行した公認会計士

狩野茂行  
川脇哲也

d. 監査業務に係る補助者の構成

公認会計士5名、その他14名

e. 監査法人の選定方針と理由

監査等委員会は、以下の方針を定めております。

監査等委員会は、「会計監査人の再任/不再任の評価基準」により、会計監査人としての品質管理体制が適切であること、監査チームが独立性および専門性を有すること、当社の広範な業務内容を理解しリスクを勘案して策定された監査計画および監査費用が合理的かつ妥当であること、海外ネットワークを活用し監査業務を効率的に遂行できること、監査等委員会と有効なコミュニケーションを図っていることなどを確認し、監査実績を踏まえて、会計監査人を総合的に評価し、選定について判断しています。

なお、会計監査人の解任または不再任の決定の方針は以下のとおりであります。

当社では、監査等委員会は、会計監査人の職務の執行に支障がある場合等、その必要があると判断した場合は、株主総会に提出する会計監査人の解任または不再任に関する議案の内容を決定いたします。

また、監査等委員会は、会計監査人が会社法第340条第1項各号に定める項目に該当すると認められる場合は、監査等委員全員の同意により監査等委員会が、会計監査人を解任します。この場合、監査等委員会が選定した監査等委員は、解任後最初に招集される株主総会において、解任した旨およびその理由を報告いたします。

f. 監査等委員および監査等委員会による監査法人の評価

監査等委員および監査等委員会は監査法人に対する評価を行っており、同法人による監査業務は適正に遂行されていることを確認しております。

監査報酬の内容等

a. 監査公認会計士等に対する報酬の内容

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)
提出会社	72	0	72	-
連結子会社	17	2	17	-
計	90	3	90	-

前連結会計年度の当社および連結子会社における非監査業務の内容は、会計基準の適用に関する助言業務等であり  
ます。

b. 監査公認会計士等と同一のネットワーク(Ernst & Young)に対する報酬(a.を除く)

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)
提出会社	-	16	-	15
連結子会社	26	30	29	17
計	26	46	29	33

前連結会計年度の当社および連結子会社における非監査業務の内容は、税務助言業務等であります。  
当連結会計年度の当社および連結子会社における非監査業務の内容は、税務助言業務等であります。

c. その他の重要な監査証明業務に基づく報酬の内容

該当事項はありません。

d. 監査報酬の決定方針

当社の監査公認会計士等に対する監査報酬の決定方針としましては、監査日数、提出会社の規模、業務の特性等を総合的に勘案して、適切に決定しております。

e. 監査等委員会が会計監査人の報酬等に同意した理由

取締役会が提案した会計監査人に対する報酬等に対して、当社の監査等委員会が会社法第399条第1項の同意をした理由は、会計監査人の監査計画の内容、職務執行状況および報酬見積りの算出根拠等につき必要な検証を行った上で、会計監査人が適正な監査を実施するために妥当な水準であると判断したためであります。

## (4) 【役員の報酬等】

役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額および対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (百万円)	報酬等の種類別の総額(百万円)			対象となる 役員の員数 (人)
		固定報酬	賞与	株式報酬	
取締役(監査等委員及び社 外取締役を除く)	226	137	75	13	6
監査等委員(社外取締役を 除く)	24	24	-	-	2
社外役員	45	45	-	-	5

- (注) 1. 取締役(監査等委員である取締役を除く)の報酬限度額は、2021年6月29日開催の第98期定時株主総会において年額360百万円以内(うち社外取締役分は年額40百万円以内。なお、使用人給与は含まない)と決議いただいております。当該定時株主総会終了後の取締役の員数は6名(うち社外取締役2名)です。
2. 上記1の取締役(監査等委員である取締役を除く)の報酬限度額とは別枠で、執行役員を兼務する取締役に対する業績連動型株式報酬「株式給付信託」は、2021年6月29日開催の第98期定時株主総会の決議により取締役に付与される1事業年度当たりのポイント数の合計は1万2千ポイントを上限としております(当社株式等の給付に際し、1ポイント当たり当社普通株式1株に換算されます)。当該定時株主総会終了後の執行役員を兼務する取締役の員数は4名です。  
当社は、2024年4月1日付けで普通株式1株につき3株の割合で株式分割を行いました。そのため、同日以降は執行役員を兼務する取締役に付与される1事業年度当たりのポイント数の合計は3万6千ポイントを上限としております。
3. 監査等委員である取締役の報酬限度額は、2021年6月29日開催の第98期定時株主総会において年額80百万円以内と決議いただいております。当該定時株主総会終了後の監査等委員である取締役の員数は4名です。

## 報酬の決定方針等

## ア. 取締役の個人別の報酬等の内容に係る方針の決定方法

監査等委員を除く取締役に係る報酬の方針に関しては、取締役会の諮問機関である報酬委員会の審議を経て、2023年1月27日開催の取締役会において方針の一部見直しを決議しております。

## イ. 決定方針の内容の概要

監査等委員を除く取締役の報酬は、当社経営理念に基づき、持続的成長と中長期的な企業価値向上を促進し、適切な報酬水準により業績等の成果に報いるものとし、その決定は、公正で透明性のあるプロセスを経て行うとの方針を定めております。また、本報酬は、月次報酬、賞与および株式報酬により構成し(社外取締役に係る業績指標に連動しない報酬とします)、短期または中長期業績と連動するインセンティブ報酬の目安(標準割合)を4割とし、報酬委員会は、報酬制度、報酬水準や個別報酬等の審議を行うものとしております。

ウ. 当事業年度に係る取締役の個人別の報酬等の内容が決定方針に沿うものであると取締役会が判断した理由  
報酬委員会は、監査等委員を除く取締役に係る報酬制度・方針に関する事項、具体的な報酬額の決定に当たっての算定方法に関する事項ならびに個別報酬額等につき、監査等委員を除く取締役に係る報酬の方針との整合性を含む多角的な視点での審議を行っております。取締役会はその審議内容を尊重し当該方針に沿うものであると判断しております。

なお、本報酬委員会は、独立社外取締役5名および代表取締役会長、代表取締役社長の7名で構成され、独立社外取締役が委員長に就任しております(当事業年度は、2023年5月、8月、11月に開催)。

## 固定報酬

取締役の固定報酬の算定方法等は、報酬委員会で審議の上、取締役会で決議しております。また、監査等委員を除く取締役の個人別の固定報酬額の具体的内容の決定に関して、報酬委員会での審議を経て、取締役会において決議しております。

## 業績連動報酬

## (賞与)

監査等委員および社外取締役を除く取締役の賞与の算定方法等は、報酬委員会の審議を経て、取締役会で決議しております。本賞与の算定方法は、当社グループの業績評価に関する重要指標である連結営業利

益を基礎に、役位毎に定めた所定係数を基準額に乗じて算定しており、報酬委員会では本算定方法および支給額を每期確認しております。

( E S G指標連動報酬 )

当社は、2023年1月27日開催の取締役会で、監査等委員および社外取締役を除く取締役の報酬（月次報酬）の一部をE S G指標の達成等を用いて算定する方法に関して決議しております。本報酬の算定方法は、当社グループにおけるサステナビリティ課題への取り組みに関する所定のE S G指標に対し、その達成度等に応じた評価係数を役位毎に定めた基準額に乗じて算定しており、報酬委員会では本算定方法および支給額を每期確認しております。なお、当期のE S G指標の目標は概ね達成しております。

( 株式報酬 )

当社は、2019年6月27日開催の第96期定時株主総会の決議により、業績連動型株式報酬制度「株式給付信託（BBT(=Board Benefit Trust)）」を導入し、2021年6月29日開催の第98期定時株主総会より、監査等委員会設置会社への移行に伴い、執行役員を兼務する取締役および役付執行役員（監査等委員および社外取締役を除く。以下「取締役等」という。）を対象としております。

本報酬については、当社の業績および株式価値との連動性をより明確にし、取締役等が株価変動リスクを株主の皆様と共有することで、中長期的な業績の向上と企業価値の増大に貢献する意識を高めることを目的として導入しております。

取締役等には、各事業年度に関して、役員株式給付規則に基づき、役位、業績達成度等を勘案して定まる数のポイントが付与されます。なお、取締役等に付与されるポイントは当社株式等の給付に際し、1ポイント当たり当社普通株式1株に換算されます（株式分割、株式無償割当てまたは株式併合等が行われた場合には、その比率等に応じて、ポイント数の上限および付与済みのポイント数または換算比率について合理的な調整を行います）。当社株式等の給付に当たり基準となる取締役等のポイントの数は、原則として、退任時まで当該取締役等に付与されたポイント数とします（以下、このようにして算出されたポイントを、「確定ポイント」という。）。

なお、役位、業績達成度等を勘案する当該算定方法を定める役員株式給付規則は、報酬委員会の審議を経て、取締役会で決議しております。

( ) 付与ポイントの算定方法

当社グループの業績評価に関する重要指標である中期経営計画の連結営業利益と自己資本当期純利益（R O E）を指標とし、その達成度に応じて定まる業績評価係数を、役位毎に定めた役位ポイントに乗じて算出します。

( 算式 )

役位ポイント×業績評価係数

$$\text{業績評価係数} = (\text{連結営業利益による業績評価係数} \times 50\%) + (\text{R O E による業績評価係数} \times 50\%)$$

業績評価係数は、業績達成度等を勘案して、0～1.5の範囲で変動します。

( ) 給付方法

給付は取締役等の退任後とし、確定ポイントに相当する当社株式および金銭（遺族給付の場合は金銭）を給付します。

( ) 当事業年度における連結営業利益およびR O E 達成度

「2025中期経営計画」の連結営業利益計画値は、460億円（当該計画最終年度）です。当期連結営業利益実績値は、421億円であり、2025中期経営計画期間の成長度に応じ算定する当期の達成度は99.4%となります。

また、「2025中期経営計画」の最終事業年度R O E 計画値は12%以上であり、当期のR O E 実績値は13.48%にて、計画値を基準とした達成度は112.3%でした。

なお、報酬委員会では定められた算定方法に基づく付与ポイントを、每期確認しております。

(5) 【株式の保有状況】

投資株式の区分の基準及び考え方

当社は、保有目的が純投資目的である投資株式と純投資目的以外の目的である投資株式の区分について、専ら株式の価値の変動または株式に係る配当によって利益を受けることを目的とする株式を純投資目的である投資株式として区分し、その他の株式を純投資目的以外の目的である投資株式として区分しております。

保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

- a. 保有方針及び保有の合理性を検証する方法並びに個別銘柄の保有の適否に関する取締役会等における検証の内容

当社は、円滑な事業運営、取引関係の維持・強化を通じて、当社の中長期的な企業価値の向上を図ることを目的として、保有に伴うリスクや資本コスト等を総合的に判断し、合理性があると認める場合に限り、株式を政策的に保有します。保有の意義が希薄と考えられる政策保有株式については、縮減するとの基本方針のもと、毎年、取締役会で個別に精査し、保有継続の可否を見直します。

b. 銘柄数および貸借対照表計上額

	銘柄数 (銘柄)	貸借対照表計上額の 合計額(百万円)
非上場株式	28	840
非上場株式以外の株式	35	46,691

(当事業年度において株式数が増加した銘柄)

	銘柄数 (銘柄)	株式数の増加に係る取得 価額の合計額(百万円)	株式数の増加の理由
非上場株式	-	-	-
非上場株式以外の株式	2	1	取引関係の維持、強化のため取引先持株会を通じて、株式を取得しました。(2銘柄)

(当事業年度において株式数が減少した銘柄)

	銘柄数 (銘柄)	株式数の減少に係る売却 価額の合計額(百万円)
非上場株式	1	107
非上場株式以外の株式	5	2,499

c. 特定投資株式およびみなし保有株式の銘柄ごとの株式数、貸借対照表計上額等に関する情報  
特定投資株式

銘柄	当事業年度	前事業年度	保有目的、業務提携等の概要、 定量的な保有効果 及び株式数が増加した理由（注2）	当社の株式の 保有の有無
	株式数（株）	株式数（株）		
	貸借対照表計上額 （百万円）	貸借対照表計上額 （百万円）		
信越化学工業(株)	1,658,490	331,698	当社機能化学品セグメントにおける取引先であり、取引関係の維持、強化のため、同社株式を継続して保有しております。株式数の増加は株式分割によるものです。	有
	10,919	7,090		
日産化学(株)	950,933	950,933	当社機能化学品セグメントにおける取引先であり、取引関係の維持、強化のため、同社株式を継続して保有しております。	有
	5,444	5,696		
ダイキン工業(株)	216,500	216,500	当社各事業における取引先であり、取引関係の維持、強化のため、同社株式を継続して保有しております。	有
	4,459	5,121		
(株)良品計画	1,439,000	1,439,000	当社機能化学品セグメントにおける取引先であり、取引関係の維持、強化のため、同社株式を継続して保有しておりますが、保有目的の適切性、保有の合理性についての検証を継続中です。	無
	3,632	2,164		
本田技研工業(株)	1,466,300	822,100	当社機能化学品セグメントにおける取引先であり、取引関係の維持、強化のため、同社株式を継続して保有しておりますが、保有目的の適切性、保有の合理性についての検証を継続中です。株式数の増加は株式分割によるものです。	無
	2,772	2,885		
日本精化(株)	1,039,135	1,039,135	当社機能化学品セグメントにおける取引先であり、取引関係の維持、強化のため、同社株式を継続して保有しております。	有
	2,660	2,718		
東洋水産(株)	206,042	206,042	当社医薬・医療・健康セグメントにおける取引先であり、取引関係の維持、強化のため、同社株式を継続して保有しております。	有
	1,952	1,143		
(株)クレハ	562,290	187,430	当社機能化学品セグメントにおける取引先であり、取引関係の維持、強化のため、同社株式を継続して保有しております。株式数の増加は株式分割によるものです。	有
	1,527	1,583		
明治ホールディングス(株)	447,472	223,736	当社医薬・医療・健康セグメントにおける取引先であり、取引関係の維持、強化のため、同社株式を継続して保有しております。株式数の増加は株式分割によるものです。	無
	1,515	1,411		
ENEOSホールディングス(株)	2,008,557	2,008,557	当社機能化学品セグメントにおける取引先であり、取引関係の維持、強化のため、同社株式を継続して保有しております。	無
	1,468	934		

銘柄	当事業年度	前事業年度	保有目的、業務提携等の概要、 定量的な保有効果 及び株式数が増加した理由（注2）	当社の株式の 保有の有無
	株式数（株）	株式数（株）		
	貸借対照表計上額 （百万円）	貸借対照表計上額 （百万円）		
ライオン(株)	1,047,072	1,047,072	当社機能化学品セグメントにおける取引先であり、取引関係の維持、強化のため、同社株式を継続して保有しております。	有
	1,421	1,498		
東洋製罐グループ ホールディングス(株)	508,080	508,080	当社各事業における原材料等の調達先であり、取引関係の維持、強化のため、同社株式を継続して保有しております。	有
	1,238	927		
カーリットホール ディングス(株)	915,000	915,000	当社化薬セグメントにおける事業提携先であり、取引関係の維持、強化のため、同社株式を継続して保有しております。	有
	1,017	635		
日鉄鉱業(株)	193,800	193,800	当社各事業における取引先であり、取引関係の維持、強化のため、同社株式を継続して保有しております。	有
	958	693		
SOMPOホール ディングス(株)	93,692	93,692	当社における資金借入先であるとともに総合的な保険サービスの提供元であり、取引関係の維持、強化のため、同社株式を継続して保有しております。	有
	896	492		
KHネオケム(株)	362,300	362,300	当社機能化学品セグメントにおける原材料等の調達先であり、取引関係の維持、強化のため、同社株式を継続して保有しております。	有
	852	868		
(株)ニッスイ	697,900	1,395,900	当社医薬・医療・健康セグメントにおける取引先であり、取引関係の維持、強化のため、同社株式を継続して保有しております。	有
	670	757		
(株)ヤクルト本社	204,000	102,000	当社機能化学品セグメントにおける取引先であり、取引関係の維持、強化のため、同社株式を継続して保有しております。株式数の増加は株式分割によるものです。	有
	636	982		
(株)いよぎんホール ディングス	500,000	500,000	当社における資金借入先であり、取引関係の維持、強化のため、同社株式を継続して保有しております。	有（注3）
	586	376		
(株)日本触媒	72,400	72,400	当社機能化学品セグメントにおける取引先であるとともに原材料等の調達先であり、取引関係の維持、強化のため、同社株式を継続して保有しております。	有
	424	382		

銘柄	当事業年度	前事業年度	保有目的、業務提携等の概要、 定量的な保有効果 及び株式数が増加した理由（注2）	当社の株式の 保有の有無
	株式数（株）	株式数（株）		
	貸借対照表計上額 （百万円）	貸借対照表計上額 （百万円）		
寿スピリッツ(株)	180,000	36,000	当社医薬・医療・健康セグメントにおける取引先であり、取引関係の維持、強化のため、同社株式を継続して保有しております。株式数の増加は株式分割によるものです。	無
	345	337		
(株)カネカ	59,519	59,519	当社機能化学品セグメントにおける取引先であり、取引関係の維持、強化のため、同社株式を継続して保有しております。	有
	227	205		
新日本理化(株)	922,875	922,875	当社機能化学品セグメントにおける取引先であり、取引関係の維持、強化のため、同社株式を継続して保有しております。	有
	174	194		
東京建物(株)	60,637	60,637	当社にとって有益な情報を継続的に提供いただくことを目的として、良好な関係の維持、強化を図るため、同社株式を継続して保有しております。	有
	159	97		
(株)ミロク	98,232	98,232	当社化薬セグメントにおける原材料等の調達先であり、取引関係の維持、強化のため、同社株式を継続して保有しております。	有
	143	150		
細谷火工(株)	100,000	100,000	当社化薬セグメントにおける取引先であり、取引関係の維持、強化のため、同社株式を継続して保有しております。	有
	136	138		
日本パーカライジング(株)	105,000	105,000	当社機能化学品セグメントにおける取引先であり、取引関係の維持、強化のため、同社株式を継続して保有しております。	有
	129	104		
J S R(株)	24,255	24,255	当社機能化学品セグメントにおける取引先であり、取引関係の維持、強化のため、同社株式を継続して保有しておりますが、保有目的の適切性、保有の合理性についての検証を継続中です。	無
	105	75		
久光製薬(株)	18,584	18,353	当社機能化学品セグメントにおける取引先であり、取引関係の維持、強化のため、取引先持株会を通じて同社株式を取得しました。	無
	73	69		
テイカ(株)	45,700	45,700	当社機能化学品セグメントにおける取引先であり、取引関係の維持、強化のため、同社株式を継続して保有しております。	有
	69	53		
TOPPANホールディングス(株)	7,739	7,647	当社機能化学品セグメントにおける取引先であり、取引関係の維持、強化のため、取引先持株会を通じて同社株式を取得しました。	無
	30	20		

銘柄	当事業年度	前事業年度	保有目的、業務提携等の概要、 定量的な保有効果 及び株式数が増加した理由（注2）	当社の株式の 保有の有無
	株式数（株）	株式数（株）		
	貸借対照表計上額 （百万円）	貸借対照表計上額 （百万円）		
大日精化工業(株)	6,453	6,453	当社機能化学品セグメントにおける取引先であり、取引関係の維持、強化のため、同社株式を継続して保有しておりますが、保有目的の適切性、保有の合理性についての検証を継続中です。	無
	19	11		
日糧製パン(株)	3,030	3,030	当社医薬・医療・健康セグメントにおける取引先であり、取引関係の維持、強化のため、同社株式を継続して保有しております。	無
	8	6		
松本油脂製薬(株)	440	440	当社機能化学品セグメントにおける取引先であり、取引関係の維持、強化のため、同社株式を継続して保有しております。	有
	7	6		
東邦化学工業(株)	12,600	22,602	当社機能化学品セグメントにおける取引先であり、取引関係の維持、強化のため、同社株式を継続して保有しておりますが、保有目的の適切性、保有の合理性についての検証を継続中です。	無
	6	11		
住友化学(株)	-	220,124		無
	-	97		
(株)ブルボン	-	8,440		無
	-	18		

（注）1. 「-」は、当該銘柄を保有していないことを示しております。

2. 保有株式の定量的な保有効果については、秘密保持等の観点から記載が困難であるため記載しておりません。保有目的の適切性や保有の合理性については、2023年10月の取締役会において、取引状況、保有に伴うリスクや資本コスト等を踏まえて、検証しました。
3. 保有先企業のグループ会社が当社株式を保有しております。

みなし保有株式

銘柄	当事業年度	前事業年度	保有目的、業務提携等の概要、 定量的な保有効果 及び株式数が増加した理由	当社の株式の 保有の有無
	株式数(株)	株式数(株)		
	貸借対照表計上額 (百万円)	貸借対照表計上額 (百万円)		
(株)みずほフィナン シャルグループ	700,000	700,000	当社における資金借入先であるとともに 総合的な金融サービスの提供元でありま す。当社は同社株式を退職給付信託に設 定しており、議決権行使の指図権を有し ております。	有
	2,132	1,314		

- (注) 1. 議決権行使権限の対象となる株式数を記載しております。  
 2. みなし保有株式の事業年度末日における時価に議決権行使権限の対象となるか株式数を乗じて得た額を記載しております。  
 3. 保有目的には、当社が有する権限の内容を記載しております。  
 4. 貸借対照表計上額の上位銘柄を選定する段階で、特定投資株式とみなし保有株式を合算しておりません。  
 5. 保有先企業のグループ会社が当社株式を保有しております。

保有目的が純投資目的である投資株式  
該当事項はありません。

## 第5【経理の状況】

### 1．連結財務諸表および財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号)に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。)に基づいて作成しております。

また、当社は、特例財務諸表提出会社に該当し、財務諸表等規則第127条の規定により財務諸表を作成していません。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(2023年4月1日から2024年3月31日まで)の連結財務諸表および事業年度(2023年4月1日から2024年3月31日まで)の財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人による監査を受けております。

### 3．連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取り組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取り組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、または会計基準等の変更等についての確に対応することができる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入し、セミナーへ参加しております。

## 1【連結財務諸表等】

## (1)【連結財務諸表】

## 【連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当連結会計年度 (2024年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	92,520	91,744
受取手形、売掛金及び契約資産	1 45,971	1, 7 54,603
電子記録債権	3,014	7 3,560
商品及び製品	30,079	27,548
仕掛品	3,412	4,805
原材料及び貯蔵品	16,245	18,653
その他	2,706	4,143
貸倒引当金	199	195
流動資産合計	193,750	204,863
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	76,870	80,434
減価償却累計額	53,689	55,644
建物及び構築物（純額）	23,181	24,789
機械装置及び運搬具	109,677	111,310
減価償却累計額	96,252	96,187
機械装置及び運搬具（純額）	13,424	15,123
土地	2 20,790	2 20,393
リース資産	490	544
減価償却累計額	344	421
リース資産（純額）	145	123
建設仮勘定	3,927	11,325
その他	17,258	18,178
減価償却累計額	14,863	15,238
その他（純額）	2,394	2,940
有形固定資産合計	3 63,863	3 74,695
無形固定資産		
その他	1,148	2,166
無形固定資産合計	1,148	2,166
投資その他の資産		
投資有価証券	4 44,719	4 51,192
長期貸付金	5	7
繰延税金資産	950	1,144
退職給付に係る資産	3,071	5,777
その他	4 1,988	4 1,661
貸倒引当金	60	60
投資その他の資産合計	50,675	59,723
固定資産合計	115,688	136,585
資産合計	309,438	341,449

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当連結会計年度 (2024年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	18,496	21,741
電子記録債務	1,230	7,137
短期借入金	2,080	1,607
1年内返済予定の長期借入金	150	-
リース債務	103	253
未払費用	1,585	1,753
未払法人税等	8,626	7,339
預り金	4,137	4,316
賞与引当金	3,521	3,655
資産除去債務	168	534
その他	6,11,496	6,11,553
流動負債合計	51,598	54,129
固定負債		
長期借入金	2,332	2,775
リース債務	178	530
繰延税金負債	9,820	12,927
執行役員退職慰労引当金	56	13
退職給付に係る負債	4,842	4,942
資産除去債務	388	23
その他	219	198
固定負債合計	17,837	21,412
負債合計	69,436	75,541
純資産の部		
株主資本		
資本金	17,742	17,742
資本剰余金	15,052	15,052
利益剰余金	192,092	206,309
自己株式	10,299	7,209
株主資本合計	214,588	231,894
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	21,725	26,685
為替換算調整勘定	2,683	4,429
退職給付に係る調整累計額	180	1,993
その他の包括利益累計額合計	24,588	33,108
非支配株主持分	825	904
純資産合計	240,002	265,907
負債純資産合計	309,438	341,449

【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】  
【連結損益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)	当連結会計年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)
売上高	1 217,709	1 222,252
売上原価	2 141,766	2 142,762
売上総利益	75,943	79,490
販売費及び一般管理費	3, 4 35,318	3, 4 37,348
営業利益	40,624	42,142
営業外収益		
受取利息	174	358
受取配当金	1,197	1,149
不動産賃貸料	273	272
為替差益	793	1,532
その他	534	705
営業外収益合計	2,973	4,018
営業外費用		
支払利息	80	129
債権流動化費用	29	30
不動産賃貸費用	82	83
固定資産撤去費用	112	177
その他	110	162
営業外費用合計	415	582
経常利益	43,183	45,577
特別利益		
固定資産売却益	5 7	5 1
固定資産受贈益	-	6 411
投資有価証券売却益	4,840	2,612
抱合せ株式消滅差益	7 34	-
特別利益合計	4,882	3,025
特別損失		
固定資産売却損	8 0	-
減損損失	9 1	9 55
固定資産除却損	10 23	10 71
投資有価証券売却損	0	7
特別損失合計	25	134
税金等調整前当期純利益	48,040	48,468
法人税、住民税及び事業税	14,114	14,561
法人税等調整額	89	153
法人税等合計	14,025	14,407
当期純利益	34,015	34,061
非支配株主に帰属する当期純利益	42	70
親会社株主に帰属する当期純利益	33,973	33,990

## 【連結包括利益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)	当連結会計年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)
当期純利益	34,015	34,061
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	2,500	4,965
為替換算調整勘定	1,957	1,761
退職給付に係る調整額	83	1,811
その他の包括利益合計	1,626	18,539
包括利益	33,389	42,600
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	33,261	42,510
非支配株主に係る包括利益	127	90

【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度（自 2022年4月1日 至 2023年3月31日）

（単位：百万円）

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	17,742	15,115	166,062	3,292	195,627
当期変動額					
剰余金の配当			7,943		7,943
親会社株主に帰属する当期純利益			33,973		33,973
自己株式の取得				7,007	7,007
自己株式の処分		0		0	0
自己株式の消却					-
自己株式処分差損の振替					-
非支配株主との取引に係る親会社の持分変動		62			62
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）					
当期変動額合計	-	62	26,030	7,007	18,960
当期末残高	17,742	15,052	192,092	10,299	214,588

	その他の包括利益累計額				非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	為替換算調整勘定	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	24,226	809	264	25,300	777	221,706
当期変動額						
剰余金の配当						7,943
親会社株主に帰属する当期純利益						33,973
自己株式の取得						7,007
自己株式の処分						0
自己株式の消却						-
自己株式処分差損の振替						-
非支配株主との取引に係る親会社の持分変動						62
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	2,501	1,874	84	711	47	663
当期変動額合計	2,501	1,874	84	711	47	18,296
当期末残高	21,725	2,683	180	24,588	825	240,002

当連結会計年度（自 2023年4月1日 至 2024年3月31日）

(単位：百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	17,742	15,052	192,092	10,299	214,588
当期変動額					
剰余金の配当			9,192		9,192
親会社株主に帰属する当期純利益			33,990		33,990
自己株式の取得				7,523	7,523
自己株式の処分				32	32
自己株式の消却		10,581		10,581	-
自己株式処分差損の振替		10,581	10,581		-
非支配株主との取引に係る親会社の持分変動		0			0
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）					
当期変動額合計	-	0	14,217	3,089	17,306
当期末残高	17,742	15,052	206,309	7,209	231,894

	その他の包括利益累計額				非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	為替換算調整勘定	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	21,725	2,683	180	24,588	825	240,002
当期変動額						
剰余金の配当						9,192
親会社株主に帰属する当期純利益						33,990
自己株式の取得						7,523
自己株式の処分						32
自己株式の消却						-
自己株式処分差損の振替						-
非支配株主との取引に係る親会社の持分変動						0
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	4,960	1,746	1,812	8,519	78	8,597
当期変動額合計	4,960	1,746	1,812	8,519	78	25,904
当期末残高	26,685	4,429	1,993	33,108	904	265,907

## 【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)	当連結会計年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前当期純利益	48,040	48,468
減価償却費	6,359	6,939
減損損失	1	55
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	279	7
受取利息及び受取配当金	1,371	1,508
支払利息	80	129
抱合せ株式消滅差損益(は益)	34	-
固定資産売却損益(は益)	6	1
固定資産受贈益	-	411
投資有価証券売却損益(は益)	4,840	2,605
売上債権の増減額(は増加)	2,967	8,413
棚卸資産の増減額(は増加)	9,410	892
仕入債務の増減額(は減少)	3,129	2,518
その他	1,107	26
小計	33,548	44,313
利息及び配当金の受取額	1,370	1,500
利息の支払額	78	129
法人税等の支払額	11,506	15,715
営業活動によるキャッシュ・フロー	23,333	29,970
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
投資有価証券の取得による支出	1,305	257
投資有価証券の売却による収入	5,612	3,572
有形及び無形固定資産の取得による支出	6,219	17,748
有形及び無形固定資産の売却による収入	22	1
短期貸付金の純増減額(は増加)	224	43
長期貸付けによる支出	6	11
長期貸付金の回収による収入	2	8
その他	960	485
投資活動によるキャッシュ・フロー	709	14,964
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額(は減少)	488	562
長期借入れによる収入	2,200	431
長期借入金の返済による支出	2,800	150
自己株式の売却による収入	0	8
自己株式の取得による支出	7,007	7,523
子会社の自己株式の取得による支出	0	2
ファイナンス・リース債務の返済による支出	130	132
配当金の支払額	7,916	9,160
非支配株主への配当金の支払額	26	9
財務活動によるキャッシュ・フロー	16,170	17,101
現金及び現金同等物に係る換算差額	1,139	524
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	7,593	1,571
現金及び現金同等物の期首残高	81,431	89,081
非連結子会社との合併に伴う現金及び現金同等物の増加額	55	-
現金及び現金同等物の期末残高	1 89,081	1 87,509

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1. 連結の範囲に関する事項

(1) 連結子会社の数 25社

主要な連結子会社名は、「第1 企業の概況 4 関係会社の状況」に記載しているため、記載を省略しております。

(2) 主要な非連結子会社の名称等

主要な非連結子会社はありません。

(連結の範囲から除いた理由)

非連結子会社は、いずれも小規模であり、合計の総資産、売上高、当期純損益(持分に見合う額)および利益剰余金(持分に見合う額)等は、いずれも連結財務諸表に重要な影響を及ぼしていないためであります。

2. 持分法の適用に関する事項

(1) 持分法適用の関連会社数

該当事項はありません。

(2) 持分法を適用しない主要な非連結子会社・関連会社の会社名等

持分法を適用していない主要な非連結子会社はありません。持分法を適用していない主要な関連会社は尼崎ユーティリティサービス(株)であります。

(持分法を適用しない理由)

持分法を適用していない非連結子会社および関連会社は、当期純損益(持分に見合う額)および利益剰余金(持分に見合う額)等からみて、持分法の対象から除いても連結財務諸表に及ぼす影響が軽微であり、かつ、全体としても重要性がないため持分法の適用範囲から除外しております。

3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社のうち、NOFメタルコーティングス(株)、常熟日油化工有限公司、PT.NOF MAS CHEMICAL INDUSTRIES、NOF AMERICA CORPORATION、NOF METAL COATINGS NORTH AMERICA INC.、(株)ニッカコーティング、NOF METAL COATINGS EUROPE S.A.、NOF METAL COATINGS EUROPE N.V.、NOF METAL COATINGS KOREA CO.,LTD.、NOF METAL COATINGS SOUTH AMERICA IND.E COM.LTDA.、NOF METAL COATINGS EUROPE s.r.l.、日油(上海)商貿有限公司、NOF EUROPE GmbHおよび恩欧富塗料商貿(上海)有限公司の決算日は12月31日であります。

連結財務諸表の作成に当たっては各社の決算日の財務諸表を使用し、連結決算日との間に生じた重要な取引については連結上必要な調整を行っております。前記以外の連結子会社の決算日は、いずれも連結決算日の3月31日であります。

#### 4. 会計方針に関する事項

##### (1) 重要な資産の評価基準および評価方法

###### 有価証券

###### 満期保有目的の債券

償却原価法（定額法）を採用しております。

###### その他有価証券

###### 市場価格のない株式等以外のもの

時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は主として移動平均法により算定）を採用しております。

###### 市場価格のない株式等

主として移動平均法による原価法を採用しております。

###### 棚卸資産

主として総平均法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）を採用しております。

##### (2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

###### 有形固定資産（リース資産を除く）

定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物及び構築物	7～50年
機械装置及び運搬具	5～10年

###### 無形固定資産（リース資産を除く）

定額法を採用しております。なお、自社利用のソフトウェアについては社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法を採用しております。

###### リース資産

###### 所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

##### (3) 重要な引当金の計上基準

###### 貸倒引当金

貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

###### 賞与引当金

当社および主要な連結子会社は従業員の賞与の支払に備えるため、賞与支給見込額の当連結会計年度負担額を計上しております。

###### 執行役員退職慰労引当金

当社の執行役員等の退職慰労金の支出に備えるため、内規に基づく当連結会計年度末要支給額を計上しております。

##### (4) 退職給付に係る会計処理の方法

###### 退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

###### 数理計算上の差異および過去勤務費用の費用処理方法

数理計算上の差異については、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法により発生翌連結会計年度から費用処理することとしております。

過去勤務費用については、その発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法により費用処理することとしております。

###### 未認識数理計算上の差異及び未認識過去勤務費用の会計処理方法

未認識数理計算上の差異及び未認識過去勤務費用については、税効果を調整の上、純資産の部におけるその他の包括利益累計額の退職給付に係る調整累計額に計上しております。

###### 小規模企業等における簡便法の採用

一部の連結子会社は、退職給付に係る負債および退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

(5)重要な収益及び費用の計上基準

・顧客との契約から生じる収益

当社グループは、次の5ステップアプローチに基づき、約束した製品または役務を顧客に移転し、顧客が当該製品または役務に対する支配を獲得した時に収益を認識しております。

ステップ1：顧客との契約を識別する

ステップ2：契約における履行義務を識別する

ステップ3：取引価格を算定する

ステップ4：取引価格を契約における履行義務に配分する

ステップ5：企業が履行義務の充足時に（又は充足するにつれて）収益を認識する

当社グループは、機能化学品事業、医薬・医療・健康事業、および化薬事業の各製品の製造・販売を主な事業としております。これらの製品の販売については、通常、製品の引渡時点において顧客が当該製品に対する支配を獲得し、履行義務が充足されると判断しており、当該製品の引渡時点等で収益を認識しております。なお、国内販売においては、出荷時から当該製品の支配が顧客に移転される時までの期間が通常の期間であるため、収益認識に関する会計基準の適用指針第98項に規定の出荷基準等の取扱いを適用し、出荷時点で収益を認識しております。

収益は顧客との契約において約束された対価から、返品、値引きおよび割戻し等を控除した収益に重大な戻入れが生じない可能性が高い範囲内の金額で算定しております。なお、約束された対価は、履行義務の充足時点から主として1年以内に回収しており、重大な金融要素は含まれておりません。

当社グループが代理人として関与した取引については、純額で収益を認識しております。

化薬事業の一部の履行義務については、製品または役務に対する支配が一定期間にわたり移転することから、義務の履行を忠実に描写する方法を使って進捗度を測定し一定期間にわたり収益を認識しております。

(6)重要なヘッジ会計の方法

ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理を採用しております。なお、為替予約等が付されている外貨建金銭債権債務等については、振当処理の要件を満たしている場合は振当処理を採用しております。

ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段

為替予約取引

ヘッジ対象

為替予約...外貨建営業取引

ヘッジ方針

為替予約取引については、為替相場の変動によるリスクの軽減を目的とし、通常の外貨建営業取引に係る契約等を踏まえ、必要な範囲内で為替予約取引を利用し、投機的な取引は行わない方針であります。

ヘッジ有効性評価の方法

ヘッジ開始時から有効性判定時点までの期間においてヘッジ対象の相場変動またはキャッシュ・フロー変動の累計とヘッジ手段の相場変動またはキャッシュ・フロー変動の累計とを比較し両者の変動額等を基礎にして判断しております。

なお、為替予約取引については、ヘッジ対象とヘッジ手段の期日、通貨種別および金額等の重要な条件が同一であるなど為替相場の変動に対し高い相関関係があると考えられるものに対しては、ヘッジの有効性の判定は省略しております。

(7)のれんの償却方法および償却期間

のれんについては投資の実態に基づいて合理的に見積りが可能なものは、その見積年数で、その他のものについては5年間で均等償却しております。

(8)連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、随時引き出し可能な預金および容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクを負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

(重要な会計上の見積り)

1. 繰延税金資産の回収可能性

(1) 当連結会計年度の連結財務諸表に計上した金額

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当連結会計年度 (2024年3月31日)
繰延税金資産(純額)	961	987

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針(企業会計基準適用指針第26号)」第29項に従い、「分類3」に該当するものとして取り扱う連結子会社に係る繰延税金資産であります。

(2) 識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する情報

算出方法

将来減算一時差異に対して、将来の収益力に基づく課税所得の見積りにより、繰延税金資産の回収可能性を判断しております。

主要な仮定

将来の収益力に基づく課税所得の見積りは、翌連結会計年度の予算および中期経営計画を基礎としており、その主要な仮定は将来の販売見込み数量であります。

翌連結会計年度の連結財務諸表に与える影響

に記載の主要な仮定については、今後の経済動向等によって、事後的な結果と乖離が生じ、翌期以降の課税所得が減少した場合には、繰延税金資産の回収可能性の見直しが発生する可能性があります。

2. 固定資産の減損

(1) 当連結会計年度の連結財務諸表に計上した金額

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当連結会計年度 (2024年3月31日)
減損損失	1	55
有形・無形固定資産	65,012	76,862

(2) 識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する情報

算出方法

当社グループは、事業用資産については主として事業部門別にグルーピングを行い、減損損失の認識の判定を行っております。減損の兆候がある資産および資産グループについては、事業別の事業計画に基づき割引前将来キャッシュ・フローを見積り、減損損失の認識の要否を判定しております。判定の結果、割引前将来キャッシュ・フローの総額が帳簿価額を下回り、減損損失の認識が必要と判断された場合、帳簿価額を回収可能価額(正味売却価額または使用価値のいずれか高い価額)まで減額し、帳簿価額の減少額は減損損失として計上しております。

主要な仮定

割引前将来キャッシュ・フローの見積りは、事業別の事業計画を基礎としており、その主要な仮定は、将来の販売見込み数量としております。

翌連結会計年度の連結財務諸表に与える影響

に記載の主要な仮定については、今後の経済動向等によって、事後的な結果と乖離が生じた場合には、新たに減損の兆候に該当する資産グループが生じることがあり、また、割引前将来キャッシュ・フローが資産グループの固定資産の帳簿価額を下回る場合には、翌連結会計年度において減損損失が発生する可能性があります。

(未適用の会計基準等)

- ・「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」(企業会計基準第27号 2022年10月28日)
- ・「包括利益の表示に関する会計基準」(企業会計基準第25号 2022年10月28日)
- ・「税効果会計に係る会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第28号 2022年10月28日)

(1) 概要

2018年2月に企業会計基準第28号「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等(以下「企業会計基準第28号等」)が公表され、日本公認会計士協会における税効果会計に関する実務指針の企業会計基準委員会への移管が完了されましたが、その審議の過程で、次の2つの論点について、企業会計基準第28号等の公表後に改めて検討を行うこととされていたものが、審議され、公表されたものであります。

- ・税金費用の計上区分(その他の包括利益に対する課税)
- ・グループ法人税制が適用される場合の子会社株式等(子会社株式または関連会社株式)の売却に係る税効果

(2) 適用予定日

2025年3月期の期首より適用します。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」等の適用による連結財務諸表に与える影響額については、現時点において評価中であります。

(追加情報)

#### 株式給付信託 (BBT)

当社は、2019年6月27日開催の第96期定時株主総会の決議に基づき、2020年3月期より、取締役(社外取締役を除く)および役付執行役員(以下「取締役等」という。)に対する業績連動型株式報酬制度「株式給付信託(BBT(=Board Benefit Trust))」を導入しております。

本制度は、取締役等の報酬と当社の業績および株式価値との連動性をより明確にし、取締役等が株価変動リスクを株主の皆様と共有することで、中長期的な業績の向上と企業価値の増大に貢献する意識を高めることを目的としております。

#### (1) 取引の概要

本制度は、当社が拠出する金銭を原資として当社株式が信託(以下、本制度に基づき設定される信託を「本信託」という。)を通じて取得され、取締役等に対して、当社が定める役員株式給付規則に従って、当社株式および当社株式を時価で換算した金額相当の金銭(以下「当社株式等」という。)が本信託を通じて給付されます。なお、取締役等が当社株式等の給付を受ける時期は、原則として取締役等の退任後となります。当該信託契約に係る会計処理については、「従業員等に信託を通じて自社の株式を交付する取引に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第30号 平成27年3月26日)に準じております。

#### (2) 信託に残存する自社の株式

当社は、本信託に残存する自社株式を、本信託における帳簿価額(付随費用の金額を除く。)により純資産の部に自己株式として計上しております。当該自己株式の帳簿価額および株式数は、前連結会計年度末164百万円および144,600株、当連結会計年度末131百万円および116,100株であります。

当社は、2024年4月1日付で普通株式1株を3株に株式分割しております。上記の株式数については、当該株式分割を考慮した株式数を記載しております。

(連結貸借対照表関係)

1 受取手形、売掛金及び契約資産のうち、顧客との契約から生じた債権および契約資産の金額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当連結会計年度 (2024年3月31日)
受取手形	752百万円	572百万円
売掛金	44,791	53,573
契約資産	427	456

2 担保に供している資産は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当連結会計年度 (2024年3月31日)
土地	160百万円	160百万円
計	160	160

担保付債務は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当連結会計年度 (2024年3月31日)
買掛債務等	153百万円	260百万円
計	153	260

3 有形固定資産の取得価額から控除している国庫補助金等による圧縮記帳累計額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当連結会計年度 (2024年3月31日)
建物及び構築物	512百万円	512百万円
機械装置及び運搬具	448	442
その他(工具、器具及び備品他)	21	13
計	981	968

4 非連結子会社および関連会社に対するものは、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当連結会計年度 (2024年3月31日)
投資有価証券(株式)	342百万円	342百万円
出資金	12	43

5 債権流動化に伴う買戻義務は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当連結会計年度 (2024年3月31日)
債権流動化に伴う買戻義務	1,686百万円	1,747百万円

6 その他のうち、契約負債の金額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当連結会計年度 (2024年3月31日)
契約負債	5,241百万円	3,903百万円

7 連結会計年度末日満期手形および電子記録債権債務

連結会計年度末日満期手形および電子記録債権債務の会計処理については、手形交換日等をもって決済処理をしております。なお、当連結会計年度の末日が金融機関の休日であったため、次の連結会計年度末日満期手形および電子記録債権債務が当連結会計年度末残高に含まれております。

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当連結会計年度 (2024年3月31日)
受取手形	- 百万円	18百万円
電子記録債権	-	149
電子記録債務	-	309

8 当社においては、運転資金の効率的な調達を行うため主要取引金融機関とコミットメントライン契約を締結しております。連結会計年度末におけるコミットメントライン契約の総額および借入未実行残高等は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当連結会計年度 (2024年3月31日)
コミットメントライン契約の総額	5,000百万円	5,000百万円
借入実行残高	-	-
差引額	5,000	5,000

(連結損益計算書関係)

1 顧客との契約から生じる収益

売上高については、顧客との契約から生じる収益およびそれ以外の収益を区分して記載しておりません。顧客との契約から生じる収益の金額は、連結財務諸表「注記事項(収益認識関係)1.顧客との契約から生じる収益を分解した情報」に記載のとおりであります。

2 棚卸資産の収益性の低下による簿価切下額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)	当連結会計年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)
売上原価	189百万円	976百万円

3 販売費及び一般管理費のうち主要な費目および金額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)	当連結会計年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)
発送配達費	5,939百万円	5,613百万円
給料手当および賞与	9,372	9,760
退職給付費用	441	409
賞与引当金繰入額	1,202	1,223
執行役員退職慰労引当金繰入額	8	2
研究開発費	5,697	6,333
貸倒引当金繰入額	0	10

4 一般管理費および当期製造費用に含まれる研究開発費の総額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)	当連結会計年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)
	6,573百万円	7,253百万円

5 固定資産売却益の内容は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)	当連結会計年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)
機械装置及び運搬具	5百万円	0百万円
その他(工具、器具及び備品他)	1	0
計	7	1

6 固定資産受贈益の内容は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)	当連結会計年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)
建物及び構築物	- 百万円	397百万円
その他(工具、器具及び備品他)	-	13
計	-	411

7 抱合せ株式消滅差益の内容は次のとおりであります。

前連結会計年度（自 2022年4月1日 至 2023年3月31日）

連結子会社である北海道日油株式会社が非連結子会社である日峰産業株式会社を吸収合併したことに伴い計上したものであります。

当連結会計年度（自 2023年4月1日 至 2024年3月31日）

該当事項はありません。

8 固定資産売却損の内容は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)	当連結会計年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)
機械装置及び運搬具	0百万円	- 百万円
計	0	-

9 減損損失

当社グループは以下の資産について減損損失を計上しております。

前連結会計年度（自 2022年4月1日 至 2023年3月31日）

場所	用途	種類	減損損失（百万円）
埼玉県川越市	生産設備等	建物等	1

当社グループは、原則として事業用資産については主として事業部門別にグルーピングを行い、また、遊休資産等については個々の資産または資産グループ単位でグルーピングを行い、減損損失の認識の判定を行っております。

埼玉県川越市の資産については、営業活動に係る収益性が低下し、将来における収益の改善が見込まれないことから、回収可能価額が帳簿価額を下回るものについて、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失（1百万円）として特別損失に計上しております。

各資産の回収可能価額は、使用価値により測定しております。なお、埼玉県川越市の資産の使用価値については、将来キャッシュ・フローがマイナスであるため割引計算は行っておりません。

減損損失の内訳は、建物及び構築物が1百万円であります。

当連結会計年度（自 2023年4月1日 至 2024年3月31日）

場所	用途	種類	減損損失（百万円）
愛知県知多郡武豊町	生産設備等	機械装置等	55

当社グループは、原則として事業用資産については主として事業部門別にグルーピングを行い、また、遊休資産等については個々の資産または資産グループ単位でグルーピングを行い、減損損失の認識の判定を行っております。

愛知県知多郡武豊町の資産については、営業活動に係る収益性が低下し、将来における収益の改善が見込まれないことから、回収可能価額が帳簿価額を下回るものについて、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失（55百万円）として特別損失に計上しております。

各資産の回収可能価額は、使用価値により測定しております。なお、愛知県知多郡武豊町の資産の使用価値については、将来キャッシュ・フローがマイナスであるため割引計算は行っておりません。

減損損失の内訳は、建物が6百万円、機械装置が30百万円、工具、器具及び備品が14百万円、その他が4百万円であります。

10 固定資産除却損の内容は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)	当連結会計年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)
建物及び構築物	5百万円	23百万円
機械装置及び運搬具	12	45
その他（工具、器具及び備品他）	5	2
計	23	71

(連結包括利益計算書関係)

## 1 その他の包括利益に係る組替調整額および税効果額

	前連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)	当連結会計年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)
その他有価証券評価差額金：		
当期発生額	1,225百万円	9,788百万円
組替調整額	4,840	2,605
税効果調整前	3,615	7,183
税効果額	1,114	2,217
その他有価証券評価差額金	2,500	4,965
為替換算調整勘定：		
当期発生額	1,957	1,761
退職給付に係る調整額：		
当期発生額	160	2,638
組替調整額	44	10
税効果調整前	116	2,628
税効果額	32	816
退職給付に係る調整額	83	1,811
その他の包括利益合計	626	8,539

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)

1. 発行済株式の種類および総数ならびに自己株式の種類および株式数に関する事項

	当連結会計年度期 首株式数(千株)	当連結会計年度増 加株式数(千株)	当連結会計年度減 少株式数(千株)	当連結会計年度末 株式数(千株)
発行済株式				
普通株式	82,841	-	-	82,841
合計	82,841	-	-	82,841
自己株式				
普通株式 (注)1、2、3	731	1,321	0	2,053
合計	731	1,321	0	2,053

- (注) 1 普通株式の自己株式の株式数の増加1,321千株は、単元未満株式の買取りによる増加1千株、市場からの買付けによる増加1,320千株であります。
- 2 普通株式の自己株式の株式数の減少0千株は、単元未満株式の処分による減少0千株であります。
- 3 当連結会計年度末の自己株式数には、株式給付信託(BBT)が所有する当社株式が48千株含まれております。

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日
2022年6月28日 定時株主総会	普通株式	3,861	47	2022年3月31日	2022年6月29日
2022年11月2日 取締役会	普通株式	4,081	50	2022年9月30日	2022年12月1日

- (注) 1 2022年6月28日定時株主総会決議による配当金の総額には、株式給付信託(BBT)が所有する当社株式に対する配当金2百万円が含まれております。
- 2 2022年11月2日取締役会決議による配当金の総額には、株式給付信託(BBT)が所有する当社株式に対する配当金2百万円が含まれております。

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日
2023年6月27日 定時株主総会	普通株式	4,688	利益剰余金	58	2023年3月31日	2023年6月28日

- (注)2023年6月27日定時株主総会決議による配当金の総額には、株式給付信託(BBT)が所有する当社株式に対する配当金2百万円が含まれております。

当連結会計年度（自 2023年4月1日 至 2024年3月31日）

1. 発行済株式の種類および総数ならびに自己株式の種類および株式数に関する事項

	当連結会計年度期首株式数（千株）	当連結会計年度増加株式数（千株）	当連結会計年度減少株式数（千株）	当連結会計年度末株式数（千株）
発行済株式				
普通株式（注）1	82,841	-	2,000	80,841
合計	82,841	-	2,000	80,841
自己株式				
普通株式（注）2、3	2,053	1,145	2,009	1,189
合計	2,053	1,145	2,009	1,189

- (注) 1 普通株式の発行済株式の減少は、株式の消却による減少2,000千株であります。
- 2 普通株式の自己株式の株式数の増加1,145千株は、単元未満株式の買取りによる増加2千株、市場からの買付けによる増加1,142千株であります。
- 3 普通株式の自己株式の株式数の減少2,009千株は、株式給付信託（BBT）の給付による減少9千株、株式の消却による減少2,000千株であります。
- 4 当連結会計年度期首および当連結会計年度期末の自己株式数には、株式給付信託（BBT）が所有する当社株式がそれぞれ48千株、38千株含まれております。

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額（百万円）	1株当たり配当額（円）	基準日	効力発生日
2023年6月27日 定時株主総会	普通株式	4,688	58	2023年3月31日	2023年6月28日
2023年11月1日 取締役会	普通株式	4,503	56	2023年9月30日	2023年12月1日

- (注) 1 2023年6月27日定時株主総会決議による配当金の総額には、株式給付信託（BBT）が所有する当社株式に対する配当金2百万円が含まれております。
- 2 2023年11月1日取締役会決議による配当金の総額には、株式給付信託（BBT）が所有する当社株式に対する配当金2百万円が含まれております。

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額（百万円）	配当の原資	1株当たり配当額（円）	基準日	効力発生日
2024年6月27日 定時株主総会	普通株式	4,622	利益剰余金	58	2024年3月31日	2024年6月28日

- (注) 1 2024年4月1日付で普通株式1株につき3株の割合で株式分割を行っておりますが、上記の1株当たり配当金については、配当基準日が2024年3月31日となるため、株式分割前の株式数を基準とした配当額を記載しております。
- 2 2024年6月27日定時株主総会決議による配当金の総額には、株式給付信託（BBT）が所有する当社株式に対する配当金2百万円が含まれております。

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)	当連結会計年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)
現金及び預金勘定	92,520百万円	91,744百万円
預入期間が3か月を超える定期預金	3,430	4,229
株式給付信託(BBT)別段預金	8	5
現金及び現金同等物	89,081	87,509

(リース取引関係)

1. ファイナンス・リース取引(借主側)

所有権移転外ファイナンス・リース取引

(1) リース資産の内容

有形固定資産

主として、生産設備(機械装置及び運搬具)であります。

無形固定資産

主として、ソフトウェアであります。

(2) リース資産の減価償却の方法

連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「4. 会計方針に関する事項 (2)重要な減価償却資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

2. オペレーティング・リース取引

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当連結会計年度 (2024年3月31日)
1年内	32	45
1年超	25	17
合計	58	62

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、短期的な預金等により資金運用し、また、運転資金および設備資金について、内部資金または銀行借入により資金調達することとしております。デリバティブは、リスクを回避するために利用し、投機的な取引は行わない方針であります。

(2) 金融商品の内容およびそのリスクならびにリスク管理体制

営業債権である受取手形、売掛金および電子記録債権は、顧客の信用リスクに晒されております。当該リスクに関しては、当社グループの与信管理規程等に従い管理を行っております。有価証券および投資有価証券は、主に満期保有目的の債券および業務上の関係を有する企業の株式であり、市場価格の変動リスクに晒されておりますが、定期的に時価や発行体(取引先企業)の財務状況を把握し、取引先企業との関係等を勘案して保有状況を継続的に見直しております。なお、満期保有目的の債券は、資金管理運用指針に従い、安全性の高い債券を運用対象としているため、信用リスクは僅少であります。

借入金は、主に設備投資等に係る資金調達であります。借入金は金利の変動リスクに晒されておりますが、長期借入金については、金利の変動リスクを回避するため、主として固定金利を利用しております。また、営業債務は流動性リスクに晒されておりますが、資金計画等を作成し管理しております。

なお、ヘッジ会計の内容については、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項 4. 会計方針に関する事項 (6)重要なヘッジ会計の方法」に記載しております。

(3) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することもあります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価およびこれらの差額については、次のとおりであります。

なお、「現金」は記載を省略しており、「預金」、「受取手形及び売掛金」、「電子記録債権」、「支払手形及び買掛金」、「電子記録債務」および「短期借入金」については短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似するものであることから、記載を省略しております。

前連結会計年度(2023年3月31日)

	連結貸借対照表計上額 (百万円)	時価(百万円)	差額(百万円)
資産			
(1) 有価証券および投資有価証券( )			
満期保有目的の債券	1,300	1,295	4
その他有価証券	42,218	42,218	-
資産計	43,518	43,514	4
負債			
(1) 長期借入金	2,482	2,473	8
負債計	2,482	2,473	8

( )以下の金融商品は、市場価格がないため、「資産(1)有価証券および投資有価証券」には含まれておりません。当該金融商品の連結貸借対照表計上額は以下のとおりであります。

(単位:百万円)

区分	当連結会計年度 (2023年3月31日)
非上場株式	1,200
出資証券	0

当連結会計年度（2024年3月31日）

	連結貸借対照表計上額 (百万円)	時価(百万円)	差額(百万円)
資産			
(1) 有価証券および投資有価証券( )			
満期保有目的の債券	1,300	1,294	5
其他有価証券	48,439	48,439	-
資産計	49,739	49,734	5
負債			
(1) 長期借入金	2,775	2,754	20
負債計	2,775	2,754	20

( )以下の金融商品は、市場価格がないため、「資産(1)有価証券および投資有価証券」には含まれておりません。当該金融商品の連結貸借対照表計上額は以下のとおりであります。

(単位：百万円)

区分	当連結会計年度 (2024年3月31日)
非上場株式	1,199
出資証券	0
投資事業有限責任組合	253

(注) 投資事業有限責任組合への出資金については、「時価の算定に関する会計基準の適用指針(企業会計基準適用指針第31号)」第24-16項に基づき、時価開示の対象とはしていません。

(注1) 金銭債権および満期がある有価証券の連結決算日後の償還予定額  
前連結会計年度(2023年3月31日)

	1年以内 (百万円)	1年超5年以内 (百万円)	5年超10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
現金及び預金	92,512	-	-	-
受取手形	752	-	-	-
売掛金	44,791	-	-	-
電子記録債権	3,014	-	-	-
有価証券および投資有価証券				
満期保有目的の債券				
社債	-	300	500	500
合計	141,070	300	500	500

当連結会計年度(2024年3月31日)

	1年以内 (百万円)	1年超5年以内 (百万円)	5年超10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
現金及び預金	91,735	-	-	-
受取手形	572	-	-	-
売掛金	53,573	-	-	-
電子記録債権	3,560	-	-	-
有価証券および投資有価証券				
満期保有目的の債券				
社債	-	300	1,000	-
合計	149,442	300	1,000	-

(注2) 長期借入金およびその他の有利子負債の連結決算日後の返済予定額  
前連結会計年度(2023年3月31日)

	1年以内	1年超2年以内	2年超3年以内	3年超4年以内	4年超5年以内	5年超
短期借入金 (百万円)	2,080	-	-	-	-	-
長期借入金 (百万円)	150	132	500	700	1,000	-

当連結会計年度(2024年3月31日)

	1年以内	1年超2年以内	2年超3年以内	3年超4年以内	4年超5年以内	5年超
短期借入金 (百万円)	1,607	-	-	-	-	-
長期借入金 (百万円)	-	925	700	1,000	150	-

3. 金融商品の時価のレベルごとの内訳等に関する事項

金融商品の時価を、時価の算定に係るインプットの観察可能性および重要性に応じて、以下の3つのレベルに分類しております。

レベル1の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、活発な市場において形成される当該時価の算定の対象となる資産又は負債に関する相場価格により算定した時価

レベル2の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、レベル1のインプット以外の時価の算定に係るインプットを用いて算定した時価

レベル3の時価：観察できない時価の算定に係るインプットを使用して算定した時価

時価の算定に重要な影響を与えるインプットを複数使用している場合には、それらのインプットがそれぞれ属するレベルのうち、時価の算定における優先順位が最も低いレベルに時価を分類しております。

(1) 時価で連結貸借対照表に計上している金融商品

前連結会計年度（2023年3月31日）

区分	時価（百万円）			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
有価証券および投資有価証券 その他有価証券 株式	42,218	-	-	42,218
資産計	42,218	-	-	42,218

当連結会計年度（2024年3月31日）

区分	時価（百万円）			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
有価証券および投資有価証券 その他有価証券 株式	48,439	-	-	48,439
資産計	48,439	-	-	48,439

(2) 時価で連結貸借対照表に計上している金融商品以外の金融商品  
前連結会計年度(2023年3月31日)

区分	時価(百万円)			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
有価証券および投資有価証券 満期保有目的の債券 社債	-	1,295	-	1,295
資産計	-	1,295	-	1,295
長期借入金	-	2,473	-	2,473
負債計	-	2,473	-	2,473

当連結会計年度(2024年3月31日)

区分	時価(百万円)			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
有価証券および投資有価証券 満期保有目的の債券 社債	-	1,294	-	1,294
資産計	-	1,294	-	1,294
長期借入金	-	2,754	-	2,754
負債計	-	2,754	-	2,754

(注) 時価の算定に用いた評価技法及び時価の算定に係るインプットの説明

有価証券および投資有価証券

上場株式は相場価格を用いて評価しております。上場株式は活発な市場で取引されているため、その時価をレベル1の時価に分類しております。一方で、当社が保有している社債は、市場での取引頻度が低く、活発な市場における相場価格とは認められないため、その時価をレベル2の時価に分類しております。

長期借入金

これらの時価は、元利金の合計額と、当該債務の残存期間および信用リスクを加味した利率を基に、割引現在価値法により算定しており、レベル2の時価に分類しております。

(有価証券関係)

1 満期保有目的の債券

前連結会計年度(2023年3月31日)

	種類	連結貸借対照表 計上額(百万円)	時価 (百万円)	差額 (百万円)
時価が連結貸借対照表 計上額を超えるもの	(1)国債・地方債等	-	-	-
	(2)社債	500	503	3
	(3)その他	-	-	-
	小計	500	503	3
時価が連結貸借対照表 計上額を超えないもの	(1)国債・地方債等	-	-	-
	(2)社債	800	792	7
	(3)その他	-	-	-
	小計	800	792	7
合計		1,300	1,295	4

当連結会計年度(2024年3月31日)

	種類	連結貸借対照表 計上額(百万円)	時価 (百万円)	差額 (百万円)
時価が連結貸借対照表 計上額を超えるもの	(1)国債・地方債等	-	-	-
	(2)社債	500	502	2
	(3)その他	-	-	-
	小計	500	502	2
時価が連結貸借対照表 計上額を超えないもの	(1)国債・地方債等	-	-	-
	(2)社債	800	792	7
	(3)その他	-	-	-
	小計	800	792	7
合計		1,300	1,294	5

2 その他有価証券

前連結会計年度(2023年3月31日)

	種類	連結貸借対照表 計上額(百万円)	取得原価 (百万円)	差額 (百万円)
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの	(1)株式	41,823	10,436	31,386
	(2)債券	-	-	-
	(3)その他	-	-	-
	小計	41,823	10,436	31,386
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの	(1)株式	395	439	44
	(2)債券	-	-	-
	(3)その他	-	-	-
	小計	395	439	44
合計		42,218	10,876	31,342

(注1) 非上場株式(連結貸借対照表計上額858百万円)、出資証券(連結貸借対照表計上額0百万円)については、市場価格がないため、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

(注2) 上表の「取得原価」は減損処理後の帳簿価額であります。

当連結会計年度(2024年3月31日)

	種類	連結貸借対照表 計上額(百万円)	取得原価 (百万円)	差額 (百万円)
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの	(1)株式	48,439	9,914	38,525
	(2)債券	-	-	-
	(3)その他	-	-	-
	小計	48,439	9,914	38,525
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの	(1)株式	-	-	-
	(2)債券	-	-	-
	(3)その他	-	-	-
	小計	-	-	-
合計		48,439	9,914	38,525

(注1) 非上場株式(連結貸借対照表計上額856百万円)、出資証券(連結貸借対照表計上額0百万円)、投資事業有限責任組合への出資金(連結貸借対照表計上額253百万円)については、市場価格がないため、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

(注2) 上表の「取得原価」は減損処理後の帳簿価額であります。

3 売却したその他有価証券

前連結会計年度(自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)

種類	売却額 (百万円)	売却益の合計額 (百万円)	売却損の合計額 (百万円)
(1)株式	5,612	4,840	0
(2)債券	-	-	-
(3)その他	-	-	-
合計	5,612	4,840	0

当連結会計年度(自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)

種類	売却額 (百万円)	売却益の合計額 (百万円)	売却損の合計額 (百万円)
(1)株式	3,572	2,612	7
(2)債券	-	-	-
(3)その他	-	-	-
合計	3,572	2,612	7

## (退職給付関係)

## 1. 採用している退職給付制度の概要

当社および連結子会社は、従業員の退職給付に充てるため、積立型、非積立型の確定給付制度および確定拠出制度を採用しております。

確定給付企業年金制度（すべて積立型制度であります。）では、人事制度上の資格と勤務期間に基づいた一時金または年金を支給いたします。また、従業員の退職等に際して割増退職金を支払う場合があります。また、提出会社においては退職給付信託を設定しております。

退職一時金制度では、退職給付として、人事制度上の資格と勤務期間に基づいた一時金を支給いたします。

なお、一部の連結子会社が有する確定給付企業年金制度および退職一時金制度は、簡便法により退職給付に係る負債および退職給付費用を計算しております。

また、一部の連結子会社は中小企業退職金共済制度および確定拠出型企業年金制度を採用しております。

## 2. 確定給付制度

## (1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表（(3)に掲げられたものを除く）

	前連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)	当連結会計年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)
退職給付債務の期首残高	23,537百万円	23,219百万円
勤務費用	1,319	1,299
利息費用	30	35
数理計算上の差異の発生額	16	17
退職給付の支払額	1,670	658
その他	17	47
退職給付債務の期末残高	23,219	23,924

## (2) 年金資産の期首残高と期末残高の調整表（(3)に掲げられたものを除く）

	前連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)	当連結会計年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)
年金資産の期首残高	23,316百万円	23,046百万円
期待運用収益	427	416
数理計算上の差異の発生額	183	2,607
事業主からの拠出額	907	743
退職給付の支払額	1,408	408
その他	11	0
年金資産の期末残高	23,046	26,406

## (3) 簡便法を採用した制度の、退職給付に係る負債の期首残高と期末残高の調整表

	前連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)	当連結会計年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)
退職給付に係る負債の期首残高	1,622百万円	1,598百万円
退職給付費用	289	253
退職給付の支払額	200	115
事業主からの拠出額	112	89
退職給付に係る負債の期末残高	1,598	1,646

(4) 退職給付債務および年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債および退職給付に係る資産の調整表

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当連結会計年度 (2024年3月31日)
積立型制度の退職給付債務	22,025百万円	22,824百万円
年金資産	24,630	28,056
	2,604	5,232
非積立型制度の退職給付債務	4,375	4,397
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	1,770	834
退職給付に係る資産	3,071	5,777
退職給付に係る負債	4,842	4,942
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	1,770	834

(注) 簡便法を適用した制度を含みます。

(5) 退職給付費用およびその内訳項目の金額

	前連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)	当連結会計年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)
勤務費用	1,319百万円	1,299百万円
利息費用	30	35
期待運用収益	427	416
数理計算上の差異の費用処理額	44	10
簡便法で計算した退職給付費用	289	253
確定給付制度に係る退職給付費用	1,256	1,160

(6) 退職給付に係る調整額

退職給付に係る調整額に計上した項目(税効果控除前)の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)	当連結会計年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)
数理計算上の差異	116百万円	2,628百万円
合計	116	2,628

(7) 退職給付に係る調整累計額

退職給付に係る調整累計額に計上した項目(税効果控除前)の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当連結会計年度 (2024年3月31日)
未認識数理計算上の差異	260百万円	2,888百万円
合計	260	2,888

(8) 年金資産に関する事項

年金資産の主な内訳

年金資産合計に対する主な分類ごとの比率は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当連結会計年度 (2024年3月31日)
株式	22%	33%
債券	35	24
一般勘定	30	27
その他	13	16
合計	100	100

(注) 年金資産合計には、企業年金制度に対して設定した退職給付信託が前連結会計年度10%、当連結会計年度12%含まれております。

長期期待運用収益率の設定方法

年金資産の長期期待運用収益率を設定するため、現在および予想される年金資産の配分と、年金資産を構成する多様な資産からの現在および将来期待される長期の収益率を考慮しております。

(9) 数理計算上の計算基礎に関する事項

主要な数理計算上の計算基礎

	前連結会計年度 (2023年3月31日)		当連結会計年度 (2024年3月31日)	
割引率	主として	0.00%	主として	0.00%
長期期待運用収益率	主として	2.00	主として	2.00
予想昇給率		1.00～5.53		1.00～5.53

3. 確定拠出制度

連結子会社の確定拠出制度への要拠出額は、前連結会計年度(自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)100百万円、当連結会計年度(自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)117百万円であります。

(ストック・オプション等関係)

該当事項はありません。

## (税効果会計関係)

## 1. 繰延税金資産および繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当連結会計年度 (2024年3月31日)
繰延税金資産		
賞与引当金	1,106百万円	1,148百万円
退職給付に係る負債	2,474	2,485
棚卸資産・固定資産未実現利益	591	598
棚卸資産評価損	258	582
未払事業税	489	421
減損損失	405	320
執行役員および役員退職慰労引当金	17	4
投資有価証券	196	184
現物分配によるみなし配当	2,125	2,125
その他	888	1,052
繰延税金資産小計	8,555	8,925
評価性引当額	2,502	2,490
繰延税金資産合計	6,052	6,435
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金	9,613	11,830
固定資産圧縮積立金	1,473	1,426
退職給付信託設定益	633	633
資本連結に伴う評価差額	1,513	1,513
その他	1,687	2,812
繰延税金負債合計	14,922	18,218
繰延税金資産(負債)の純額	8,870	11,783

## 2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当連結会計年度 (2024年3月31日)
法定実効税率	31.0%	-
(調整)		
交際費等損金不算入項目	0.0	-
税額控除	1.1	-
評価性引当額	0.1	-
均等割	0.1	-
受取配当金等益金不算入項目	0.0	-
海外子会社の税率差異	1.1	-
その他	0.3	-
税効果会計適用後の法人税等の負担率	29.2	-

(注) 当連結会計年度は、法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が法定実効税率の100分の5以下であるため注記を省略しております。

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(資産除去債務関係)

資産除去債務のうち連結貸借対照表に計上しているもの

(1)当該資産除去債務の概要

有形固定資産に使用されている有害物質(フロン、PCB等)に係る除去義務および、社宅の撤去に係る見積り費用であります。

(2)当該資産除去債務の金額の算定方法

使用見込期間を取得から2年~38年と見積り、割引率は0.00%~2.27%を使用して資産除去債務の金額を計算しております。

(3)当該資産除去債務の総額の増減

	前連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)	当連結会計年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)
期首残高	557百万円	556百万円
有形固定資産の取得に伴う増加額	2	3
時の経過による調整額	0	0
資産除去債務の履行による減少額	3	2
期末残高	556	557

## (収益認識関係)

## 1. 顧客との契約から生じる収益を分解した情報

当社グループの売上高は、主に顧客との契約から認識された収益であり、当社グループの報告セグメントを地域別に分解した場合の内訳は、以下のとおりであります。

なお、連結子会社であるNOF EUROPE GmbHにつきましては、従来「機能化学品事業」に含めておりましたが、当該子会社の業務管理区分を見直し、「医薬・医療・健康事業」に含めて表示する方法に変更しております。また、欧州の売上高の重要性が増したことに伴い、「その他」の記載を「欧州」および「その他」に変更しております。前連結会計年度についても、変更後の区分に組み替えて表示しております。

詳細は、「注記事項(セグメント情報等) セグメント情報」の「当連結会計年度 4. 報告セグメントの変更等に関する事項」に記載のとおりであります。

前連結会計年度(自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計
	機能化学品 事業	医薬・医療 ・健康事業	化薬事業	計		
売上高						
日本	90,418	23,826	29,677	143,922	457	144,380
アジア	36,179	1,754	144	38,078	51	38,130
欧州	5,632	15,131	34	20,798	-	20,798
その他	3,735	10,651	14	14,401	-	14,401
外部顧客への売上高	135,965	51,363	29,871	217,200	509	217,709

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、運送、不動産販売および管理業務等を含んでおります。

2. 売上高は、そのほとんどが顧客との契約から認識した収益であり、その他の源泉から認識した収益に重要性はないため区分して記載しておりません。

3. 従来「ライフサイエンス事業」として表示していた報告セグメントの名称を「医薬・医療・健康事業」に変更しております。

当連結会計年度(自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計
	機能化学品 事業	医薬・医療 ・健康事業	化薬事業	計		
売上高						
日本	90,164	23,253	33,962	147,380	466	147,847
アジア	32,959	2,645	130	35,735	92	35,828
欧州	6,575	15,601	27	22,203	-	22,203
その他	3,857	12,497	17	16,373	-	16,373
外部顧客への売上高	133,556	53,998	34,138	221,693	559	222,252

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、運送、不動産販売および管理業務等を含んでおります。

2. 売上高は、そのほとんどが顧客との契約から認識した収益であり、その他の源泉から認識した収益に重要性はないため区分して記載しておりません。

3. 従来「ライフサイエンス事業」として表示していた報告セグメントの名称を「医薬・医療・健康事業」に変更しております。

2. 顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報

「4. 会計方針に関する事項 (5) 重要な収益及び費用の計上基準」に同一の内容を記載しているため、注記を省略しております。

3. 顧客との契約に基づく履行義務の充足と当該契約から生じるキャッシュ・フローとの関係並びに当連結会計年度末において存在する顧客との契約から翌連結会計年度以降に認識すると見込まれる収益の金額及び時期に関する情報

(1) 契約資産及び契約負債の残高等

	前連結会計年度	当連結会計年度
顧客との契約から生じた債権（期首残高）	41,936 百万円	48,558 百万円
顧客との契約から生じた債権（期末残高）	48,558	57,706
契約資産（期首残高）	488	427
契約資産（期末残高）	427	456
契約負債（期首残高）	3,452	5,241
契約負債（期末残高）	5,241	3,903

- (注) 1. 契約資産は、化薬事業に関連して履行義務の充足に基づき認識した対価に関連するもので、連結貸借対照表の「受取手形、売掛金及び契約資産」に含まれております。
2. 契約負債は、顧客からの前受金に関連するもので、連結貸借対照表の流動負債の「その他」に含まれております。
3. 前連結会計年度に認識した収益のうち、期首現在の契約負債残高に含まれていた金額は3,080百万円であります。当連結会計年度に認識した収益のうち、期首現在の契約負債残高に含まれていた金額は、4,989百万円であります。
4. 当連結会計年度において、過去の期間に充足(又は部分的に充足)した履行義務から認識した収益の額に重要性はありません。

(2) 残存履行義務に配分した取引価格

当連結会計年度において、残存履行義務に配分した取引価格は32,743百万円であり、契約上の前提条件が満たされた場合、当連結会計年度末から概ね4年以内に収益として認識すると見込んでおります。

当社グループでは残存履行義務に配分した取引価格の注記にあたって実務上の便法を適用しており、上記の金額には当初に予想される契約期間が1年以内の契約、および知的財産のライセンス契約のうち売上高又は使用量に基づくロイヤリティについて注記の対象に含めておりません。

残存履行義務に配分した取引価格の総額及び収益の認識が見込まれる期間は、以下のとおりであります。

(単位：百万円)

	前連結会計年度	当連結会計年度
1年以内	7,510	14,035
1年超	17,965	18,708
合計	25,476	32,743

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

## 1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の事業構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、最高経営意思決定機関が、経営資源の配分の決定および業績評価のために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社は、取り扱う製品について国内および海外の包括的な戦略を立案し、事業活動を行っており、事業部門を基礎とした「機能化学品事業」、「医薬・医療・健康事業」、「化薬事業」を報告セグメントとしております。

「機能化学品事業」は、脂肪酸、脂肪酸誘導体、界面活性剤、エチレンオキシド・プロピレンオキシド誘導体、有機過酸化物、石油化学品、機能性ポリマー、電子材料、特殊防錆処理剤等を製造、販売しております。

「医薬・医療・健康事業」は、食用加工油脂・食品機能材、健康関連製品、生体適合性素材、DDS医薬用製剤原料等を製造、販売しております。

「化薬事業」は、産業用爆薬類、宇宙関連製品、防衛関連製品、機能製品等を製造、販売しております。

## 2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と同一であります。

報告セグメントの利益は、営業利益の数値であります。なお、セグメント間の取引価格および振替価格は、主に市場価格や製造原価に基づいております。

## 3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度(自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	連結財務諸 表計上額 (注)3
	機能化学 品事業	医薬・医 療・健康事 業	化薬事業	計				
売上高								
(1)外部顧客への売上高	135,965	51,363	29,871	217,200	509	217,709	-	217,709
(2)セグメント間の内部 売上高又は振替高	4,441	1,066	16	5,525	8,139	13,664	13,664	-
計	140,407	52,430	29,888	222,725	8,648	231,374	13,664	217,709
セグメント利益	22,689	18,215	1,751	42,657	209	42,866	2,242	40,624
セグメント資産	118,831	37,747	58,582	215,161	4,083	219,244	90,194	309,438
その他の項目								
減価償却費	3,356	1,002	1,630	5,989	102	6,092	266	6,359
有形固定資産及び無形 固定資産の増加額	3,354	2,900	1,088	7,344	77	7,421	422	7,844

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、運送、不動産販売および管理業務等を含んでおります。

2. 調整額は以下のとおりであります。

(1)セグメント利益の調整額 2,242百万円には、セグメント間取引消去84百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用 2,326百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

(2)セグメント資産の調整額90,194百万円には、セグメント間消去 31,243百万円、各報告セグメントに配分していない全社資産121,437百万円が含まれております。全社資産は、主に報告セグメントに帰属しない管理部門に係る資産であります。

(3)減価償却費の調整額266百万円は、全社資産に係る減価償却費であります。

(4)有形固定資産および無形固定資産の増加額の調整額422百万円は、全社資産の増加額であります。

3. セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当連結会計年度（自 2023年4月1日 至 2024年3月31日）

（単位：百万円）

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	連結財務諸 表計上額 (注) 3
	機能化学 品事業	医薬・医 療・健康事 業	化薬事業	計				
売上高								
(1)外部顧客への売上高	133,556	53,998	34,138	221,693	559	222,252	-	222,252
(2)セグメント間の内部 売上高又は振替高	3,813	996	13	4,823	8,124	12,947	12,947	-
計	137,370	54,994	34,152	226,517	8,683	235,200	12,947	222,252
セグメント利益	21,972	20,558	2,628	45,160	196	45,356	3,213	42,142
セグメント資産	127,759	47,125	67,656	242,541	4,245	246,786	94,662	341,449
その他の項目								
減価償却費	3,567	1,257	1,614	6,439	106	6,546	393	6,939
有形固定資産及び無形 固定資産の増加額	5,790	9,118	2,086	16,994	61	17,056	1,639	18,695

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、運送、不動産販売および管理業務等を含んでおります。

2. 調整額は以下のとおりであります。

(1)セグメント利益の調整額 3,213百万円には、セグメント間取引消去73百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用 3,287百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

(2)セグメント資産の調整額94,662百万円には、セグメント間消去 37,091百万円、各報告セグメントに配分していない全社資産131,754百万円が含まれております。全社資産は、主に報告セグメントに帰属しない管理部門に係る資産であります。

(3)減価償却費の調整額393百万円は、全社資産に係る減価償却費であります。

(4)有形固定資産および無形固定資産の増加額の調整額1,639百万円は、全社資産の増加額であります。

3. セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

4. 報告セグメントの変更等に関する事項

当連結会計年度より、従来「ライフサイエンス事業」として表示していた報告セグメントの名称を「医薬・医療・健康事業」に変更しております。また、連結子会社であるNOF EUROPE GmbHにつきましては、従来「機能化学品事業」に含めておりましたが、当該子会社の業務管理区分を見直し、「医薬・医療・健康事業」に含めて表示する方法に変更しております。なお、前連結会計年度のセグメント情報については、変更後の名称および区分方法により作成したものを記載しております。

【関連情報】

前連結会計年度（自 2022年4月1日 至 2023年3月31日）

1. 製品及びサービスごとの情報

報告セグメントと同一区分のため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

（単位：百万円）

日本	アジア	欧州	その他	計
144,380	38,130	20,798	14,401	217,709

(注)アジア地域への売上高には、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める中国の売上22,729百万円が含まれております。

(2) 有形固定資産

（単位：百万円）

日本	その他	計
57,325	6,538	63,863

3. 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、特定の顧客への売上高で連結損益計算書の売上高の10%以上を占めるものがないため、記載を省略しております。

当連結会計年度（自 2023年4月1日 至 2024年3月31日）

1. 製品及びサービスごとの情報

報告セグメントと同一区分のため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

（単位：百万円）

日本	アジア	欧州	その他	計
147,847	35,828	22,203	16,373	222,252

(2) 有形固定資産

（単位：百万円）

日本	その他	計
67,969	6,725	74,695

3. 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、特定の顧客への売上高で連結損益計算書の売上高の10%以上を占めるものがないため、記載を省略しております。

(表示方法の変更)

当連結会計年度より欧州の売上高の重要性が増したことに伴い、「その他」の記載を「欧州」および「その他」に変更しております。この変更に伴い、前連結会計年度については、変更後の区分に組み替えて表示しております。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度（自 2022年4月1日 至 2023年3月31日）

（単位：百万円）

	報告セグメント				全社・消去 (注)	合計
	機能化学品 事業	医薬・医療・ 健康事業	化薬事業	計		
減損損失	-	-	1	1	-	1

(注)「全社・消去」の金額は、報告セグメントに帰属しない全社資産に係る減損損失であります。

当連結会計年度（自 2023年4月1日 至 2024年3月31日）

（単位：百万円）

	報告セグメント				全社・消去 (注)	合計
	機能化学品 事業	医薬・医療・ 健康事業	化薬事業	計		
減損損失	55	-	-	55	-	55

(注)「全社・消去」の金額は、報告セグメントに帰属しない全社資産に係る減損損失であります。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

1. 関連当事者との取引

(1) 連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引

該当事項はありません。

(2) 連結財務諸表提出会社の連結子会社と関連当事者との取引

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)	当連結会計年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)
1株当たり純資産額	986円85銭	1,109円01銭
1株当たり当期純利益	139円01銭	141円17銭

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2. 当社は、2020年3月期より、株式給付信託(BBT)を導入し、当該信託が所有する当社株式を連結財務諸表において自己株式として計上しております。これに伴い、1株当たり純資産額の算定上、当該信託が所有する当社株式を期末発行済株式総数から控除する自己株式に含めております。また、1株当たり当期純利益の算定上、当該信託が所有する当社株式を普通株式の期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております。

1株当たり純資産額の算定上、控除した当該自己株式数は、前連結会計年度末において144,600株、当連結会計年度末において116,100株であります。また、1株当たり当期純利益の算定上、控除した当該自己株式の期中平均株式数は、前連結会計年度において144,600株、当連結会計年度において124,869株であります。

3. 2024年4月1日付で普通株式1株につき3株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり純資産額および1株当たり当期純利益を算定しております。

4. 1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)	当連結会計年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)
親会社株主に帰属する当期純利益 (百万円)	33,973	33,990
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 当期純利益(百万円)	33,973	33,990
期中平均株式数(千株)	244,401	240,771

(重要な後発事象)

株式分割及び株式分割に伴う定款の一部変更

当社は、2024年2月7日開催の取締役会において、株式分割及び株式分割に伴う定款の一部変更に係る事項について決議し、以下のとおり実施しております。

1. 株式分割の目的

株式分割を実施し、当社株式の投資単位当たりの金額を引き下げることにより、投資家の皆さまがより投資しやすい環境を整え、投資家層の拡大と当社株式の流動性の向上を図ることを目的としております。

2. 株式分割の方法

(1) 株式分割の方法

2024年3月31日(日)(当日は株主名簿管理人の休業日につき、実質的には2024年3月29日(金))を基準日として、同日最終の株主名簿に記録された株主の所有する当社普通株式を、1株につき3株の割合をもって分割しております。

(2) 株式の分割により増加する株式数

株式分割前の発行済株式数	80,841,376株
今回の株式分割により増加する株式数	161,682,752株
株式分割後の発行済株式総数	242,524,128株
株式分割後の発行可能株式総数	970,000,000株

(3) 株式分割の日程

基準日公告日	2024年3月15日(金)
基準日	2024年3月31日(日)
効力発生日	2024年4月1日(月)

(4) 1株当たり情報に及ぼす影響

株式分割による影響は、「注記事項(1株当たり情報)」に記載しております。

3. 株式分割に伴う定款の一部変更

(1) 変更の理由

今回の株式分割に伴い、会社法第184条第2項の規定に基づき、2024年4月1日をもって、当社定款第5条の発行可能株式総数を変更しております。

(2) 変更の内容

変更の内容は以下のとおりであります。

(下線は変更箇所を示しております。)

現行定款	変更後定款
(発行可能株式総数) 第5条 当社の発行可能株式総数は、 <u>347,000,000株</u> とする。	(発行可能株式総数) 第5条 当社の発行可能株式総数は、 <u>970,000,000株</u> とする。

(3) 変更の日程

効力発生日	2024年4月1日(月)
-------	--------------

4. その他

今回の株式分割に際して、資本金の額の変更はありません。

自己株式の取得

当社は、2024年5月9日開催の取締役会において、会社法第165条第3項の規定により読み替えて適用される同法第156条の規定に基づき、下記のとおり自己株式取得に係る事項を決議しております。

1. 自己株式の取得を行う理由

当社は株主の皆様への安定的な利益還元を経営の重要な課題と認識しております。

2023年5月に公表した中期経営計画「NOF VISION 2030 Stage 」（2023～2025年度）における配当政策については、安定的な利益還元の維持継続を基本方針とし、現中期経営計画最終年度（2025年度）において総還元性向50%程度の目標水準を掲げております。この基本方針にもとづき、自己株式取得を実施することといたしました。

2. 取得に係る取締役会の決議内容

- |                |                          |
|----------------|--------------------------|
| (1) 取得対象株式の種類  | 当社普通株式                   |
| (2) 取得し得る株式の総数 | 1,500,000株(上限)           |
| (3) 株式の取得価額の総額 | 2,000,000,000円(上限)       |
| (4) 取得期間       | 2024年5月10日より2024年6月28日まで |
| (5) 取得方法       | 東京証券取引所における市場買付け         |

【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当項目はありません。

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	8,782	11,905	1.15	-
1年以内に返済予定の長期借入金	275	115	1.04	-
1年以内に返済予定のリース債務	103	253	-	-
長期借入金 (1年以内に返済予定のものを除く。)	2,684	3,536	1.54	2025年9月29日～ 2028年12月26日
リース債務 (1年以内に返済予定のものを除く。)	178	530	-	-
その他有利子負債 その他資金の預り (1年内返済)	21,843	20,023	0.24	-
小計	33,867	36,365	-	-
内部取引の消去	28,538	30,737	-	-
合計	5,329	5,628	-	-

(注) 1 「平均利率」については、借入金等の期末残高に対する加重平均利率を記載しております。

2 リース債務の平均利率については、リース料総額に含まれる利息相当額を控除する前の金額でリース債務を連結貸借対照表に計上しているため、記載しておりません。

3 長期借入金およびリース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)の連結決算日後5年内における返済予定額は以下のとおりであります。

	1年超2年以内	2年超3年以内	3年超4年以内	4年超5年以内
長期借入金 (百万円)	925	700	1,000	150
リース債務 (百万円)	199	182	137	7

【資産除去債務明細表】

当連結会計年度期首および当連結会計年度末における資産除去債務の金額が、当連結会計年度期首および当連結会計年度末における負債および純資産の合計額の100分の1以下であるため、連結財務諸表規則第92条の2の規定により記載を省略しております。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高(百万円)	49,255	101,804	160,099	222,252
税金等調整前四半期(当期) 純利益(百万円)	12,831	23,446	36,900	48,468
親会社株主に帰属する四半期 (当期)純利益(百万円)	9,013	16,330	26,011	33,990
1株当たり四半期(当期) 純利益(円)	37.29	67.63	107.85	141.17

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期純利益(円)	37.29	30.34	40.23	33.31

(注) 当社は、2024年4月1日付で普通株式1株につき3株の割合で株式分割を行っており、当連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり四半期(当期)純利益を算定しております。

## 2【財務諸表等】

## (1)【財務諸表】

## 【貸借対照表】

(単位：百万円)

	前事業年度 (2023年3月31日)	当事業年度 (2024年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	71,150	66,920
受取手形	50	33
売掛金	41,569	47,670
商品及び製品	21,382	18,903
仕掛品	1,313	1,933
原材料及び貯蔵品	9,779	9,216
前払費用	610	839
短期貸付金	6,685	10,177
未収入金	562	556
その他	390	1,479
貸倒引当金	22	30
流動資産合計	153,473	157,701
固定資産		
有形固定資産		
建物	12,960	14,612
構築物	3,900	3,899
機械及び装置	9,281	10,734
車両運搬具	24	38
工具、器具及び備品	1,583	1,888
土地	11,437	11,440
リース資産	13	32
建設仮勘定	3,263	10,339
有形固定資産合計	1 42,465	1 52,986
無形固定資産		
借地権	126	126
ソフトウェア	608	759
リース資産	-	456
その他	28	30
無形固定資産合計	764	1,373
投資その他の資産		
投資有価証券	42,103	49,085
関係会社株式	12,354	12,354
関係会社出資金	2,739	2,739
長期貸付金	352	761
長期前払費用	708	553
前払年金費用	2,886	2,922
その他	647	640
貸倒引当金	0	0
投資その他の資産合計	61,792	69,058
固定資産合計	105,022	123,418
資産合計	258,496	281,120

(単位：百万円)

	前事業年度 (2023年3月31日)	当事業年度 (2024年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	16,323	16,918
短期借入金	700	700
1年内返済予定の長期借入金	150	-
未払金	5,425	5,767
未払費用	875	892
未払法人税等	7,494	5,716
未払消費税等	137	1,073
預り金	24,764	23,107
賞与引当金	2,417	2,443
資産除去債務	153	518
その他	198	312
流動負債合計	58,641	57,451
固定負債		
長期借入金	2,200	2,350
繰延税金負債	8,122	10,183
執行役員退職慰労引当金	53	13
資産除去債務	382	17
その他	231	599
固定負債合計	10,989	13,164
負債合計	69,630	70,616
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	17,742	17,742
資本剰余金		
資本準備金	15,113	15,113
その他資本剰余金	0	-
資本剰余金合計	15,113	15,113
利益剰余金		
利益準備金	3,156	3,156
その他利益剰余金		
固定資産圧縮積立金	3,279	3,176
別途積立金	27,800	27,800
繰越利益剰余金	111,490	125,035
利益剰余金合計	145,727	159,168
自己株式	10,299	7,209
株主資本合計	168,283	184,814
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	20,582	25,690
評価・換算差額等合計	20,582	25,690
純資産合計	188,866	210,504
負債純資産合計	258,496	281,120

## 【損益計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)	当事業年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)
売上高	155,139	156,410
売上原価	102,553	102,511
売上総利益	52,585	53,898
販売費及び一般管理費	2 20,514	2 21,499
営業利益	32,071	32,399
営業外収益		
受取利息及び配当金	4,906	7,833
不動産賃貸料	319	318
為替差益	1,010	1,623
その他	312	309
営業外収益合計	6,548	10,084
営業外費用		
支払利息	82	85
その他	278	360
営業外費用合計	361	446
経常利益	38,259	42,037
特別利益		
固定資産売却益	2	0
固定資産受贈益	-	411
投資有価証券売却益	4,559	1,931
特別利益合計	4,561	2,343
特別損失		
減損損失	-	55
固定資産除却損	11	51
特別損失合計	11	107
税引前当期純利益	42,810	44,273
法人税、住民税及び事業税	11,719	11,292
法人税等調整額	243	233
法人税等合計	11,475	11,058
当期純利益	31,334	33,214

【株主資本等変動計算書】

前事業年度（自 2022年4月1日 至 2023年3月31日）

(単位：百万円)

	株主資本							
	資本金	資本剰余金			利益準備金	利益剰余金		
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計		その他利益剰余金		
						固定資産圧縮積立金	別途積立金	繰越利益剰余金
当期首残高	17,742	15,113	-	15,113	3,156	3,331	27,800	88,047
当期変動額								
剰余金の配当								7,943
固定資産圧縮積立金の取崩						51		51
当期純利益								31,334
自己株式の取得								
自己株式の処分			0	0				
自己株式の消却								
自己株式処分差損の振替								
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）								
当期変動額合計	-	-	0	0	-	51	-	23,442
当期末残高	17,742	15,113	0	15,113	3,156	3,279	27,800	111,490

	株主資本			評価・換算差額等		純資産合計
	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計	
	利益剰余金合計					
当期首残高	122,336	3,292	151,899	23,108	23,108	175,008
当期変動額						
剰余金の配当	7,943		7,943			7,943
固定資産圧縮積立金の取崩	-		-			-
当期純利益	31,334		31,334			31,334
自己株式の取得		7,007	7,007			7,007
自己株式の処分		0	0			0
自己株式の消却			-			-
自己株式処分差損の振替			-			-
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）				2,525	2,525	2,525
当期変動額合計	23,391	7,007	16,383	2,525	2,525	13,858
当期末残高	145,727	10,299	168,283	20,582	20,582	188,866

当事業年度（自 2023年4月1日 至 2024年3月31日）

（単位：百万円）

	株主資本							
	資本金	資本剰余金			利益準備金	利益剰余金		
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計		その他利益剰余金		
					固定資産 圧縮積立金	別途積立金	繰越利益 剰余金	
当期首残高	17,742	15,113	0	15,113	3,156	3,279	27,800	111,490
当期変動額								
剰余金の配当								9,192
固定資産圧縮積立金の取崩						103		103
当期純利益								33,214
自己株式の取得								
自己株式の処分								
自己株式の消却			10,581	10,581				
自己株式処分差損の振替			10,581	10,581				10,581
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）								
当期変動額合計	-	-	0	0	-	103	-	13,544
当期末残高	17,742	15,113	-	15,113	3,156	3,176	27,800	125,035

	株主資本			評価・換算差額等		純資産合計
	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算差額 等合計	
	利益剰余金合計					
当期首残高	145,727	10,299	168,283	20,582	20,582	188,866
当期変動額						
剰余金の配当	9,192		9,192			9,192
固定資産圧縮積立金の取崩	-		-			-
当期純利益	33,214		33,214			33,214
自己株式の取得		7,523	7,523			7,523
自己株式の処分		32	32			32
自己株式の消却		10,581	-			-
自己株式処分差損の振替	10,581		-			-
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）				5,107	5,107	5,107
当期変動額合計	13,441	3,089	16,530	5,107	5,107	21,638
当期末残高	159,168	7,209	184,814	25,690	25,690	210,504

【注記事項】

(重要な会計方針)

1.資産の評価基準および評価方法

(1)有価証券の評価基準および評価方法

子会社株式および関連会社株式

移動平均法による原価法を採用しております。

満期保有目的の債券

償却原価法(定額法)を採用しております。

その他有価証券

市場価格のない株式等以外のもの

時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)を採用しております。

市場価格のない株式等

移動平均法による原価法を採用しております。

(2)棚卸資産の評価基準および評価方法

総平均法による原価法を採用しております。

(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定しております。)

2.固定資産の減価償却の方法

(1)有形固定資産(リース資産を除く)

定額法を採用しております。

(2)無形固定資産(リース資産を除く)

定額法を採用しております。なお、ソフトウェア(自社利用)は社内利用可能期間(5年)による定額法を採用しております。

(3)リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

3.引当金の計上基準

(1)貸倒引当金

貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

(2)賞与引当金

従業員の賞与の支払に備えるため、賞与支給見込額の当期負担額を計上しております。

(3)退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務および年金資産の見込額に基づき計上しております。

なお、年金資産見込額が退職給付債務見込額を超過しているため、超過額を前払年金費用に計上しております。

数理計算上の差異については、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(10年)による定額法により発生翌事業年度から損益処理することとしております。

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

(4)執行役員退職慰労引当金

執行役員等の退職慰労金の支出に備えるため、内規に基づく当期末要支給額を計上しております。

4.収益および費用の計上基準

顧客との契約から生じる収益

当社は、次の5ステップアプローチに基づき、約束した製品または役務を顧客に移転し、顧客が当該製品または役務に対する支配を獲得した時に収益を認識しております。

ステップ1:顧客との契約を識別する

ステップ2:契約における履行義務を識別する

ステップ3:取引価格を算定する

ステップ4:取引価格を契約における履行義務に配分する

ステップ5:企業が履行義務の充足時に(又は充足するにつれて)収益を認識する

当社は、機能化学品事業、医薬・医療・健康事業、および化薬事業の各製品の製造・販売を主な事業としております。これらの製品の販売については、通常、製品の引渡時点において顧客が当該製品に対する支配を獲得し、履行義務が充足されると判断しており、当該製品の引渡時点等で収益を認識しております。なお、国内販売においては、出荷時から当該製品の支配が顧客に移転される時までの期間が通常の期間であるため、収益認識に関する会計基準の適用指針第98項に規定の出荷基準等の取扱いを適用し、出荷時点で収益を認識しております。

収益は顧客との契約において約束された対価から、返品、値引きおよび割戻し等を控除した収益に重大な戻入れが生じない可能性が高い範囲内の金額で算定しております。なお、約束された対価は、履行義務の充足時点から主として1年以内に回収しており、重大な金融要素は含まれておりません。

当社が代理人として関与した取引については、純額で収益を認識しております。

5. その他の財務諸表作成のための基本となる重要な事項

ヘッジ会計の処理

繰延ヘッジ処理によっております。なお、為替予約等が付されている外貨建金銭債権債務等については、振当処理の要件を満たしている場合は振当処理を採用しております。

(重要な会計上の見積り)

固定資産の減損

(1) 当事業年度の財務諸表に計上した金額

(単位：百万円)

	前事業年度 (2023年3月31日)	当事業年度 (2024年3月31日)
減損損失	-	55
有形・無形固定資産	43,230	54,360

(2) 識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する情報

連結財務諸表の注記事項(重要な会計上の見積り)に同一の内容を記載しているため、注記を省略しております。

(追加情報)

株式給付信託(BBT)

連結財務諸表の注記事項(追加情報)に同一の内容を記載しているため、注記を省略しております。

(貸借対照表関係)

1 有形固定資産の取得価額から控除している国庫補助金等による圧縮記帳累計額は、次のとおりであります。

	前事業年度 (2023年3月31日)	当事業年度 (2024年3月31日)
建物	462百万円	462百万円
構築物	18	18
機械及び装置	414	414
工具、器具及び備品	20	13
計	916	908

2 関係会社に対する金銭債権および金銭債務は、次のとおりであります。

	前事業年度 (2023年3月31日)	当事業年度 (2024年3月31日)
短期金銭債権	26,800百万円	28,035百万円
長期金銭債権	352	861
短期金銭債務	25,972	23,780
長期金銭債務	119	119

3 保証債務

(1)関係会社等の金融機関からの借入等に対し、債務保証を行っております。

	前事業年度 (2023年3月31日)	当事業年度 (2024年3月31日)
PT.NOF MAS CHEMICAL INDUSTRIES	1,522百万円	PT.NOF MAS CHEMICAL INDUSTRIES 1,423百万円
NOF EUROPE GmbH	4	NOF EUROPE GmbH -
計	1,526	計 1,423

(2)関係会社の債権流動化に対し、債務保証を行っております。

	前事業年度 (2023年3月31日)	当事業年度 (2024年3月31日)
油化産業(株)他1社	503百万円	油化産業(株)他1社 428百万円

4 債権流動化に伴う買戻義務は、次のとおりであります。

	前事業年度 (2023年3月31日)	当事業年度 (2024年3月31日)
債権流動化に伴う買戻義務	1,183百万円	1,319百万円

5 当社は、グループ全体の効率的な資金運用・調達を行うため、キャッシュ・マネジメント・システム(以下「CMS」)を導入しており、複数のグループ会社とのCMS基本契約を締結し、CMSによる貸付限度額を設定しております。この契約に基づく事業年度末の貸付未実行残高は次のとおりであります。

	前事業年度 (2023年3月31日)	当事業年度 (2024年3月31日)
CMSによる貸付限度額総額	13,780百万円	14,780百万円
貸付実行残高	6,560	9,831
差引額	7,219	4,948

6 当社においては、運転資金の効率的な調達を行うため主要取引金融機関とコミットメントライン契約を締結しております。当事業年度末におけるコミットメントライン契約の総額および借入未実行残高等は次のとおりであります。

	前事業年度 (2023年3月31日)	当事業年度 (2024年3月31日)
コミットメントライン契約の総額	5,000百万円	5,000百万円
借入実行残高	-	-
差引額	5,000	5,000

(損益計算書関係)

1 関係会社との取引に係るものが次のとおり含まれております。

	前事業年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)	当事業年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)
売上高	60,063百万円	58,176百万円
仕入高	10,672	11,942
その他の営業取引高	8,063	8,034
営業取引以外の取引高	3,989	6,900

2 販売費に属する費用のおおよその割合は前事業年度39%、当事業年度34%、一般管理費に属する費用のおおよその割合は前事業年度61%、当事業年度66%であります。

販売費及び一般管理費のうち主要な費目および金額は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)	当事業年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)
発送配達費	4,811百万円	4,568百万円
給料手当及び賞与	4,032	4,154
退職給付費用	210	203
賞与引当金繰入額	767	770
研究開発費	4,080	4,577
減価償却費	235	355

(有価証券関係)

子会社株式および関連会社株式(当事業年度の貸借対照表計上額は子会社株式12,243百万円、関連会社株式111百万円、前事業年度の貸借対照表計上額は子会社株式12,243百万円、関連会社株式111百万円)は、市場価格のない株式等のため、記載しておりません。

## ( 税効果会計関係 )

## 1. 繰延税金資産および繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 ( 2023年 3月31日 )	当事業年度 ( 2024年 3月31日 )
繰延税金資産		
賞与引当金	749百万円	757百万円
退職給付引当金	757	745
棚卸資産評価損	154	487
未払事業税	428	328
減損損失	204	135
執行役員退職慰労引当金	16	4
未払費用	11	9
ゴルフ会員権評価損	22	20
資産除去債務	166	166
関係会社株式および投資有価証券評価損	292	292
現物分配によるみなし配当	2,125	2,125
その他	822	832
繰延税金資産小計	5,751	5,906
評価性引当額	2,582	2,581
繰延税金資産合計	3,168	3,324
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金	9,026	11,320
固定資産圧縮積立金	1,473	1,426
退職給付信託設定益	633	633
その他	157	126
繰延税金負債合計	11,291	13,508
繰延税金資産（負債）の純額	8,122	10,183

## 2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 ( 2023年 3月31日 )	当事業年度 ( 2024年 3月31日 )
法定実効税率	31.0%	31.0%
( 調整 )		
税額控除	1.2	1.5
受取配当金等益金不算入項目	2.8	4.8
その他	0.2	0.3
税効果会計適用後の法人税等の負担率	26.8	25.0

## ( 収益認識関係 )

顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報は、連結財務諸表「注記事項（収益認識関係）」に同一の内容を記載しているため、注記を省略しております。

## ( 重要な後発事象 )

「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等（1）連結財務諸表 注記事項（重要な後発事象）」に記載しておりますので、注記を省略しております。

【附属明細表】

【有形固定資産等明細表】

(単位：百万円)

区分	資産の種類	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期償却額	当期末残高	減価償却累計額
有形固定資産	建物	12,960	2,704	27 (6)	1,025	14,612	23,198
	構築物	3,900	346	1 (-)	345	3,899	12,299
	機械及び装置	9,281	3,884	58 (30)	2,372	10,734	68,619
	車両運搬具	24	25	0 (-)	11	38	505
	工具、器具及び備品	1,583	988	15 (14)	668	1,888	9,701
	土地	11,437	3	- (-)	-	11,440	-
	リース資産	13	24	- (-)	6	32	14
	建設仮勘定	3,263	14,884	7,808	-	10,339	-
	計	42,465	22,862	7,911 (51)	4,429	52,986	114,339
無形固定資産	借地権	126	-	- (-)	-	126	-
	ソフトウェア	608	347	- (-)	196	759	-
	リース資産	-	527	- (-)	70	456	-
	その他	28	4	- (-)	2	30	-
	計	764	879	- (-)	270	1,373	-
長期前払費用	長期前払費用	708	481	449 (4)	185	553	-

(注) 1 「当期減少額」欄の( )内は内数で、減損損失の計上額であります。

2 当期増加額の主なものは、次のとおりであります。

建物	本社 福利厚生設備の更新	1,536百万円
機械装置	愛知事業所 ライフサイエンス製品製造設備の新設	1,170百万円
機械装置	尼崎工場 機能化学品研究設備の新設	556百万円
機械装置	愛知事業所 火薬・加工品製造設備の増強	321百万円
ソフトウェア	本社 基幹システム用情報インフラの強化	258百万円

【引当金明細表】

(単位：百万円)

科目	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
貸倒引当金	22	30	22	30
賞与引当金	2,417	2,443	2,417	2,443
執行役員退職慰労引当金	53	2	43	13

(2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3) 【その他】

該当事項はありません。

## 第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	9月30日、3月31日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り・売渡し	
取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目3番3号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
株主名簿管理人 兼 特別口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目3番3号 みずほ信託銀行株式会社
特別口座管理機関取次所	みずほ信託銀行株式会社 全国各支店
買取・売渡手数料	無料
公告掲載方法	電子公告の方法により行う。ただし、やむを得ない事由により電子公告を することができない場合は、日本経済新聞に掲載して行う。 公告掲載URL ( <a href="https://www.nof.co.jp/">https://www.nof.co.jp/</a> )
株主に対する特典	該当事項はありません。

(注) 当社定款の定めにより、単元未満株主は、会社法第189条第2項各号に掲げる権利、会社法第166条第1項の規定による請求をする権利、株主の有する株式数に応じて募集株式の割当ておよび募集新株予約権の割当てを受ける権利ならびに単元未満株式の売渡し請求をする権利以外の権利を有していません。

## 第7【提出会社の参考情報】

### 1【提出会社の親会社等の情報】

当社は、金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

### 2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

- |   |                 |                               |  |
|---|-----------------|-------------------------------|--|
| (1) 有価証券報告書<br>およびその添付書類<br>ならびに確認書                                   | 事業年度<br>(第100期) | 自 2022年4月1日<br>至 2023年3月31日   | 2023年6月27日<br>関東財務局長に提出  |
| (2) 内部統制報告書<br>およびその添付書類  |                 |                               | 2023年6月27日<br>関東財務局長に提出  |
| (3) 四半期報告書<br>および確認書  | (第101期第1四半期)    | 自 2023年4月1日<br>至 2023年6月30日   | 2023年8月10日<br>関東財務局長に提出  |
|   | (第101期第2四半期)    | 自 2023年7月1日<br>至 2023年9月30日   | 2023年11月14日<br>関東財務局長に提出   |
|   | (第101期第3四半期)    | 自 2023年10月1日<br>至 2023年12月31日 | 2024年2月14日<br>関東財務局長に提出  |
| (4) 臨時報告書   |                 |                               |  |
| 金融商品取引法第24条の5第4項および企業内容等の開示に関する内閣府令<br>第19条第2項第9号の規定に基づく臨時報告書であります。   |                 |                               | 2023年6月27日<br>関東財務局長に提出  |
| 金融商品取引法第24条の5第4項および企業内容等の開示に関する内閣府令<br>第19条第2項第9号の2の規定に基づく臨時報告書であります。 |                 |                               | 2023年6月28日<br>関東財務局長に提出  |
| (5) 自己株券買付状況報告書   |                 |                               | 2023年7月13日<br>関東財務局長に提出<br>2023年12月8日<br>関東財務局長に提出<br>2024年1月12日<br>関東財務局長に提出<br>2024年2月15日<br>関東財務局長に提出<br>2024年3月11日<br>関東財務局長に提出<br>2024年4月12日<br>関東財務局長に提出<br>2024年6月3日<br>関東財務局長に提出 |

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

2024年 6月27日

日油株式会社

取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人

東京事務所

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 狩野 茂行

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 川脇 哲也

< 連結財務諸表監査 >

監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている日油株式会社の2023年4月1日から2024年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、日油株式会社及び連結子会社の2024年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「連結財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

## 監査上の主要な検討事項

監査上の主要な検討事項とは、当連結会計年度の連結財務諸表の監査において、監査人が職業的専門家として特に重要であると判断した事項である。監査上の主要な検討事項は、連結財務諸表全体に対する監査の実施過程及び監査意見の形成において対応した事項であり、当監査法人は、当該事項に対して個別に意見を表明するものではない。

医薬・医療・健康事業における収益認識	
監査上の主要な検討事項の内容及び決定理由	監査上の対応
<p>注記事項（セグメント情報等）に記載されているとおり、会社は、当連結会計年度に、医薬・医療・健康事業において、外部顧客への売上高を53,998百万円計上している。</p> <p>医薬・医療・健康事業は、食用加工油脂、食品機能材、健康関連製品、生体適合性素材、DDS医薬用製剤原料等の製造及び販売を行っている。医薬・医療・健康事業の中には、相対的に利益率が高く、また、その多くが海外顧客への販売である取引があり、会社は契約書又は注文書に規定された取引条件に基づいて収益を計上している。</p> <p>これらの取引については、取引条件ごとに収益を認識する時期を検討する必要がある。また、相対的に利益率が高いことから連結財務諸表に及ぼす影響が大きくなる。そのため、当監査法人は当該事項を監査上の主要な検討事項に該当するものと判断した。</p>	<p>当監査法人は、監査上の主要な検討事項に該当すると判断した医薬・医療・健康事業の取引について収益認識を検討するにあたり、主として以下の監査手続を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・販売プロセスを理解し、内部統制のデザインを評価し、内部統制の運用状況をテストした。</li> <li>・販売取引の概要及び取引条件を理解するために、経営者及び管轄事業部の担当者と議論した。</li> <li>・販売取引の収益を認識する時期が取引条件と整合しているかを評価するため、金額的に重要な取引及びランダムに抽出した取引について、契約書又は注文書、出荷関連書類、運送会社・輸出業者のデリバリー記録を閲覧した。</li> <li>・期末日を基準日として、リスク及び金額的重要性に基づいて抽出した売掛金残高に関して、確認手続を実施した。</li> </ul>

## その他の記載内容

その他の記載内容は、有価証券報告書に含まれる情報のうち、連結財務諸表及び財務諸表並びにこれらの監査報告書以外の情報である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監査等委員会の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

当監査法人の連結財務諸表に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

連結財務諸表監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と連結財務諸表又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

## 連結財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

## 連結財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての連結財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、連結財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。

- ・ 連結財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として連結財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、連結財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。
- ・ 連結財務諸表に対する意見を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する十分かつ適切な監査証拠を入手する。監査人は、連結財務諸表の監査に関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査意見に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

監査人は、監査等委員会と協議した事項のうち、当連結会計年度の連結財務諸表の監査で特に重要であると判断した事項を監査上の主要な検討事項と決定し、監査報告書において記載する。ただし、法令等により当該事項の公表が禁止されている場合や、極めて限定的ではあるが、監査報告書において報告することにより生じる不利益が公共の利益を上回ると合理的に見込まれるため、監査人が報告すべきでないと判断した場合は、当該事項を記載しない。

#### < 内部統制監査 >

##### 監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、日油株式会社の2024年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

当監査法人は、日油株式会社が2024年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

##### 監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準における当監査法人の責任は、「内部統制監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

##### 内部統制報告書に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

監査等委員会の責任は、財務報告に係る内部統制の整備及び運用状況を監視、検証することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

##### 内部統制監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した内部統制監査に基づいて、内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、内部統制監査報告書において独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための監査手続を実施する。内部統制監査の監査手続は、監査人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。

- ・ 財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討する。
- ・ 内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果に関する十分かつ適切な監査証拠を入手する。監査人は、内部統制報告書の監査に関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査意見に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した内部統制監査の範囲とその実施時期、内部統制監査の実施結果、識別した内部統制の開示すべき重要な不備、その是正結果、及び内部統制の監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

#### < 報酬関連情報 >

当監査法人及び当監査法人と同一のネットワークに属する者に対する、会社及び子会社の監査証明業務に基づく報酬及び非監査業務に基づく報酬の額は、「提出会社の状況」に含まれるコーポレート・ガバナンスの状況等(3)【監査の状況】に記載されている。

#### 利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

---

(注) 1 . 上記の監査報告書の原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。

2 . X B R L データは監査の対象には含まれていません。

## 独立監査人の監査報告書

2024年6月27日

日油株式会社

取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人

東京事務所

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 狩野 茂行

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 川脇 哲也

### < 財務諸表監査 >

#### 監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている日油株式会社の2023年4月1日から2024年3月31日までの第101期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、日油株式会社の2024年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 監査上の主要な検討事項

監査上の主要な検討事項とは、当事業年度の財務諸表の監査において、監査人が職業的専門家として特に重要であると判断した事項である。監査上の主要な検討事項は、財務諸表全体に対する監査の実施過程及び監査意見の形成において対応した事項であり、当監査法人は、当該事項に対して個別に意見を表明するものではない。

#### 医薬・医療・健康事業における収益認識

連結財務諸表の監査報告書に記載されている監査上の主要な検討事項（医薬・医療・健康事業における収益認識）と同一の内容であるため、記載を省略している。

#### その他の記載内容

その他の記載内容は、有価証券報告書に含まれる情報のうち、連結財務諸表及び財務諸表並びにこれらの監査報告書以外の情報である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監査等委員会の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

当監査法人の財務諸表に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

財務諸表監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と財務諸表又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうかを検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

#### 財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

#### 財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

監査人は、監査等委員会と協議した事項のうち、当事業年度の財務諸表の監査で特に重要であると判断した事項を監査上の主要な検討事項と決定し、監査報告書において記載する。ただし、法令等により当該事項の公表が禁止されている場合や、極めて限定的ではあるが、監査報告書において報告することにより生じる不利益が公共の利益を上回ると合理的に見込まれるため、監査人が報告すべきでないと判断した場合は、当該事項を記載しない。

#### < 報酬関連情報 >

報酬関連情報は、連結財務諸表の監査報告書に記載されている。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1 . 上記の監査報告書の原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。

2 . X B R L データは監査の対象には含まれていません。